

VERITAS NetBackup™ 3.4 User's Guide

Microsoft Windows 95/98/2000/NT (日本語版)

2001年1月
P/N 30-000076-011


VERITAS

免責事項

本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。VERITAS Software Corporation は、本書に関して、商品性や特定目的に対する適合性の黙示保証などの一切の保証を行いません。VERITAS Software Corporation は、本書に含まれるエラーや本書の提供、遂行、または使用に伴う付随的または間接的な損害に対して一切の責任を負わないものとします。

著作権

Copyright © 1993-2000 VERITAS Software Corporation. All rights reserved. VERITAS は、米国およびその他の国における VERITAS Software Corporation の登録商標です。VERITAS のロゴ、VERITASNetBackup、および VERITASNetBackup BusinessServer は、VERITAS Software Corporation の商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本ソフトウェアの一部は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message-Digest Algorithm から派生したものです。Copyright 1991-92, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.

Printed in the USA, January 2001.

VERITAS Software Corporation
1600 Plymouth St.
Mountain View, CA 94043
Phone 650-335-8000
FAX 650-335-8050
www.veritas.com

目次

本書について	ix
本書の構成	ix
関連マニュアル	x
表記規則	xi
表記スタイル	xi
「注」と「注意」	xi
キーの組み合わせ	xi
コマンドの書式	xii
テクニカル サポート	xii
第1章 はじめに	1
バックアップおよびアーカイブ操作	2
ユーザー指定のバックアップおよびアーカイブ	2
サーバー指定のバックアップおよびアーカイブ	2
フルバックアップ	2
累積インクリメンタルバックアップ	3
差分インクリメンタルバックアップ	3
トウルー イメージバックアップ	3
リストア操作	4
ファイル アクセス権および開いているファイル	4
アクセス制御リスト	4
サーバー指定のリストア	4
ユーザー指定のリストア	5
別のクライアントへのリストア	5

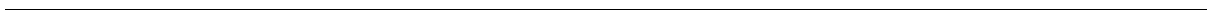
ツール イメージバックアップからのリストア	5
ステータスの表示	6
NetBackup に必要なファイル アクセス権	6
第 2 章 ユーザー指定の操作	9
ブラウザの起動	9
バックアップまたはアーカイブの実行	11
Windows/Windows NT のエクスプローラを使用してファイルを バックアップする	11
NetBackup ブラウザを使用してファイルをバックアップする	12
共有フォルダのバックアップ	17
リストアの実行	18
ユーザー指定の操作のステータスの表示	26
高度なリストア手順	28
バックアップ日付を指定したリストア	28
リストアするファイルの検索	28
フォルダまたはファイルの旧バージョンのリストア	29
フォルダのツール イメージのリストア	30
ツール イメージのリストアとは	30
ツール イメージのリストアおよび上書き	32
ツール イメージのリストア手順	32
別のパスへのファイルのリストア	33
別の場所へのすべてのリストア	33
別の場所への個々の項目のリストア	34
一時的なファイル名を使用したリストア	36
プロキシ リストア	37
第 3 章 リファレンス	41
NetBackup のアイコン	41
メニュー	42
[ファイル] メニュー	42

[アクション] メニュー	42
[編集] メニュー	44
[表示] メニュー	45
[バックアップ] メニュー	47
[リストア] メニュー	48
[ウィンドウ] メニュー	50
[ヘルプ] メニュー	50
ウィンドウ	52
NetBackup のウィンドウのアイコン	52
[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウ	54
NetBackup バックアップ ウィンドウ	55
ボタン	55
ペイン	56
NetBackup リストア ウィンドウ	57
ボタン	58
ペイン	59
[NetBackup 履歴] ペイン	59
ダイアログ ボックス	63
[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス	63
[一般] プロパティ シート	63
[除外リスト] プロパティ シート	64
[取り込みリスト] プロパティ シート	65
[バックアップ] プロパティ シート	65
[ネットワーク] プロパティ シート	66
[ウイルス保護] プロパティ シート	67
[トラブルシューティング] プロパティ シート	69
[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス	70
[サーバー] プロパティ シート	70
[クライアント] プロパティ シート	72
[ステータスの表示] ダイアログ ボックス	75

[プレビューリスト] ダイアログ ボックス	78
[ツールバー オプション] ダイアログ ボックス	79
[バックアップ クラスとスケジュール] ダイアログ ボックス	80
[バックアップ] プロパティ シート	80
[バックアップの検索] ダイアログ ボックス	82
[バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックス	84
[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックス	86
[NetBackup クライアント Job Tracker] ダイアログ ボックス	89
付録 A システム管理者	93
フリーブラウズ	93
別のクライアントへのリストア	96
システム管理者が使用する NetBackup の [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス	105
[NetBackup マシンの指定] の [サーバー] プロパティ シート	105
[ソース クライアント] プロパティ シート	105
[デスティネーション クライアント] プロパティ シート	107
[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス	109
[一般] プロパティ シート	109
[除外リスト] プロパティ シート	112
[取り込みリスト] プロパティ シート	114
[ネットワーク] プロパティ シート	116
[トラブルシューティング] プロパティ シート	117
トラブルシューティング ログ	119
除外リストおよび取り込み リストの構文規則	120
構文規則	120
除外リストの例	122
付録 B NetBackup のコマンド	123
NetBackup のコマンドについて	123
bparchive	124

bpbackup	128
bplist	134
bprestore	139
xbp (1)	147
用語集	149
索引	177





本書について

本書は、エンド ユーザーとシステム管理者を対象としています。NetBackup を使用して Microsoft Windows PC 上のフォルダをバックアップおよびリストアする方法について説明します。

本書の構成

本書は、必要な情報をすばやく見つけることができるように構成されています。以下に、本書の構成を示します。

表 1.

章	説明
はじめに	NetBackup の概要、エンド ユーザーによる NetBackup の操作方法、および技術的な用語と概念について説明します。この章を読んで NetBackup の理解を深めてください。
ユーザー指定の操作	NetBackup を使用して、バックアップ、アーカイブ、およびリストアの各操作を行う方法について説明します。
リファレンス	NetBackup のさまざまなウィンドウ、画面、およびメニューについて説明します。
システム管理者 NetBackup のコマンド	NetBackup システム管理者向けの重要な情報を記載しています。 NetBackup クライアントで使用可能なコマンドの詳細な一覧です。

関連マニュアル

関連マニュアル

関連情報については、以下のマニュアルを参照してください。NetBackup のマニュアルの一覧については、『NetBackup Release Notes』を参照してください。

◆ 『NetBackup Installation Guide - PC Clients』

NetBackup PC クライアント ソフトウェアのインストール方法が説明されています。PC クライアントは、Windows NT/2000、Windows 95、Windows 98、Macintosh、OS/2 Warp、および Novell NetWare に対応しています。

UNIX サーバを使用している場合は、以下のマニュアルを参照してください。

◆ 『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報（サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項など）が掲載されています。

◆ 『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX システムで NetBackup の Datacenter を設定し、管理する方法が説明されています。

◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX サーバで NetBackup の BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。

◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』

UNIX ベースの NetBackup 製品に関するトラブルシューティング情報が掲載されています。

Windows NT/2000 サーバを使用している場合は、以下のマニュアルを参照してください。

◆ 『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報（サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項など）が掲載されています。

◆ 『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT Server』

Windows NT/2000 のサーバ システムで NetBackup の Datacenter を設定し、管理する方法が説明されています。

◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - Windows NT Server』

Windows NT/2000 のサーバ システムで NetBackup の BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。

◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』

Windows NT/2000 ベースの NetBackup 製品に関するトラブルシューティング情報が掲載されています。

表記規則

本書は、以下の表記規則に従って記述されています。

表記スタイル

表 2. 表記規則

表記	用途
英字等幅フォントの太字	入力文字。例:ディレクトリを変更するには「 cd 」と入力します。
英字等幅フォント	パス、コマンド、ファイル名、または出力文字。例:デフォルトのインストールディレクトリは /opt/VRTSxxx です。
『』	ドキュメントなどのタイトル。
「」	章や項目のタイトル、強調する用語。
英字ゴシック体 (斜体)	プレースホルダーテキストまたは変数。例: <i>filename</i> には、実際のファイル名を指定してください。
英字ゴシック体 (斜体以外)	フィールド名、メニュー項目など、グラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) のオブジェクト。例: [password] フィールドに、パスワードを入力してください。

「注」と「注意」

注 「注」では、製品をより使いやすくするための情報や、問題の発生を防ぐための情報について説明します。

注意 「注意」では、データ損失のおそれがある状態について説明します。

キーの組み合わせ

キーボードからコマンドを入力する場合、複数のキーを同時に使用することがあります。たとえば、Ctrl キーを押しながら別のキーを押す場合などが考えられます。このようなコマンドを示す場合は、次のように、各キーをプラス記号 (+) でつないで表記します。

Ctrl+T を押します。

テクニカル サポート

コマンドの書式

コマンドの用法を示す場合によく使用される表記を、以下に示します。

角かっこ []

かっこ内のコマンドライン コンポーネントは、必要に応じて指定可能なオプションです。

垂直バーまたはパイプ (|)

ユーザーが選択可能なオプションの引数を区切る場合に使用します。たとえば、次に示すコマンドでは、ユーザーが *arg1* または *arg2* のいずれかを使用できることを示します。

```
command arg1|arg2
```

テクニカル サポート

この製品に関するシステム要件、サポートされているプラットフォーム、サポートされている周辺機器、テクニカル サポートから入手できる最新のパッチなどの最新情報については、弊社の Web サイトをご利用ください。

<http://www.veritas.com/jp> (日本語)

<http://www.veritas.com/> (英語)

製品に関するサポートは、VERITAS テクニカル サポートまでお問い合わせください。

電話 : (03)3509-9210

FAX : (03)5532-8209

VERITAS カスタマ サポートへのお問い合わせの際は、次の電子メール アドレスもご利用いただけます。

support.jp-es@veritas.com

はじめに

1

インストール中に、NetBackup ブラウザは特定の NetBackup クライアントで動作するように設定されます。ユーザーが NetBackup ブラウザを使用して操作を開始すると、ブラウザソフトウェアによって適切なメッセージが指定された NetBackup クライアントに送信されます。NetBackup クライアント上のソフトウェアは、サーバーと通信し、クライアント側の操作を処理します。

NetBackup クライアント ソフトウェアは、NetBackup クライアント上に存在するフォルダ全体または個別のファイルについて、サーバー指定のバックアップ、アーカイブ、およびリストア操作を有効にします。また、このソフトウェアによって、NetBackup マスターサーバーにログインすることなく、NetBackup クライアント上でユーザー指定のバックアップ、アーカイブ、およびリストア操作を実行することもできます。ユーザー指定の操作を開始すると、NetBackup マスターサーバーの制御の下で NetBackup プロセスが実行されます。ユーザーがサービスを要求すると、NetBackup マスターサーバーによって、データの格納や取り出しなど、残りの処理が行われます。

NetBackup では、バックアップやリストアの対象とするシステムを NetBackup クライアントと呼びます。また、バックアップデータの保管と取り出しを管理するシステムを NetBackup マスターサーバーと呼びます。

バックアップおよびアーカイブ操作

バックアップおよびアーカイブ操作

バックアップ操作では、選択したファイルおよびフォルダのコピーが、NetBackup クライアントから NetBackup マスター サーバーまたは NetBackup メディア サーバー上のストレージ デバイスにコピーされます。

アーカイブ操作では、選択したファイルおよびフォルダのコピーが NetBackup マスター サーバーまたは NetBackup メディア サーバー上のストレージ デバイスにコピーされた後、NetBackup クライアント上から元のファイルが削除されます。

ユーザー指定のバックアップおよびアーカイブ

NetBackup システム管理者によってスケジュールされている時間に、ユーザー指定のバックアップを実行することができます。NetBackup では、ファイル、フォルダとファイル、またはドライブ全体の組み合わせを選択してバックアップすることができます。

ファイルのバックアップは、NetBackup クライアントのインターフェース、または NetBackup エクスプローラー エクステンションをインストールして有効にしている場合は Windows のエクスプローラで実行できます。

サーバー指定のバックアップおよびアーカイブ

NetBackup 管理者は、フル バックアップおよびインクリメンタル バックアップを、NetBackup マスター サーバーの制御の下で、自動的に無人で実行されるようにスケジュールすることができます。フル バックアップ、インクリメンタル バックアップ、トゥルー イメージ バックアップは、NetBackup マスター サーバーでのみ実行できます。正しくスケジュールされている場合、サーバー指定のバックアップによってほとんどのバックアップの要求が満たされます。

注 Windows 版 NetBackup の以前のバージョンでは、一部のアプリケーションを開いたままにするとファイルがロックされるため、サーバー指定のバックアップが正常に実行されないことがありました。NetBackup DataCenter に含まれている OTM (Open File Manager) は、この問題を解決します。OTM を無効にしている場合は、サーバー指定のバックアップを開始する前に、NetBackup クライアント上のすべてのアプリケーションをシャットダウンしてください。

BusinessServer の場合、OTM は別売りのオプションです。

フル バックアップ

NetBackup マスター サーバーがフル バックアップを実行するように設定されている場合は、指定したフォルダやドライブ内のすべてのファイルがストレージ ユニットにバックアップされます。各ファイルは、バックアップされるとアーカイブ ビットがクリアされます。フル バックアップに失敗した場合、正常に完了するまで、毎日同じ時刻にフル バックアップが実行されます。バックアップが正常に完了すると、すべてのファイルがバックアップされます。

累積インクリメンタル バックアップ

NetBackup マスター サーバーが累積インクリメンタル バックアップを実行するように設定されている場合は、前回フル バックアップが正常に実行された後に変更されたすべてのファイルがバックアップされます。

累積インクリメンタル バックアップでは、日付と時刻のスタンプまたはアーカイブ ビットのいずれかを使用するように設定できます。日付と時刻のスタンプを使用する場合、前回フル バックアップを実行したときよりも後の日付と時刻のスタンプを持つすべてのファイルが累積インクリメンタル バックアップに含まれます。アーカイブ ビットを使用する場合は、アーカイブ ビットがセットされているすべてのファイルが累積インクリメンタル バックアップに含まれます。累積インクリメンタル バックアップでは、アーカイブ ビットはクリアされません。アーカイブ ビットを使用するインクリメンタル バックアップの実行の詳細については、「[一般] プロパティ シート (63 ページ)」を参照してください。

差分インクリメンタル バックアップ

NetBackup マスター サーバーが差分インクリメンタル バックアップを実行するように設定されている場合は、前回バックアップが正常に実行された後に変更されたすべてのファイルがバックアップされます。

差分インクリメンタル バックアップでは、日付と時刻のスタンプまたはアーカイブ ビットのいずれかを使用するように設定できます。日付と時刻のスタンプを使用する場合、前回フル バックアップまたはインクリメンタル バックアップを実行したときよりも後の日付と時刻のスタンプを持つすべてのファイルが差分インクリメンタル バックアップに含まれます。アーカイブ ビットを使用する場合は、アーカイブ ビットがセットされているすべてのファイルが差分インクリメンタル バックアップに含まれます。差分インクリメンタル バックアップでは、ファイルが正常にバックアップされるとアーカイブ ビットはクリアされます。アーカイブ ビットを使用するインクリメンタル バックアップの実行の詳細については、「[一般] プロパティ シート (63 ページ)」を参照してください。

ツール イメージ バックアップ

ツール イメージ バックアップは、NetBackup マスター サーバーでツール イメージ リストア情報の属性が設定されている場合に実行されます。この属性が設定されている場合、NetBackup によって、フォルダをフル バックアップまたはインクリメンタル バックアップの実行時の状態にリストアするために必要な追加情報が収集されます。

ツール イメージ リストアで使用できるのは、NetBackup マスター サーバーでツール イメージ リカバリ情報の属性を設定して実行されたバックアップだけです。詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

リストア操作

リストア操作

リストア操作では、NetBackup マスター サーバーまたは NetBackup メディア サーバー上のストレージ デバイスからバックアップが読み取られ、NetBackup クライアントにリストアされます。NetBackup では、ファイル、フォルダとファイル、またはドライブ全体の組み合わせを選択してリストアすることができます。

ファイル アクセス権および開いているファイル

ファイルをリストアするには、ファイル アクセス権がリストア先のフォルダに対して書き込みアクセス権である必要があります。NetBackup クライアントで開いているファイルと同じ名前のファイルはリストアされません。

アクセス制御リスト

Windows NT/2000 システムで、ファイルをバックアップした後でファイルに対するアクセス制御リストが変更された場合、ファイルは次のようにリストアされます。

- ◆ バックアップ後にファイルに対するアクセスを許可されていたユーザーは、リストア後はファイルにアクセスできなくなります。
- ◆ 後に削除されたファイルに対するアクセス権を持っていたユーザーは、リストア後もファイルにアクセスできます。

バックアップ後にアクセス制御リストが変更された場合は、アクセス制御リストはバックアップ時の状態にリストアされます。

サーバー指定のリストア

NetBackup マスター サーバー上で、管理者は任意の NetBackup クライアントへのリストアを指定できます (どの NetBackup クライアントのファイルであるかは関係ありません)。詳細については、「別のクライアントへのリストア (96 ページ)」を参照してください。

[一般] プロパティ シートの [サーバー主導のリストアを有効化] オプションをクリアすることによって、クライアントでサーバー指定のリストアを無効にすることができます。

ユーザー指定のリストア

リストアはいつでも開始できます。リストアされたフォルダおよびドライブには、バックアップ時にバックアップまたはアーカイブされたすべてのファイルが含まれます。**NetBackup** では、別のクライアントへのリストアやツール イメージ リストアを実行することもできます。

別のクライアントへのリストア

必要なアクセス権があり、必要な設定が行われている場合は、**NetBackup** データベースで、別の **NetBackup** クライアントによってバックアップされたファイルをブラウズしたり、ファイルを自分のコンピュータにリストアできます。

システム管理者は、ファイルをバックアップしたクライアント、または別のクライアントへのリストアを指定できます。このようなリストアはマスター サーバー上で実行する必要がありますので、サーバー指定のリストアと呼ばれます。

NetBackup サーバー上で **NetBackup** ブラウザを使用して別のクライアントにリストアする方法の詳細については、「別のクライアントへのリストア (96 ページ)」を参照してください。

ツール イメージ バックアップからのリストア

ツール イメージ バックアップからのリストアは、ツール イメージ リストア情報の属性が設定されているバックアップおよびアーカイブについてのみ実行できます。詳細については、『**NetBackup System Administrator's Guide - UNIX**』または『**NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000**』を参照してください。

フォルダのツール イメージのリストアを実行すると、前回サーバー指定のフル バックアップまたはインクリメンタル バックアップを行ったときの状態にフォルダの内容がリストアされます (デフォルト)。指定したバックアップより前に削除されたファイルはリストアされません。

フォルダのツール イメージのリストアを実行すると、フォルダに属していたファイルが特定され、これらのファイルの最新のバックアップを使用してフォルダが再構築されます。

NetBackup では、ユーザー操作の時刻に基づいたツール イメージのリストアはできません。ただし、前回のサーバー指定のフル バックアップまたはインクリメンタル バックアップ以降にユーザー指定のバックアップが行われた場合は、そのバックアップが使用されます。

ツール イメージのリストアは、不要なファイルを削除してフォルダをクリーンアップした後、クリーンアップを繰り返さずに最新のバージョンをリストアする場合などに最適です。フォルダの旧バージョンのツール イメージをリストアすることもできます。

ステータスの表示

ステータスの表示

ステータス レポートを表示、印刷、および削除できます。

NetBackup に必要なファイル アクセス権

ファイルをバックアップまたはアーカイブするには、バックアップ特権が必要です。バックアップ特権がない場合、ファイルをバックアップするにはファイルに対する読み取りアクセス権が、ファイルをアーカイブするにはファイルに対する読み取りおよび削除アクセス権が必要です（アーカイブ操作ではディスクからファイルが削除されるためです）。

ファイルやディレクトリの一覧を表示し、リストアするには、以下のアクセス権が必要です。

- ◆ ほかのユーザーが所有するディレクトリ内のファイルを一覧表示またはリストアするには、リストア特権が必要です。リストア特権がない場合は、自分自身が実行したユーザー指定のバックアップからのみリストアできます（フリーブラウズを有効にしている場合を除きます。詳細については、「フリーブラウズ (93 ページ)」を参照してください）。
- ◆ ファイルを元の場所にリストアするには、そのファイル（ファイルが存在する場合）、またはディレクトリ（ファイルが存在しない場合）に対する書き込みアクセス権が必要です。

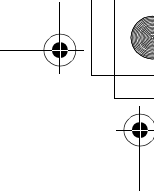
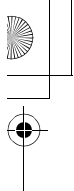
次の表は、NetBackup でのさまざまなファイルのリストア方法（ファイルやディレクトリのコピーがすでに存在する場合のリストア方法など）を示しています。

表 3. ファイル アクセス権

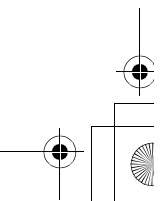
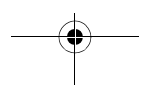
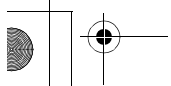
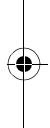
リストア方法	結果
リストアするファイルがすでに存在し、既存のファイルを上書きする場合	リストア特権がある場合、ファイルはリストアされ、バックアップ イメージと同じ所有者がファイルの所有者として設定されます。 リストア特権がない場合、ファイルに対する書き込みアクセス権がある場合にのみ、ファイルはリストアされます。ファイルは読み取り専用で設定されているが親ディレクトリへの書き込みアクセス権がある場合、ファイルは削除され、バックアップ イメージがリストアされます。リストアされたファイルの所有者には、このユーザーが設定されます。
リストアするファイルがすでに存在し、既存のファイルを上書きしない場合	リストア特権の有無に関係なく、ファイルはリストアされず、プログレス ログにメッセージが記録されます。
存在しないファイルをリストアする場合	リストア特権の有無に関係なく、ファイルはリストアされ、バックアップと同じ所有者がファイルの所有者として設定されます。

表 3. ファイル アクセス権

リストア方法	結果
リストアするファイルと同じ名前のディレクトリがある場合	リストア特権の有無に関係なく、次にシステムをリブートしたときにディレクトリがファイルに置換されることを示すメッセージがログファイルに記録されます。システムをブートした後も、ディレクトリは置換されず、ファイルは一時的なファイル名を使用して、このディレクトリの親ディレクトリにリストアされます。これは、既存のファイルへの上書きを有効にしている場合にのみ発生します。ログファイルには、このファイルに付けられた名前とファイルがリストアされたディレクトリが記録されます。
リストアするディレクトリと同じ名前のファイルがある場合	このディレクトリはリストアされません。
存在しないディレクトリ内のファイルをリストアする場合	ディレクトリが作成され、所有者として NetBackup クライアントサービスを開始するときに使用したアカウントが設定されます。ファイルは、存在しないファイルをリストアする場合（上を参照）と同じ方法でリストアされます。



NetBackupに必要なファイルアクセス権



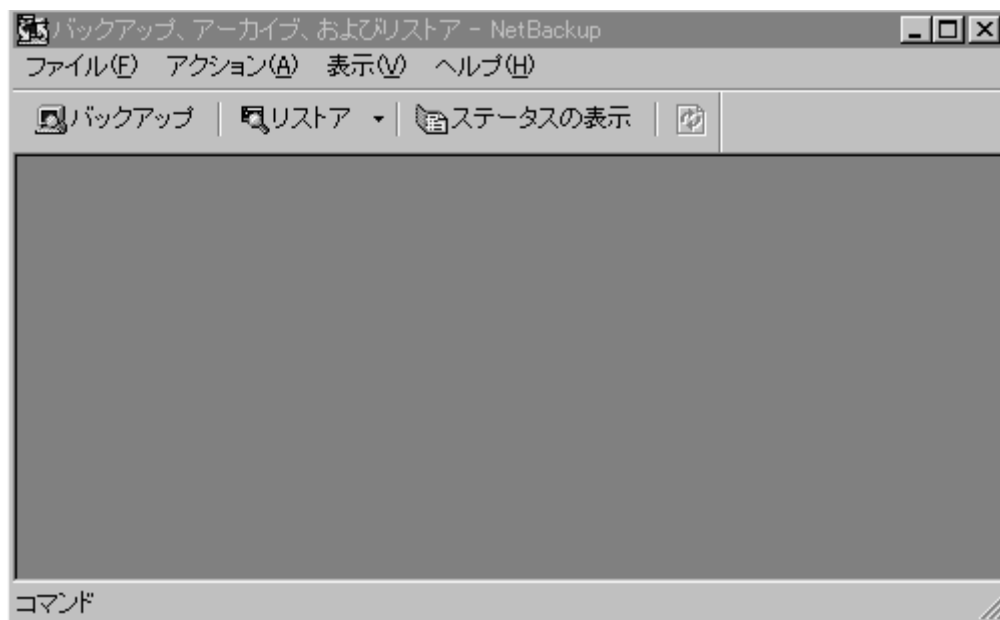
ユーザー指定の操作

2

ここでは、NetBackup ブラウザを使用してバックアップ、アーカイブおよびリストアを実行する方法を具体的な手順を追って説明します。スケジュールされたバックアップおよびその他のサーバー指定の操作の詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

ブラウザの起動

1. Windows の [スタート] メニューをクリックします。
2. [プログラム]、[VERITAS NetBackup]、[NetBackup] をクリックします。
[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。



ブラウザの起動

▼ ツールバー

多くの操作は、ツールバーのボタンを使用して簡単に実行できます。[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウの水平方向のツールバーを使用して、バックアップやリストアをブラウズするためのウィンドウを開いたり、NetBackup の操作のプログレス レポートを表示することができます。

NetBackup バックアップ ウィンドウや NetBackup リストア ウィンドウの縦方向のツールバーには、よく使用するメニュー コマンドに対応するボタンがあります。ツールバーのボタンをクリックすると、メニュー コマンドを使用した場合と同じ効果があります。縦方向のツールバーのボタンによって実行したアクションは、そのツールバーが表示されているウィンドウにのみ適用されます。

▼ ヒント

ファイルおよびフォルダの指定

- ◆ バックアップまたはリストアの対象とするファイルを指定するには、ファイルの左側にあるチェックボックスを選択します。
- ◆ バックアップまたはリストアの対象とするフォルダを指定するには、フォルダの左側にあるチェックボックスを選択します。チェックボックスにチェック マークが表示されます。チェックボックスにスラッシュ (/) が表示されている場合は、そのフォルダ内の一部のファイルまたはサブフォルダだけが指定されていることを示します。
- ◆ [<フォルダ名>の内容]ペインに表示されているすべてのファイルおよびフォルダを指定するには、[編集] メニューの [選択] をクリックします。

ファイルおよびフォルダの指定解除

- ◆ ファイルの指定を解除するには、ファイルの左側にあるチェックボックスをクリアします。
- ◆ フォルダとフォルダ内のすべてのファイルとサブフォルダの指定を解除するには、フォルダの左側にあるチェックボックスをクリアします。
- ◆ [<フォルダ名>の内容]ペインに表示されているすべてのファイルとフォルダの指定を解除するには、[編集] メニューの [選択の解除] をクリックします。
- ◆ 以前に指定したすべてのファイルとフォルダの指定を解除するには、[編集] メニューの [すべての選択の解除] を選択します。NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウのツールバーの [すべての選択の解除] を使用することもできます。

バックアップまたはアーカイブの実行

ここでは、実際に作業しながら操作を説明します。NetBackup フォルダにインストールされている readme.txt ファイルをバックアップしてみます。NetBackup ブラウザまたは Windows のエクスプローラを使用してファイルをバックアップすることができます。

Windows/Windows NT のエクスプローラを使用してファイルをバックアップする

注 Windows のエクスプローラを使用してファイルをバックアップするには、エクスプローラ エクステンションを有効にしておく必要があります。この機能を有効にするには、NetBackup を起動し、[アクション] メニューで [NetBackup エクスプローラ エクステンション] を選択します。

1. Windows/Windows NT のエクスプローラを開きます。
2. バックアップするファイルまたはフォルダをマウスの右ボタンでクリックします。
 - a. Program Files\VERITAS\NetBackup フォルダを開きます。
 - b. ReadmeCl.txt ファイルを探し、マウスの右ボタンでクリックします。
3. [バックアップ] をクリックします。
4. バックアップ操作の進行状況を表示するには、[プログレス ログを自動的に表示] をクリックします。
5. バックアップ操作を開始するには、[はい] をクリックします。

バックアップまたはアーカイブの実行

NetBackup ブラウザを使用してファイルをバックアップする

1. 「ブラウザの起動 (9 ページ)」の説明に従って NetBackup を起動します。[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。
2. NetBackup バックアップ ウィンドウを開きます。

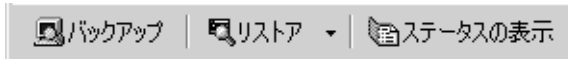
NetBackup バックアップ ウィンドウを開くには、2つの方法があります。

- ◆ [アクション] メニューの [バックアップするファイルとフォルダの選択] をクリックします。

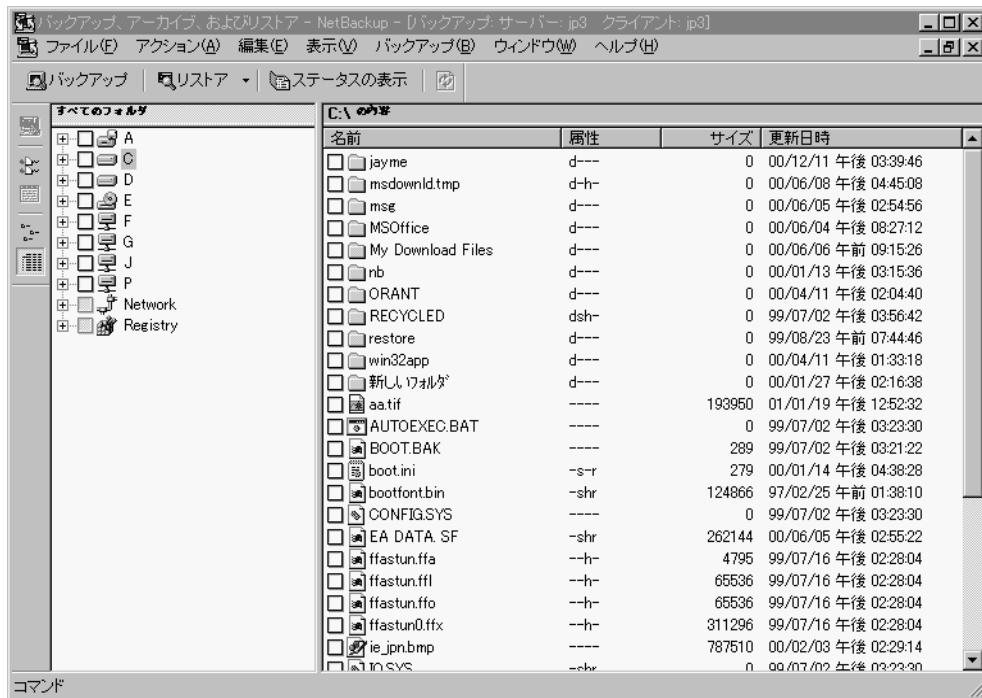


または

- ◆ [バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウの縦方向のツールバーの [バックアップ] をクリックします。



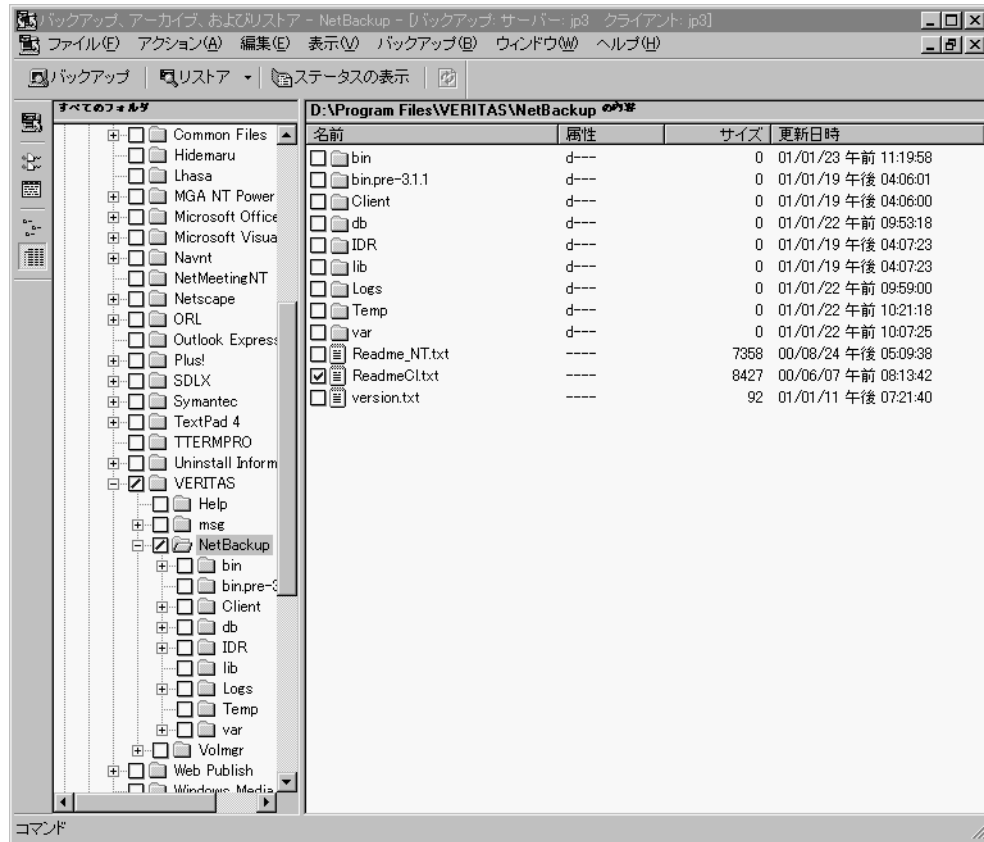
NetBackup バックアップ ウィンドウが表示されます。



3. バックアップするファイルを指定します。
 - a. Program Files\VERITAS\NetBackup フォルダを開きます。

バックアップまたはアーカイブの実行

- b. ReadmeCl.txtファイルを探し、その左側にあるチェックボックスを選択します。



4. バックアップ操作を開始します。
- a. [バックアップ] メニューの [選択したファイルのバックアップの開始] をクリックします。



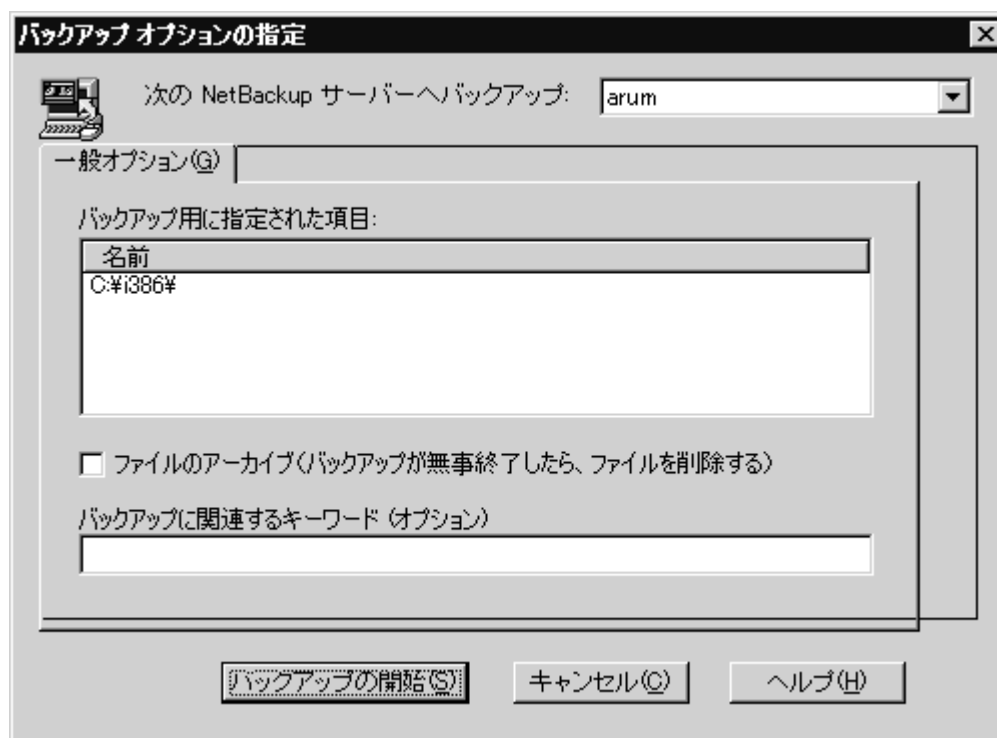
または

バックアップまたはアーカイブの実行

NetBackup バックアップ ウィンドウの縦方向のツールバーの [バックアップの開始] をクリックします。



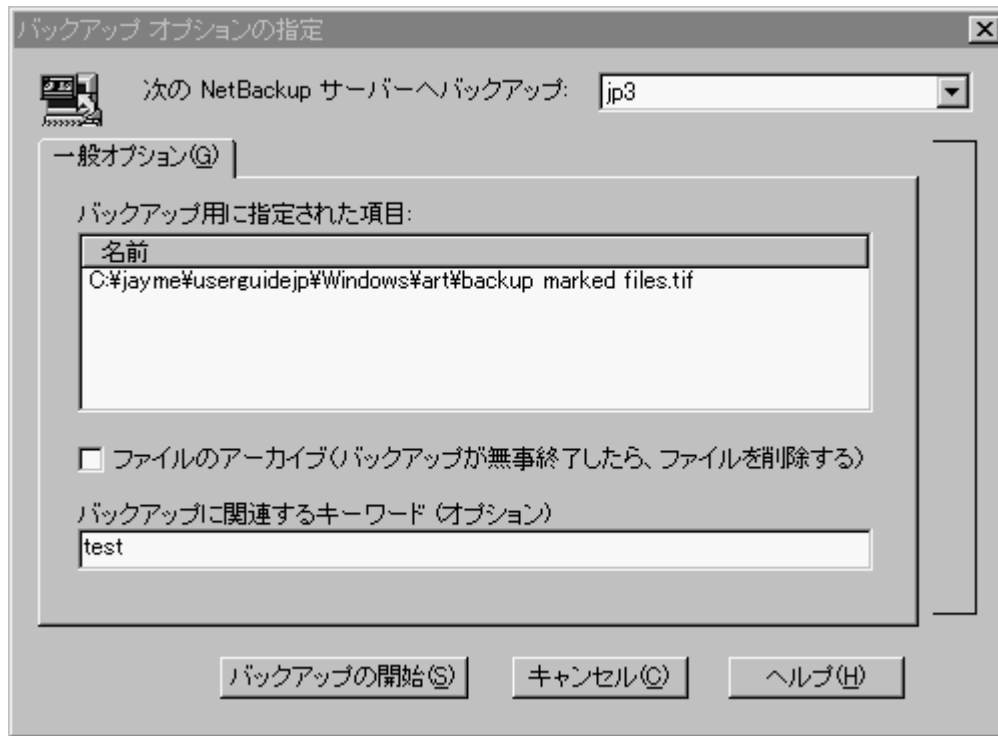
[バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックスが表示されます。



- b. [名前] リスト ボックスで、選択した内容を確認します。
- ◆ ReadmeC1.txt ファイルが表示されていない場合は、[キャンセル] をクリックします。NetBackup バックアップ ウィンドウが再び表示されます。手順 3 を繰り返します。

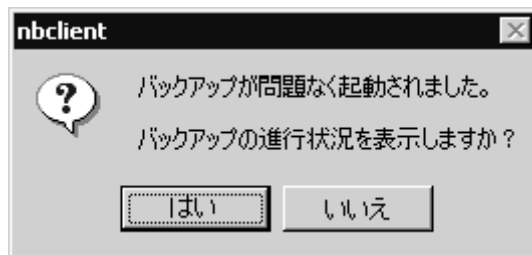
バックアップまたはアーカイブの実行

- c. [バックアップに関連するキーワード (オプション)] ボックスには、キーワードを入力します。この例では、キーワードとして「**test**」と入力します。



- d. [バックアップの開始] をクリックします。

バックアップ要求が NetBackup マスター サーバーに送信されます。バックアップが正常に開始されたことを示す NetBackup メッセージが表示されます。



- e. NetBackup メッセージのダイアログ ボックスで、[はい] をクリックして [ステータスの表示] ダイアログ ボックスを開きます。

バックアップまたはアーカイブの実行

[ステータスの表示] ダイアログ ボックスを使用すると、**NetBackup** の操作のプログレス レポートを表示できます。詳細については、「ユーザー指定の操作のステータスの表示 (26 ページ)」を参照してください。

注 **NetBackup** の処理が完了するまで数分かかることがあります。バックアップ操作が開始されたら、**NetBackup** ブラウザを閉じることができます。バックアップ操作はバックグラウンドで続行されます。

共有フォルダのバックアップ

共有フォルダのバックアップについては、『**NetBackup System Administrator's Guide**』の「ネットワークドライブをバックアップ」を参照してください。

リストアの実行

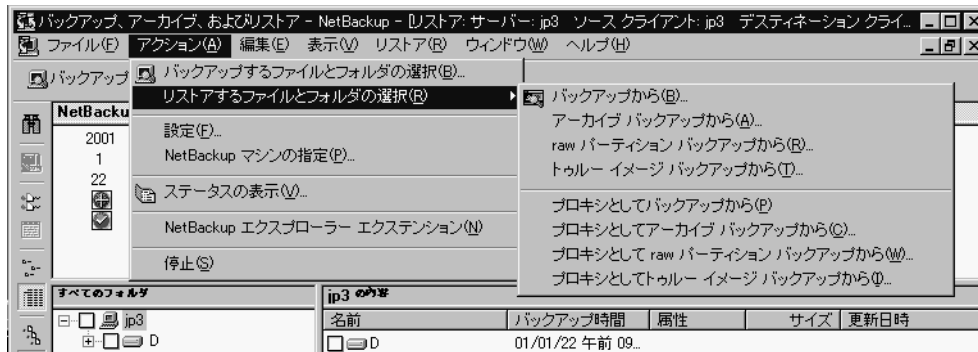
リストアの実行

ここでは、このマニュアルの「バックアップまたはアーカイブの実行 (11 ページ)」でバックアップした ReadmeC1.txt ファイルをリストアする手順を説明します。

1. 「ブラウザの起動 (9 ページ)」の説明に従って NetBackup を起動します。
2. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。

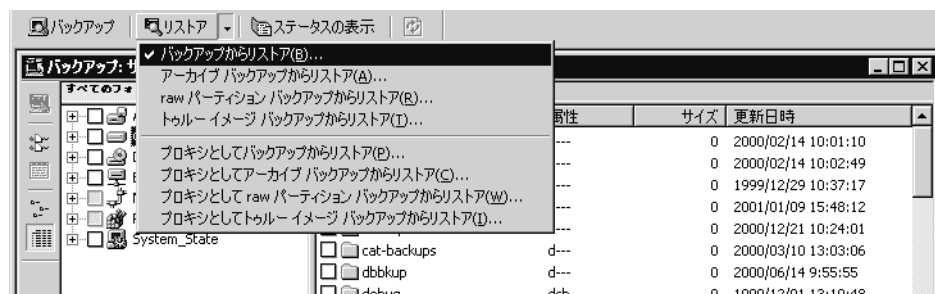
NetBackup リストア ウィンドウを開くには、2つの方法があります。

- ◆ [アクション] メニューの [リストアするファイルとフォルダの選択] をクリックし、次に [バックアップから] をクリックします。

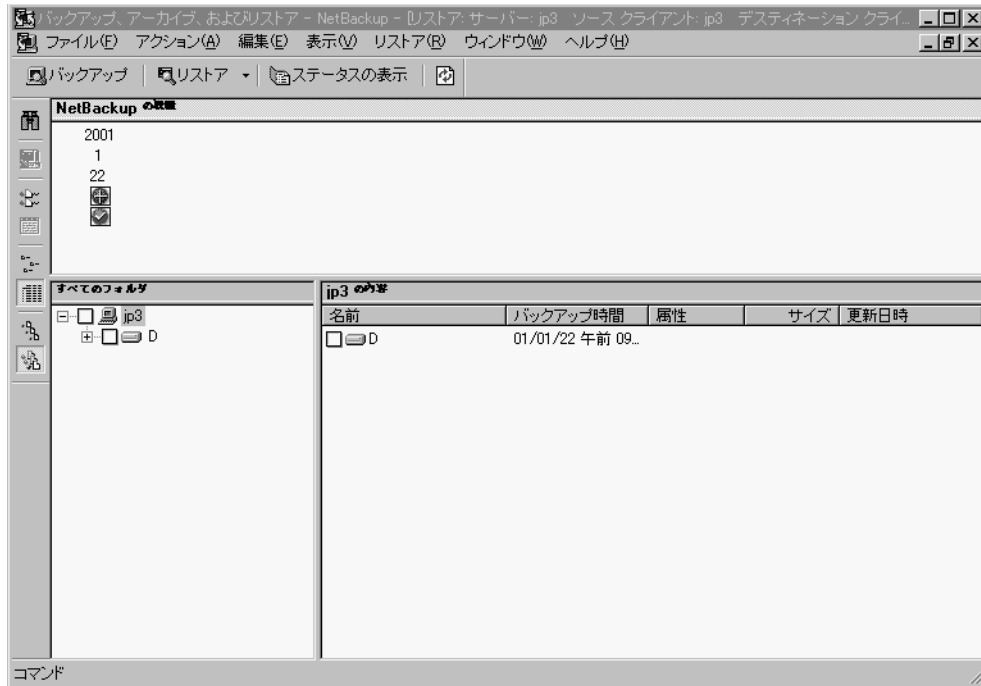


または

- ◆ 横方向のツールバーで、[リストア] ボタンの矢印をクリックし、[バックアップからリストア] を選択します。



NetBackup リストア ウィンドウが表示されます。



NetBackup リストア ウィンドウに一覧が表示されるまでに少し時間がかかる場合があります。これは、NetBackup マスターサーバー上のカタログからファイル情報を取得する必要があるためです。

NetBackup リストア ウィンドウにファイルやフォルダが表示されない場合は、次のような理由が考えられます。

- ◆ [デフォルト検索を実行] が有効になっていません。この場合は、[リストア] メニューの [バックアップの検索] をクリックして手動で検索を開始します。バックアップ内のファイルを表示する場合は、バックアップ イメージをクリックします。
- ◆ NetBackup サーバーに、このクライアントのファイルのバックアップがありません。クライアントが適切なサーバーに接続されていることを確認します（「[サーバー] プロパティシート (70 ページ)」を参照してください）。さらに、正しいクライアント名を使用していることを確認します（「[一般] プロパティシート (63 ページ)」を参照してください）。タイトルバーも参考になります。これらの設定が正しく、バックアップが確実に存在する場合は、システム管理者に問い合わせてください。

リストアの実行

3. リストアするファイルを選択します。

バックアップ イメージ (またはイメージの範囲) がわかっている場合は、[バックアップの検索] ダイアログ ボックスを表示せずに、[NetBackup 履歴] ペインで選択できます。

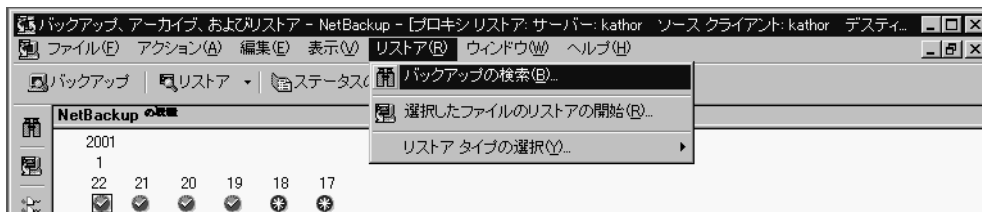
このチュートリアルでは、[バックアップの検索] 機能を使用して、「バックアップまたはアーカイブの実行 (11 ページ)」でバックアップした ReadmeC1.txt ファイルをリストアします。

ヒント 検索を開始する前に、[すべてのフォルダ] ペインのツリー表示をできる限り閉じてください。検索基準に一致するフォルダのツリーが展開されます。

a. [バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開きます。

[バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開くには、2つの方法があります。

- ◆ [リストア] メニューの [バックアップの検索] をクリックします。



または

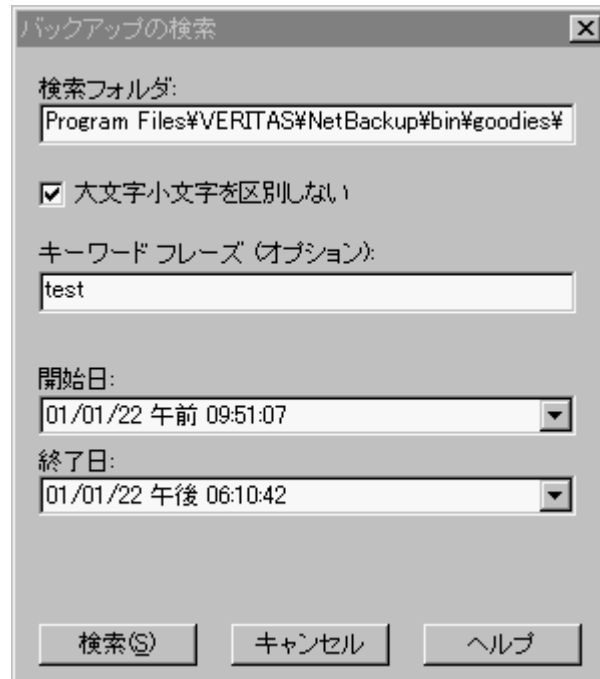
- ◆ 縦方向のツールバーの [バックアップの検索] をクリックします。



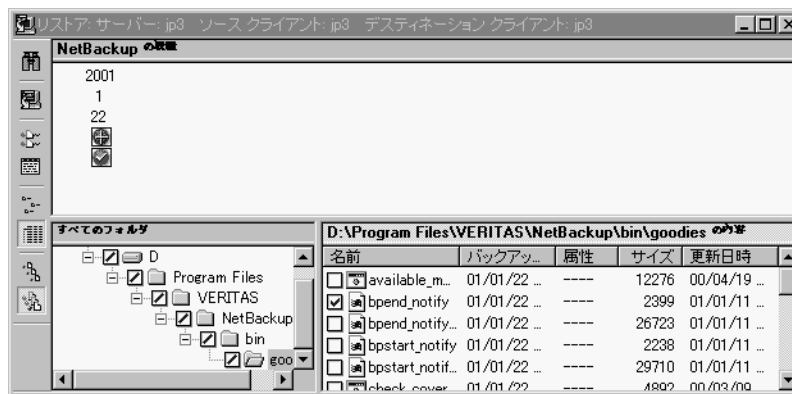
[バックアップの検索] ダイアログ ボックスが表示されます。

b. [検索フォルダ] ボックスにバックアップしたファイルのパスを入力します。この例では、「C:\Program Files\VERITAS\NetBackup\」と入力します。

- c. [キーワードフレーズ (オプション)] ボックスに「test」と入力します。

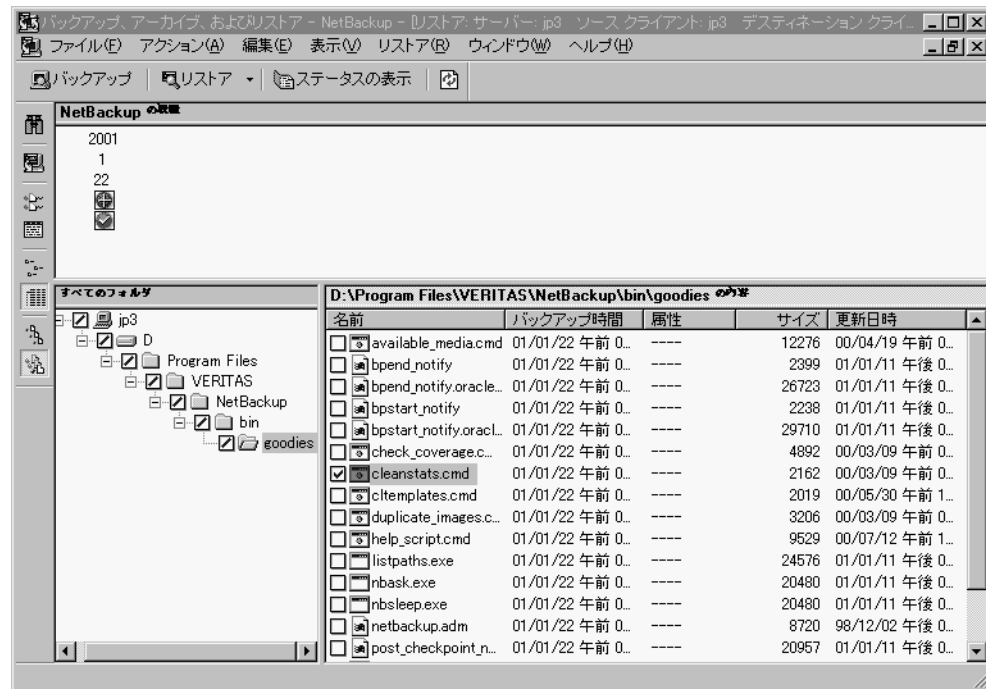


- d. [検索] をクリックします。バックアップされたファイルを含む最下位のフォルダまでのツリーが表示されます。



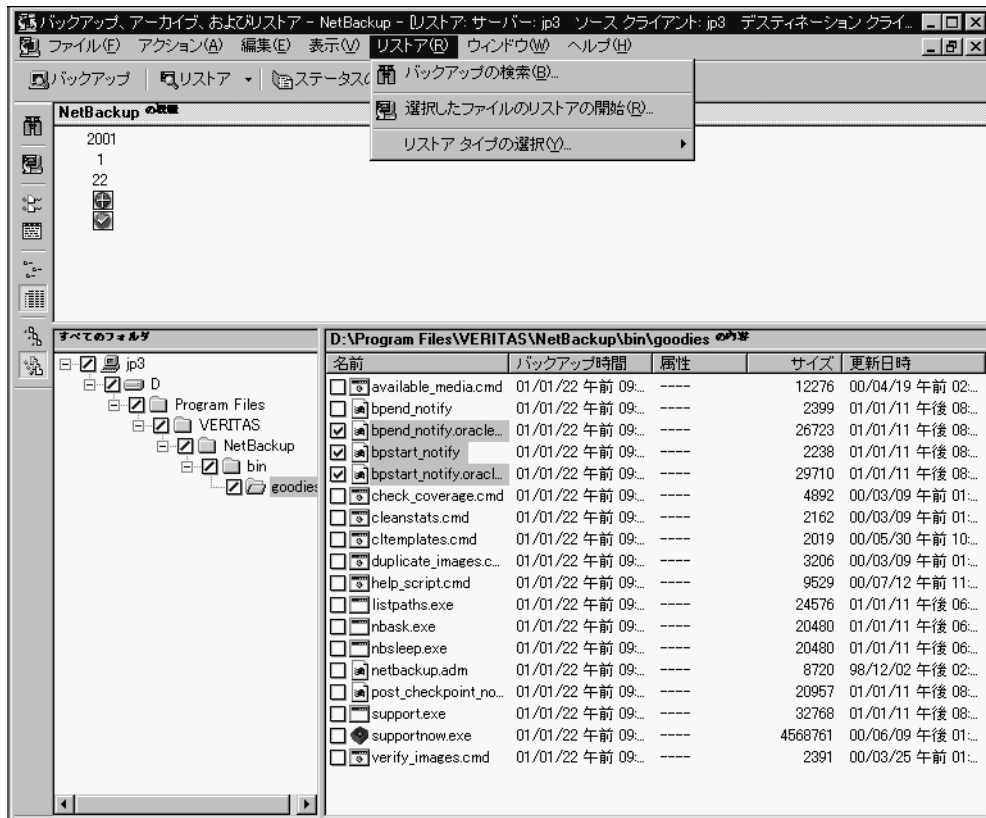
リストアの実行

e. ReadmeCl.txt ファイルの左側にあるチェックボックスを選択します。



[すべてのフォルダ] ペインのチェックボックスにスラッシュが表示されます。

4. リストア操作を開始します。
 - a. [選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスを開きます。
 [選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスを開くには、2つの方法があります。
 - ◆ [リストア]メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。



または

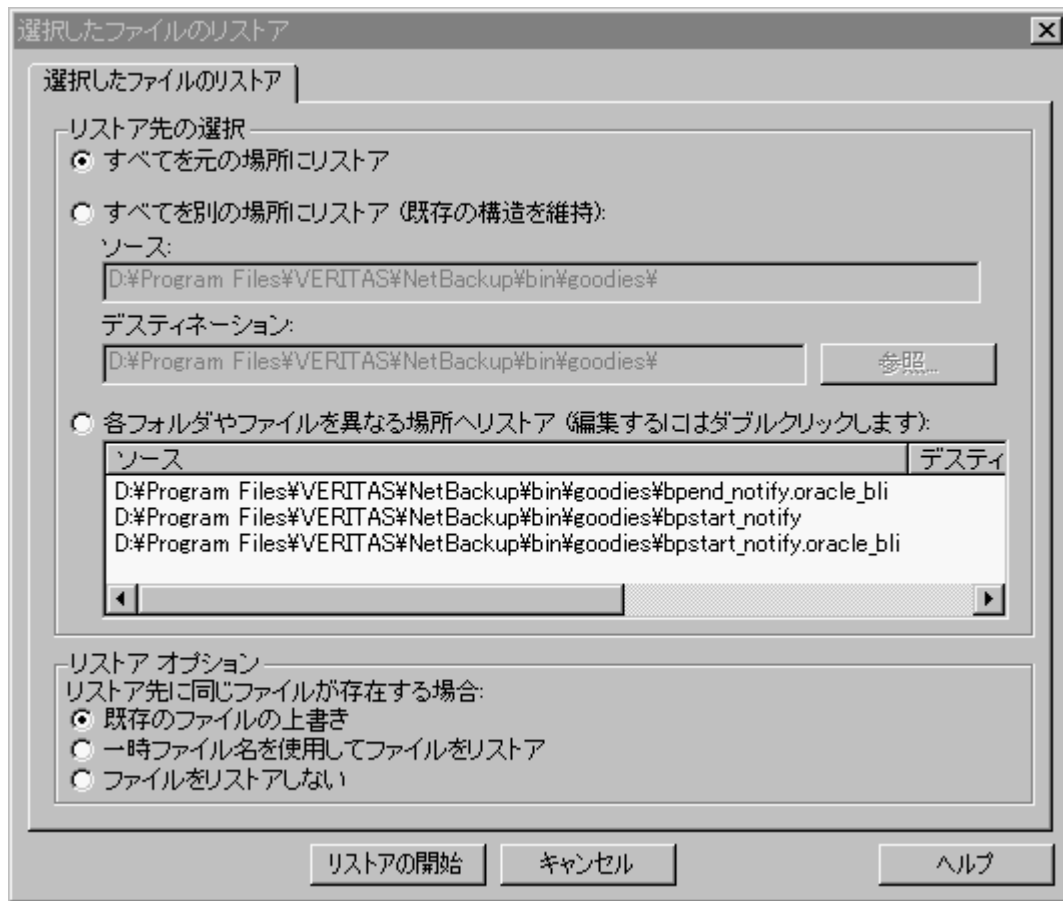
- ◆ 縦方向のツールバーの [リストアの開始] をクリックします。



[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスが表示されます。

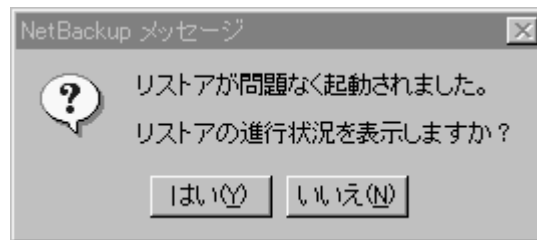
リストアの実行

- b. [既存のファイルの上書き] チェックボックスを選択します。



- c. [リストアの開始] をクリックしてリストア操作を開始します。

リストアが正常に開始されたことを示す NetBackup メッセージが表示されます。



- d. NetBackup メッセージのダイアログ ボックスで、[はい] をクリックして [ステータスの表示] ダイアログ ボックスを開きます。

リストアの実行

[ステータスの表示] ダイアログ ボックスを使用すると、**NetBackup** の操作のプログレス レポートを表示できます。詳細については、「ユーザー指定の操作のステータスの表示」を参照してください。

注 **NetBackup** の処理が完了するまで数分かかることがあります。リストア操作が開始されたら、**NetBackup** ブラウザを閉じて、コンピュータでほかのタスクを実行できます。リストア操作はバックグラウンドで続行されます。

ユーザー指定の操作のステータスの表示

ユーザー指定の操作のステータスの表示

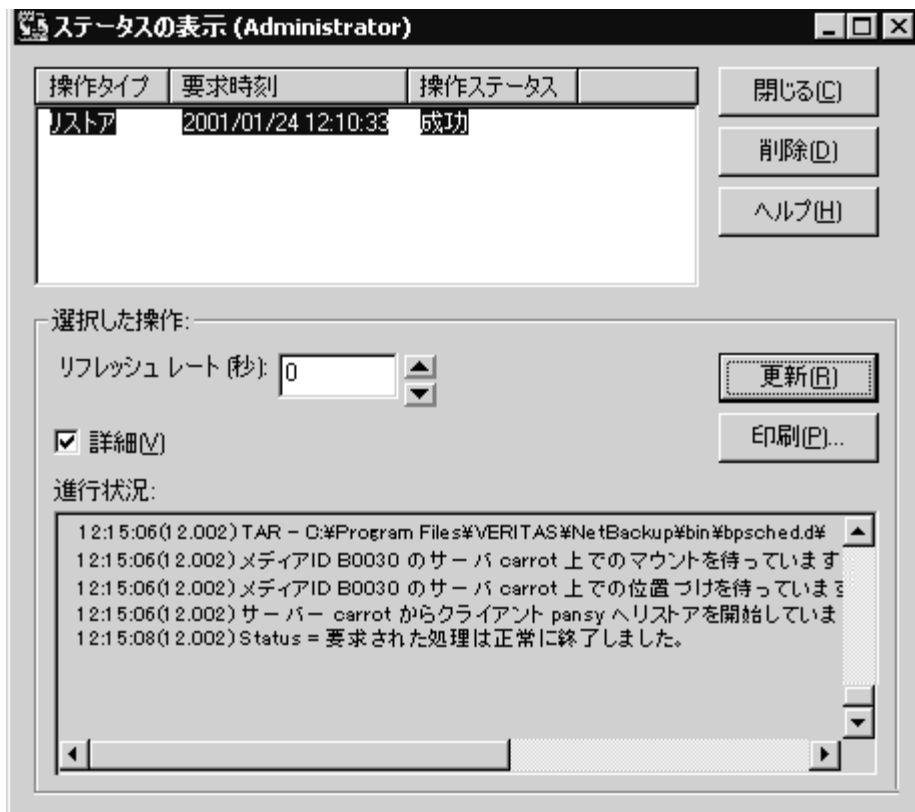
1. [ステータスの表示] ダイアログ ボックスを開いて、プログレス レポートを確認します。

このダイアログ ボックスを開くには、2つの方法があります。

- ◆ [バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウのツールバーの [ステータスの表示] ボタンをクリックします。

または

- ◆ [アクション] メニューの [ステータスの表示] をクリックします。



ステータスは上のペインの [操作ステータス] カラムに表示されます。

2. 進行状況を表示する操作を選択します。
3. [更新] をクリックします。

下のペインに、上のペインで選択した項目の進行状況が表示されます。

ユーザー指定の操作のステータスの表示

- リフレッシュ間隔を選択します。デフォルトの設定は0秒で、ステータスは自動的に再表示されません。
- デフォルトでは、プログレス ファイルは省略されて表示されます。プログレス ファイルの内容をすべて表示するには、[詳細] をクリックします。

ステータスが [成功] に変わると、NetBackup の操作は終了します。要求されたすべてのファイルをバックアップまたはリストアできなかった場合は、プログレス レポートの最後から数行目にステータス コードが表示されます。終了ステータス コードの意味については、『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』または『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』を参照してください。

高度なリストア手順

高度なリストア手順

高度なリストアを行う手順を以下に詳しく説明します。

バックアップ日付を指定したリストア

デフォルトでは、NetBackup リストア ウィンドウに最後のフルバックアップから最新のバックアップまでにバックアップされたファイルとフォルダが表示されます。クライアントが複数の¹クラスに属している場合、開始日には、最後に行われたフルバックアップのうち、最も古い日付がデフォルトで設定されます。たとえば、クライアントが ClassW1 と ClassW2 に属しているとします。この2つのクラスについて、ClassW1 の最新のフルバックアップは2月2日に行われ、ClassW2 の最新のフルバックアップは2月10日に行われたとします。この場合、2月2日の ClassW1 のフルバックアップ以降にバックアップされたファイルが表示されます。

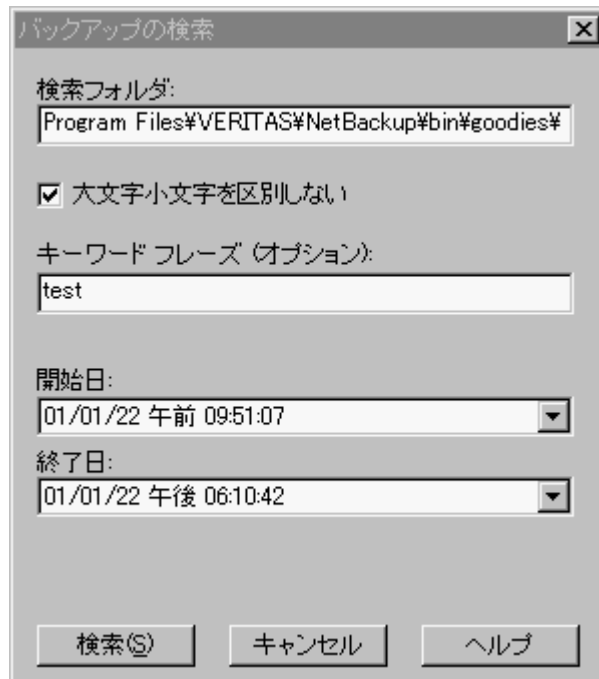
通常は、デフォルトの範囲を使用してファイルをリストアします。ただし、リストア対象のファイルがバックアップされた日付が、デフォルトの範囲に含まれない場合もあります。たとえば、最後のフルバックアップより前に削除されたファイルはデフォルトでは表示されません。この場合は、[NetBackup 履歴] ペインを使用して対象ファイルが含まれるバックアップを選択します。

リストアするファイルの検索

1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
2. すべてのバックアップに含まれるファイルとフォルダのすべてのコピーを表示するには、[表示] メニューの [すべてのバックアップの表示] をクリックします。[最新のバックアップの表示] をクリックすると、ファイルまたはフォルダの最新のコピーが表示されます。
3. [NetBackup 履歴] ペインで、リストアするファイルやフォルダが含まれているイメージを選択します。
4. 検索の速度を上げるため、範囲はできるだけ狭めてください。
 - ◆ [NetBackup 履歴] ペインで、特定のバックアップ イメージを選択します。
 - ◆ バックアップ イメージの範囲を選択するには、範囲の最初のイメージを選択し、Shift キーを押しながら範囲の最後のイメージを選択します。この場合、選択した範囲内のすべてのバックアップ イメージが検索されます。範囲の検索は、2番目のイメージを選択すると開始されます。
 - ◆ 以前の選択を取り消すには、別のバックアップを選択します。

1. NetBackup クラスは、類似するバックアップ要求を持つ1つ以上のクライアントから成るグループのバックアップポリシーを定義します。使用する PC のクラスは、NetBackup システム管理者が設定します。

5. [リストア] メニューの [バックアップの検索] をクリックして [バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開きます。



6. NetBackup でファイルやフォルダの検索に使用する検索パスを入力します。

検索中に表示できるファイルの数は、コンピュータの空きメモリ用量によって制限されます。この制限に達した場合は、日付またはファイルのパスのパラメータを変更して検索の範囲を狭くします。

デフォルトでは、[バックアップの検索] ダイアログ ボックスには、NetBackup リストア ウィンドウの [すべてのフォルダ] ペインで現在選択しているフォルダの情報が表示されます。詳細については、「[バックアップの検索] ダイアログ ボックス (82 ページ)」を参照してください。

7. [検索] をクリックして検索を開始します。検索が終了すると、NetBackup リストア ウィンドウの表示が更新されます。

フォルダまたはファイルの旧バージョンのリストア

この手順では、バックアップの日付の範囲内でバックアップされたすべてのファイルをリストアします。バックアップ後にオンラインのフォルダから削除されたファイルもリストアされます。削除されたファイルをリストアしない場合は、「フォルダのツール イメージのリストア (30 ページ)」を参照してください。

高度なリストア手順

1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
2. [NetBackup 履歴] ペインを開きます。
[NetBackup 履歴] ペインが表示されない場合は、水平分割線をクリックして下へドレッジします。
3. [NetBackup 履歴] ペインで、リストアするファイルやフォルダをバックアップした日付のバックアップ イメージを選択します。
バックアップ イメージが検索され、[すべてのフォルダ] および [<フォルダ名>の内容] ペインにバックアップ イメージの内容が表示されます。
 - ◆ 最後のフル バックアップより前のバージョンのフォルダまたはファイルをリストアするには、目的のバージョンのフォルダやファイルを含むバックアップだけを選択します。
 - ◆ 検索する対象を特定のフォルダ、ファイル、またはキーワードに絞り込むには、手順 a に進みます。
 - a. [リストア] メニューの [バックアップの検索] をクリックして [バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開きます。
 - b. ファイル名またはキーワードを入力します。
 - c. [検索] をクリックして検索を開始します。検索が終了すると、NetBackup リストア ウィンドウの表示が更新されます。
4. NetBackup リストア ウィンドウの [すべてのフォルダ] ペインからリストアするフォルダを選択します。
5. [<フォルダ名>の内容] ペインで必要なファイルまたはフォルダを指定します。デフォルトでは、ファイルやフォルダは元の場所にリストアされます。
6. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。

フォルダのトゥルー イメージのリストア

注 フォルダのトゥルー イメージをリストアできるのは、トゥルー イメージのリストア情報を収集するように、ファイルやフォルダをバックアップする NetBackup のクラスがバックアップ前に設定されていた場合だけです。設定については、NetBackup の管理者に確認してください。

トゥルー イメージのリストアとは

ディレクトリのトゥルー イメージのリストアを実行すると、最後に行われた自動フルバックアップまたは自動インクリメンタルバックアップの状態にディレクトリの内容がリストアされます (デフォルト)。指定したバックアップより前に削除されたファイルはリストアされません。

ツール イメージのリストアは、不要なファイルを削除してディレクトリをクリーンアップした後、クリーンアップを繰り返さずに最新のバージョンをリストアする場合などに最適です。ディレクトリの旧バージョンのツール イメージをリストアすることもできます。

ツール イメージのリストアの例

ツール イメージのリストアの概念を示すために、次の表を使用します。この表には、以下のディレクトリの内容が表示されています。

C:/doc

このディレクトリに含まれるバックアップの日付の範囲は、12/01/95 から 12/04/95 までです。

日付 バックアップの種類	12/01/95 (フル)	12/02/95 (インクリ メンタル)	12/03/95 (インクリ メンタル)	12/04/95 (ユーザー)	12/04/95 (インクリ メンタル)
	file1	file1	file1	file1	file1
	file2	file2	file2	file2	file2
	dirA/fileA	dirA/fileA	dirA/fileA	dirA/fileA	-
	dirB/fileB	-	-	-	-
	file3	-	-	-	-
				dirC/fileC	-
				file4	file4

このディレクトリの最新バージョンをリストアするとします。

- ◆ 標準のリストアを行うと、12/01/95 (最後のフル バックアップ) から 12/04/95 までの期間中にバックアップされたすべてのファイルとサブディレクトリがリストアされます。

```
file1
file2
dirA\fileA
dirB\fileB
file3
dirC\fileC
file4
```

- ◆ ツール イメージのバックアップをリストアすると、12/04/95 のインクリメンタル バックアップ時に存在していたファイルとディレクトリだけがリストアされます。

```
file1
file2
file4
```

高度なリストア手順

12/04/95のインクリメンタルバックアップより前に削除された内容はリストアされません。

dirA と dirC のサブディレクトリは、ユーザー指定のバックアップによって 12/04/95 にバックアップされています。しかし、リストアされるディレクトリには、dirA と dirC のサブディレクトリは含まれません。この2つのサブディレクトリがリストアされない理由は、ツール イメージのリストアの基準となるインクリメンタルバックアップの時点に存在していなかったためです。

ツール イメージのリストアおよび上書き

リストアするディレクトリを上書きする場合、そのディレクトリには現在含まれていても、ツール イメージをリストアするバックアップに含まれていないファイルは削除されません。

前の例で、12/04/95 のインクリメンタルバックアップからリストアまでの間に file5 を作成したとします。この場合、リストア後のディレクトリの内容は次のようになります。

```
file1
file2
file4
file5 (いずれのバックアップにも含まれていない新しいファイル)
```

ツール イメージのリストア手順

1. [リストア] メニューの [リストア タイプの選択] を選択し、[ツール イメージ バックアップ] をポイントします。

このときに「エンティティが見つかりません」というメッセージが表示された場合は、管理者に連絡してください。ツール イメージ リストアを実行するには、NetBackup サーバー上で TIR オプションが設定されている必要があります。また、TIR オプションを設定して作成したバックアップも存在している必要があります。

2. NetBackup リストア(ツール イメージ)ウィンドウの[すべてのフォルダ]ペインで、リストアするフォルダの親フォルダをダブルクリックします。

ダブルクリックすると、NetBackup リストア(ツール イメージ)ウィンドウにツール イメージのリストアが可能なフォルダが表示されます。リストには、フォルダだけが表示されます。ツール イメージのリストアでは、フォルダ全体をリストアするため、個別のファイルは表示されません。個別のファイルを表示または選択するには、[通常のバックアップ] を使用します。

フォルダを検索できない場合は、[バックアップの検索] ダイアログ ボックスの [検索フォルダ] の設定を確認します。検索するバックアップの範囲も確認します ([NetBackup 履歴] ペイン)。これらの設定がすべて正しいにもかかわらず、該当するフォルダが見つからない場合は、ファイルとフォルダのバックアップを行う NetBackup クラスがツール イメージのリストア情報を収集するように設定されているかどうかを、管理者に確認してください。

3. NetBackup リストア(トゥルー イメージ) ウィンドウの[<フォルダ名>の内容]ペインでフォルダを指定し、リストアするフォルダを選択します(ウィンドウのこちら側で選択する必要があります)。

注 フォルダ内のファイルがトゥルー イメージのバックアップに含まれるファイルと同じファイル名である場合は、フォルダ内のファイルは削除され、トゥルー イメージのバックアップのファイルに置換、すなわちリストアされます。トゥルー イメージのリストアに含まれていないフォルダのファイルは削除されません。

4. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。
デフォルトでは、フォルダは元の場所にリストアされます。

別のパスへのファイルのリストア

バックアップした元のファイルやパスとは異なる場所にリストアする場合があります。これを別のパスへのリストアと呼びます。

別の場所へのすべてのリストア

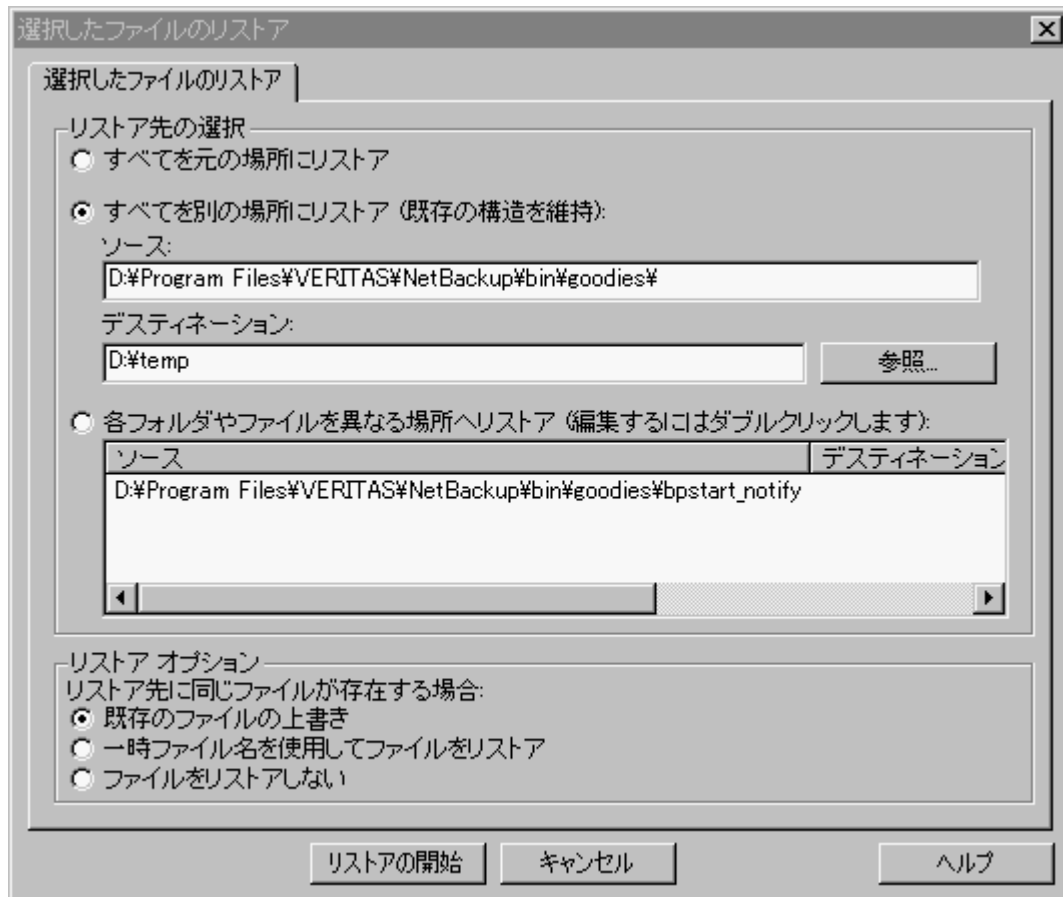
1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
2. リストアする項目を選択します。
3. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。
[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [すべてを別の場所にリストア] をクリックします。
5. [ソース] ボックスに、バックアップした項目の元のフォルダを入力します。

デフォルトでは、リストアするすべての項目に共通の最下位のフォルダが [ソース] ボックスに表示されます。この設定を一部の項目だけが含まれるフォルダに変更すると、その項目だけが、[デスティネーション] ボックスで指定したフォルダにリストアされます。その他のすべての項目は元の場所にリストアされます。

6. [デスティネーション] ボックスに、項目をリストアする先の別のフォルダを入力します。

高度なリストア手順

7. [リストア オプション] の下で、適切なオプションを選択します。



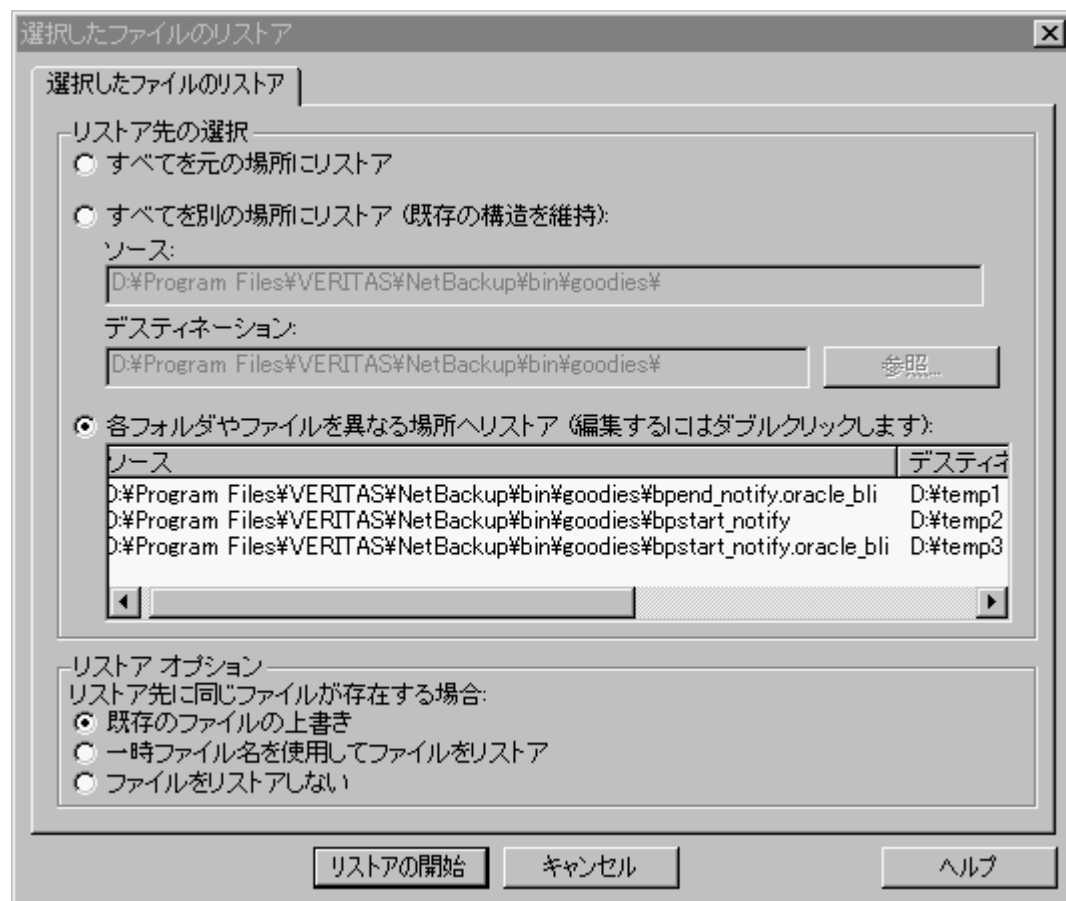
8. [リストアの開始] をクリックします。

新しいリストア先のフォルダに項目がリストアされます。

別の場所への個々の項目のリストア

1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
2. リストアするファイルまたはフォルダを選択します。
3. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。
[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [各フォルダやファイルを異なる場所へリストア] をクリックします。
5. ファイルのリストア先を変更するには

- a. ファイルをダブルクリックします。[新しいデスティネーションの入力] ダイアログ ボックスが表示されます。
- b. 新しいリストア先のパスを入力します。
または
[参照] ボタンをクリックし、新しいリストア先をブラウザして選択します。
- c. [OK] をクリックします。入力した新しいパスが、[デスティネーション] カラムに表示されます。

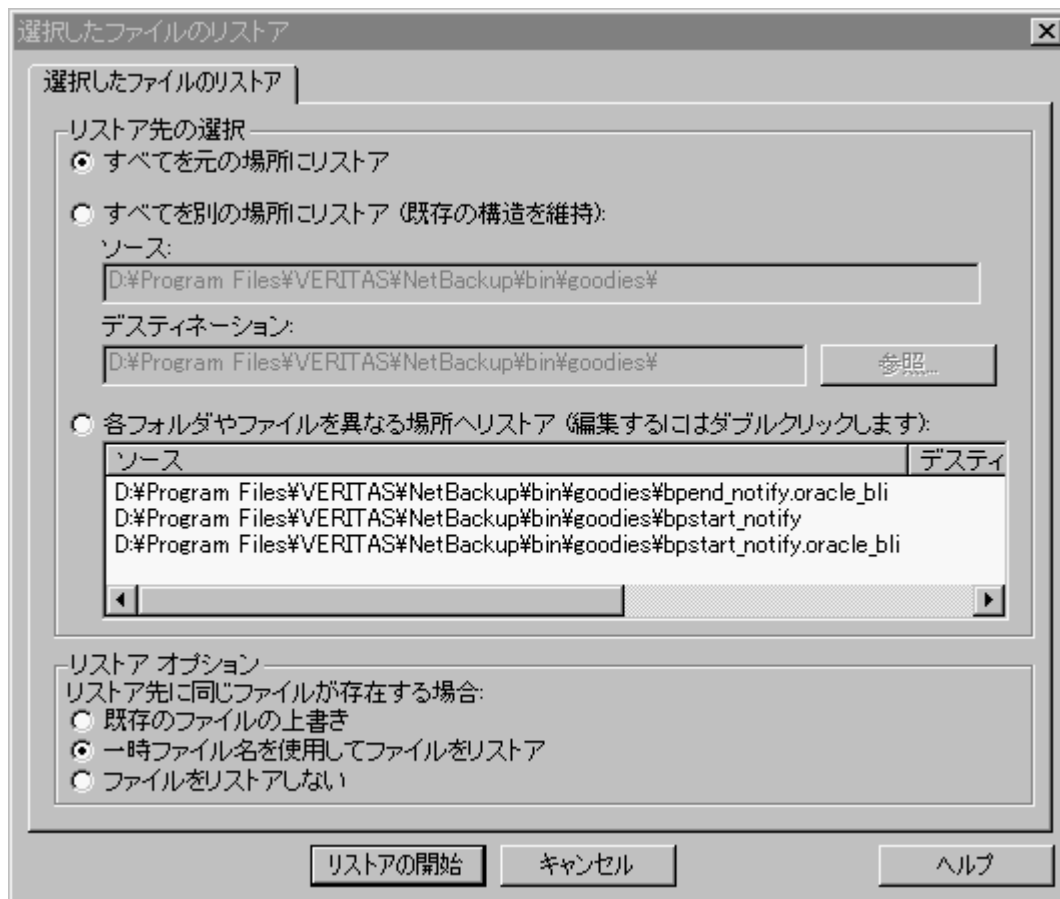


- d. リストアする各ファイルまたはフォルダについて、この手順を繰り返します。
6. [リストア オプション] の下で、適切なオプションを選択します。
7. [リストアの開始] をクリックします。

高度なリストア手順

一時的なファイル名を使用したリストア

1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
2. リストアする項目を選択します。
3. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。
[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [一時ファイル名を使用してファイルをリストア] を選択します。



5. [リストアの開始] をクリックします。

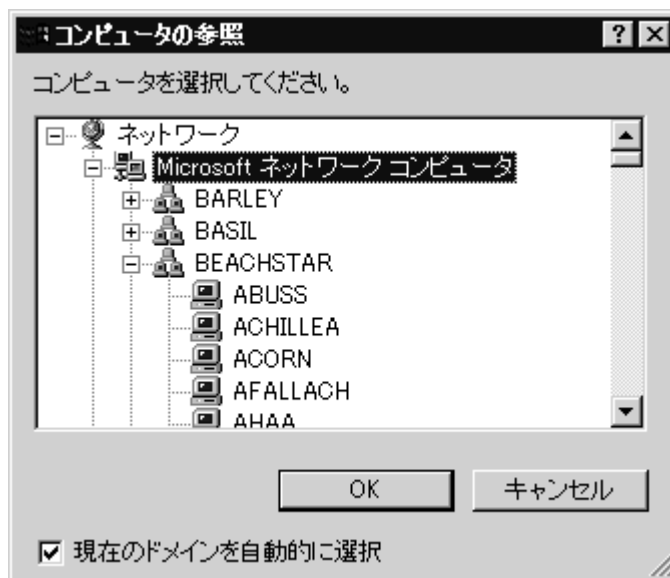
項目は filenameXXXXXX.TMP という名前でもリストアされます。ここで、filename はリストアされるファイルの名前で、XXXXXX は現在の日付と時刻に基づいて生成されます。

プロキシ リストア

環境によっては、ユーザーが、PC ではなく、ファイル サーバーにファイルを格納している場合があります。プロキシ リストアでは、ユーザーのデスクトップ PC を使用して、ファイル サーバーのバックアップをファイル サーバーにリストアできます。

注 選択したバックアップのすべてのフォルダとファイルを表示および指定できますが、書き込みアクセス権を持っていない項目をリストアすることはできません。

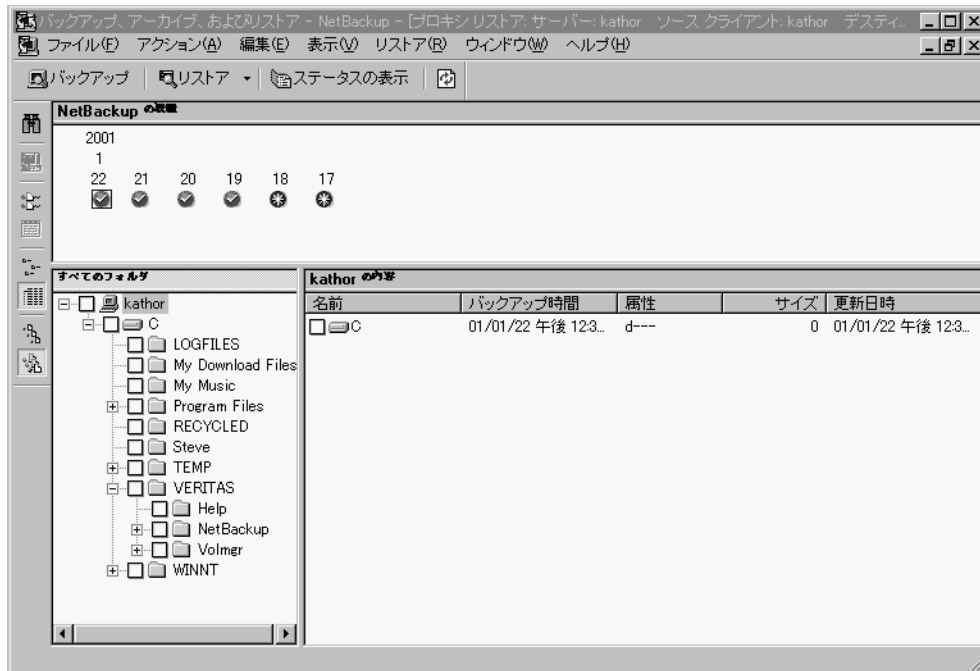
1. NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
 - a. [アクション] メニューの [リストアするファイルとフォルダの選択] をポイントし、[プロキシとしてバックアップから] を選択します。[コンピュータの参照] ダイアログ ボックスが表示されます。



- b. フォルダやファイルのリストア先のファイル サーバーを選択し、[OK] をクリックします。このチュートリアルでは、hawk という名前のコンピュータを選択します。NetBackup リストア ウィンドウが表示されます。

高度なリストア手順

NetBackup サーバーが、選択したファイル サーバーのマスター サーバーに変更されます。



2. NetBackup フォルダの readme.txt を選択します。



3. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストアの開始] をクリックします。
[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [既存のファイルの上書き] を選択します。
5. [リストアの開始] をクリックします。

高度なリストア手順



リファレンス

3

この章は NetBackup ブラウザについてのリファレンス情報です。ブラウザのメニュー、ウィンドウ、ダイアログ ボックスについて説明します。

NetBackup のアイコン

次の表は、Microsoft Windows のデスクトップに表示される NetBackup のアイコンを示しています。

アイコン 説明



NetBackup を表します。ブラウザのタイトル バー、[スタート] メニューの、Windows のエクスプローラで使用されます。



NetBackup クライアント Job Tracker を実行中であるが、現在バックアップまたはリストアの処理中ではないことを示します。システムトレイで使用されます。



NetBackup クライアント Job Tracker を実行中であり、少なくとも 1 つのリストア処理が行われていることを示します。システムトレイで使用されます。黄色の矢印が点滅している場合は、NetBackup クライアント Job Tracker を開いてリストア操作の見積もりを表示できます。



NetBackup クライアント Job Tracker を実行中であり、少なくとも 1 つのバックアップ処理が行われていることを示します。システムトレイで使用されます。黄色の矢印が点滅している場合は、NetBackup クライアント Job Tracker を開いてバックアップ操作の見積もりを表示できます。



NetBackup クライアント Job Tracker を実行中であり、少なくとも 1 つのバックアップ処理と 1 つのリストア処理が行われていることを示します。黄色の矢印が点滅した状態で、システムトレイで使用されます。

メニュー

メニュー

ここでは、NetBackup ブラウザのメニューバーのコマンドについて説明します。

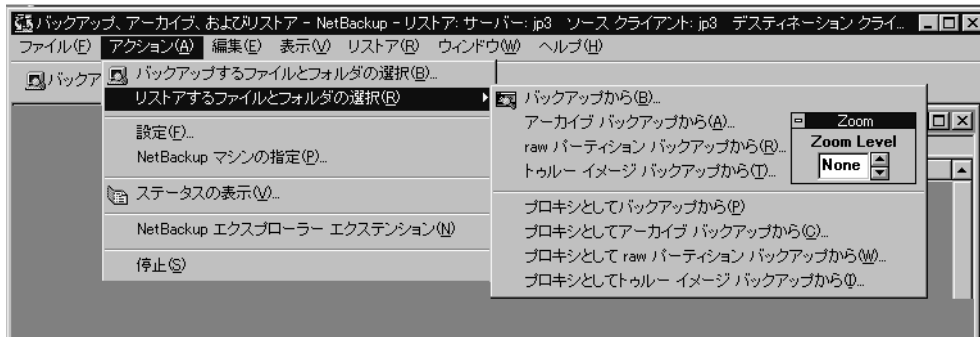
[ファイル] メニュー



[ファイル] メニューのコマンドを使用すると、バックアップ ウィンドウやリストア ウィンドウを閉じたり、NetBackup を終了したりできます。

- | | |
|-----|---|
| 閉じる | このコマンドは、NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウを開いているときに [ファイル] メニューに表示されます。このコマンドを使用して選択したウィンドウを閉じます。 |
| 終了 | ブラウザを終了します。処理中のバックアップまたはリストアは最後まで実行されます。 |

[アクション] メニュー



[アクション] メニューのコマンドは、NetBackup のセッションを全体的に制御するために使用します。

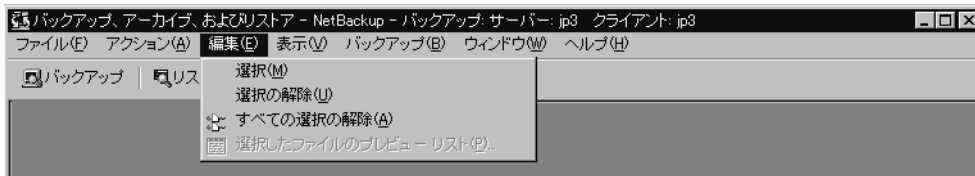
- | | |
|------------------------------|---|
| バックアップする
ファイルとフォル
ダの選択 | NetBackup バックアップ ウィンドウを開きます。このウィンドウで、バックアップするファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを選択し、バックアップまたはアーカイブ操作を開始できます。 |
| リストアするファ
イルとフォルダの
選択 | サブメニューを開き、次のコマンドを表示します。 |

- バックアップから NetBackup リストア ウィンドウを開きます。このウィンドウで、以前のバックアップで保存したファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リストア操作を開始できます。
- アーカイブバックアップから NetBackup リストア (アーカイブ) ウィンドウを開きます。このウィンドウで、以前のアーカイブで保存したファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リストア操作を開始できます。
- raw パーティションバックアップからリストア NetBackup リストア (raw パーティション) ウィンドウを開きます。このウィンドウで、以前の raw パーティションのバックアップで保存した raw パーティションを選択し、raw パーティションのリストア操作を開始できます。
- トゥルーイメージバックアップから NetBackup リストア (トゥルー イメージ) ウィンドウを開きます。このウィンドウで、以前のトゥルー イメージのバックアップで保存したファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、トゥルー イメージ リストア操作を開始できます。
- プロキシとしてバックアップから この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートの Windows NT/2000 マシンからの要求として処理されます。
- プロキシとしてアーカイブバックアップから この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのアーカイブ バックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートマシンからの要求として処理されます。
- プロキシとして raw パーティションバックアップから この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンの raw パーティションのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートマシンからの要求として処理されます。
- プロキシとしてトゥルーイメージバックアップから この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのトゥルー イメージのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、ローカルマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートマシンからの要求として処理されます。
- 設定 [NetBackup 設定] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログボックスで、クライアントのバックアップ、アーカイブ、およびリストアを制御するパラメータを指定できます。

メニュー

- NetBackup マシンの指定** [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスの [サーバー] プロパティシートを開きます。このダイアログ ボックスで、マスター サーバーおよびクライアント マシンの設定を変更できます。
- ステータスの表示** [ステータスの表示] ダイアログ ボックスを開きます。このダイアログ ボックスで、処理中のユーザー操作のプログレス レポートを確認できます。また、過去のユーザー指定の NetBackup 操作のログも確認できます。
- NetBackup エクスプローラー エクステンション** NetBackup エクスプローラー エクステンション機能がインストールされている場合は、このアイテムによってこの機能のオンとオフを切り替えます。
- 停止** リストアするファイル、フォルダ、またはレジストリ キーのブラウズなどのネットワーク アクティビティを停止します。すでに処理中のバックアップまたはリストアには影響しません。

[編集] メニュー



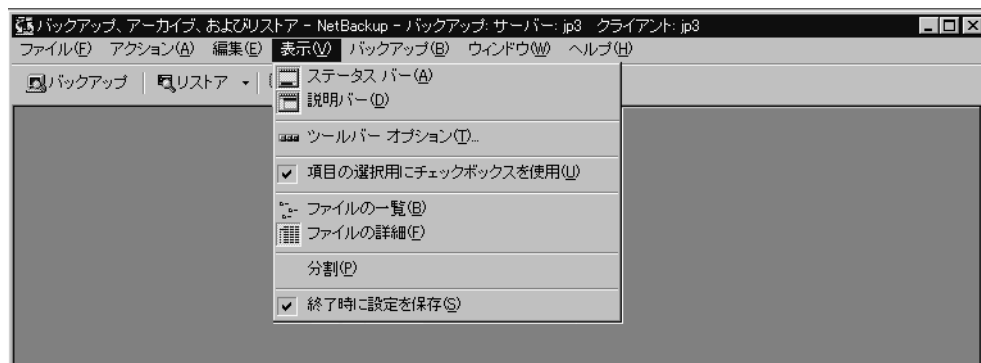
[編集] メニューのコマンドを使用して、現在選択しているバックアップまたはリストア ウィンドウで選択内容を変更できます。このメニューは、NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウを開いているときに表示されます。

- 選択** NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウの [<フォルダ名>の内容] ペインに現在表示されているファイル、フォルダ、またはレジストリ キーだけを指定します。
- 選択の解除** NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウの [<フォルダ名>の内容] ペインに現在表示されている選択項目の指定だけを解除します。
- すべての選択の解除** このウィンドウのすべてのファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの指定を解除します。NetBackup リストア ウィンドウまたは NetBackup バックアップ ウィンドウのツールバーの [すべての選択の解除] をクリックして、このコマンドを実行することもできます。

選択したファイルのプレビューリスト

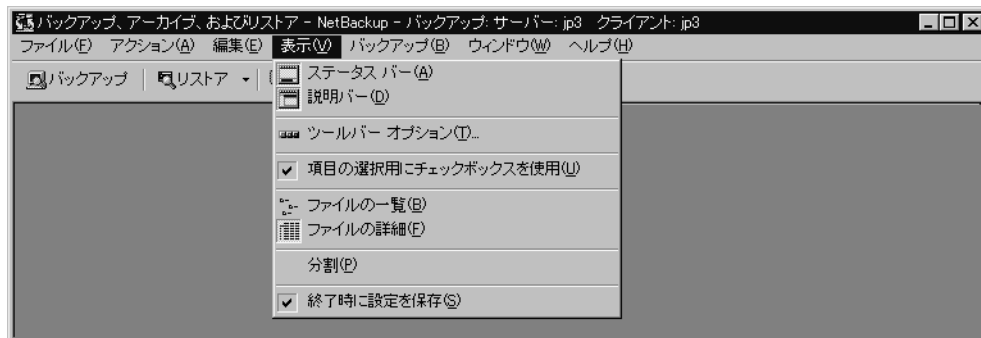
[プレビュー リスト] ダイアログ ボックスを開きます。このコマンドは、NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウでファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを選択しているときに有効になります。NetBackup リストア ウィンドウまたは NetBackup バックアップ ウィンドウのツールバーの [選択したファイルのプレビュー リスト] をクリックして、このコマンドを実行することもできます。

[表示] メニュー



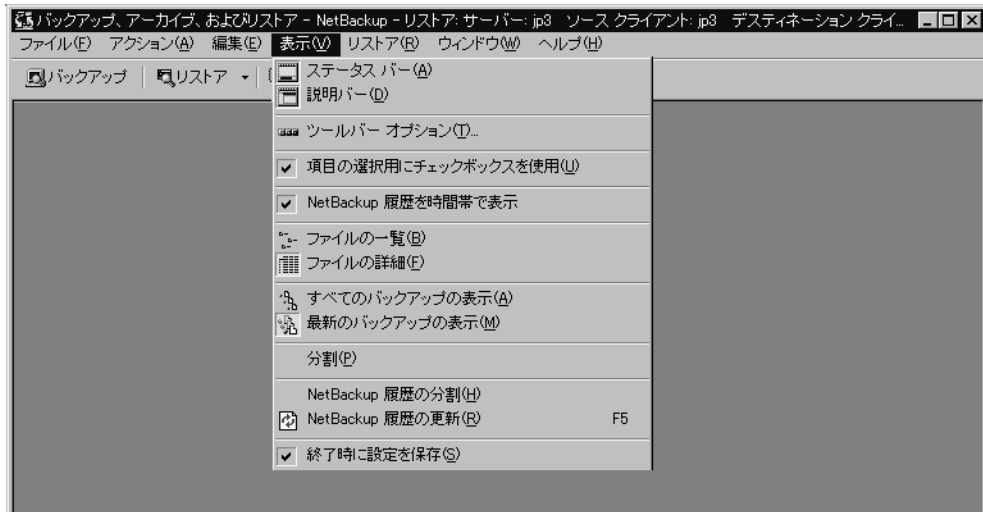
[表示] メニューのコマンドを使用すると、NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウの内容を制御できます。

バックアップまたはアーカイブ操作中は、次のメニューが表示されます。



メニュー

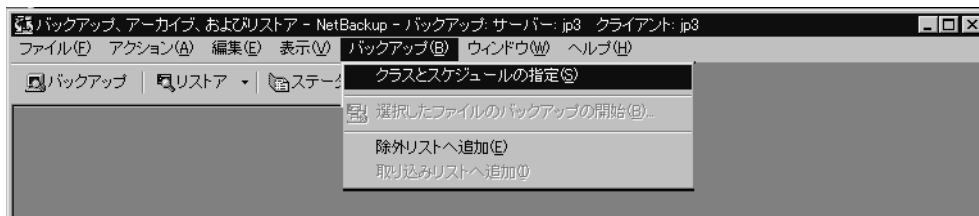
リストア操作中は、次のメニューが表示されます。



- | | |
|----------------------------|--|
| ステータス バー | NetBackup のステータス バーを表示します。 |
| 説明バー | バックアップおよびリストア ウィンドウのペインに説明バーを表示します。説明バーを非表示にするには、このチェックボックスをクリアします。 |
| ツールバー オプション | [ツールバー オプション] ダイアログ ボックスを開きます。詳細については、「[ツールバー オプション] ダイアログ ボックス (79 ページ)」を参照してください。 |
| 項目の選択用に
チェックボックス
を使用 | 選択した場合は、バックアップまたはリストアする項目を指定するためにチェックボックスが表示されます。選択しなかった場合は、円が表示されます。 |
| NetBackup 履歴を時
間帯で表示 | [NetBackup 履歴] ペインをタイムライン形式で表示します。
[NetBackup 履歴] ペインを詳細な一覧形式で表示するには、このチェックボックスをクリアします。 |
| ファイルの一覧 | 詳細を表示せずに、ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを表示します。 NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウのツールバーでこのコマンドを実行することもできます。 |
| ファイルの詳細 | ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの詳細（サイズやアクセス権の種類など）を表示します。 NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウのツールバーでこのコマンドを実行することもできます。 |

すべてのバックアップの表示	現在選択しているイメージのファイル、フォルダ、またはレジストリ キーのすべてのインスタンスを表示します。 NetBackup リストア ウィンドウのツールバーでこのコマンドを実行することもできます。
最新のバックアップの表示	現在選択しているバックアップ イメージに含まれるファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの最新のバックアップを表示します。 NetBackup リストア ウィンドウのツールバーでこのコマンドを実行することもできます。
分割	カーソルを両側に矢印の付いた二重線に変更し、[すべてのフォルダ] ペインと [<フォルダ名> の内容] ペインの間の縦の分割線に配置します。このカーソルを左右に移動して分割線の位置を変更できます。
NetBackup 履歴の分割	カーソルを両側に矢印の付いた二重線に変更し、[NetBackup 履歴] ペインと [すべてのフォルダ] および [<フォルダ名> の内容] ペインの間の横の分割線に配置します。このカーソルを上下に移動して分割線の位置を変更できます。
NetBackup 履歴の更新	[NetBackup 履歴] ペインの情報を更新します。
終了時に設定を保存する	選択した場合は、終了時にこのウィンドウに固有の設定が保存されます。

[バックアップ] メニュー



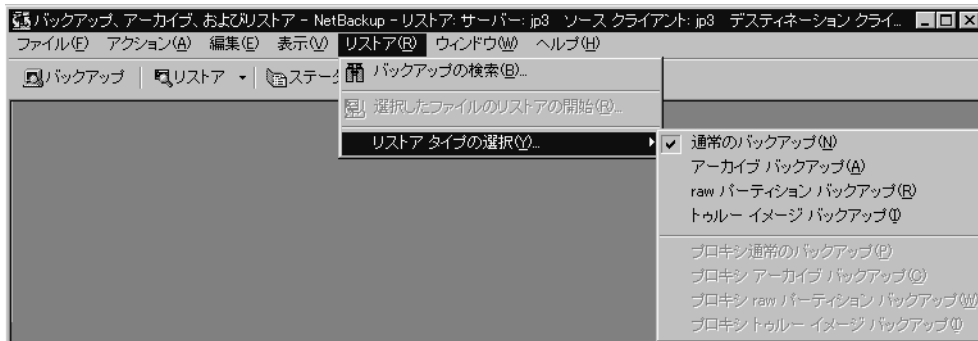
[バックアップ] メニューは、**NetBackup** バックアップ ウィンドウがアクティブである場合に表示されます。[バックアップ] メニューのコマンドを使用して、バックアップ操作を制御できます。

クラスとスケジュールの指定 [バックアップ クラスとスケジュール] ダイアログ ボックスを開きます。詳細については、「[バックアップ クラスとスケジュール] ダイアログ ボックス (80 ページ)」を参照してください。

メニュー

選択したファイルのバックアップの開始	[バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックスを開きます。 [NetBackup バックアップ] ウィンドウのツールバーの [バックアップの開始] をクリックして、このコマンドを実行することもできます。
除外リストへ追加	選択したファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを [除外ファイル リスト] に追加します。詳細については、「[除外リスト] プロパティシート (112 ページ)」を参照してください。
取り込みリストへ追加	選択したファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを [取り込みファイル リスト] に追加します。詳細については、「[取り込みリスト] プロパティシート (114 ページ)」を参照してください。

[リストア] メニュー



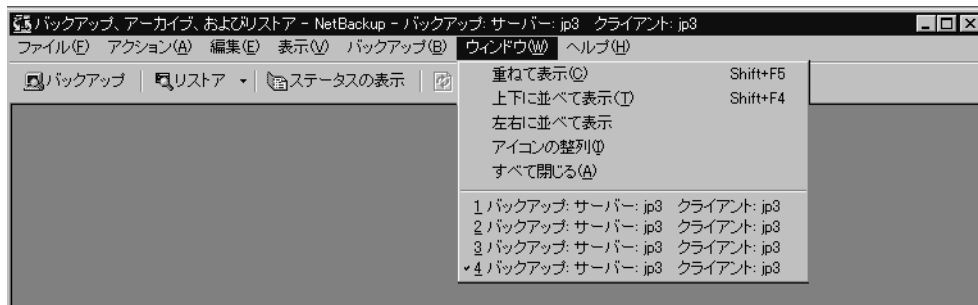
[リストア] メニューは、NetBackup リストア ウィンドウがアクティブである場合に表示されます。[リストア] メニューのコマンドを使用して、リストア操作を制御できます。

バックアップの検索	[バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開きます。NetBackup リストア ウィンドウのツールバーの [バックアップの検索] をクリックして、このコマンドを実行することもできます。
選択したファイルのリストアの開始	[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスを開きます。NetBackup リストア ウィンドウのツールバーの [リストアの開始] をクリックして、このコマンドを実行することもできます。
リストア タイプの選択	サブメニューを開き、次のコマンドを表示します。
通常のバックアップ	NetBackup リストア ウィンドウを開きます。以前のバックアップで保存したファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを選択し、リストア操作を開始できます。
アーカイブ バックアップ	NetBackup リストア (アーカイブ) ウィンドウを開きます。以前のアーカイブで保存したファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを選択し、リストア操作を開始できます。

- raw パーティションバックアップ** NetBackup リストア (raw パーティション) ウィンドウを開きます。raw パーティションを選択し、raw パーティションのリストア操作を開始できます。
- トウルールイメーজバックアップ** NetBackup リストア (トウルールイメージ) ウィンドウを開きます。ファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、トウルールイメージリストア操作を開始できます。
- プロキシ通常のバックアップ** この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートの Windows NT/2000 マシンからの要求として処理されます。
- プロキシアーカイブバックアップ** この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのアーカイブをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートの Windows NT/2000 マシンからの要求として処理されます。
- プロキシ raw パーティションバックアップ** この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンの raw パーティションのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートの Windows NT/2000 マシンからの要求として処理されます。
- プロキシトウルールイメージバックアップ** この機能を使用すると、ユーザーは Windows NT/2000 マシン上で、別の Windows NT/2000 マシンのトウルールイメージのバックアップをブラウズできます。リモートユーザーはバックアップからファイル、フォルダ、またはレジストリキーを選択し、リモートマシンにリストアできます。NetBackup では、すべての要求は、リモートの Windows NT/2000 マシンからの要求として処理されます。

メニュー

[ウィンドウ] メニュー



[ウィンドウ] メニューには、NetBackup のウィンドウを整列するためのコマンドが表示されます。このメニューは、NetBackup バックアップ ウィンドウまたは NetBackup リストア ウィンドウを開いているときに表示されます。

重ねて表示 NetBackup のウィンドウをタイトル バーだけが見えるように重ねて表示します。

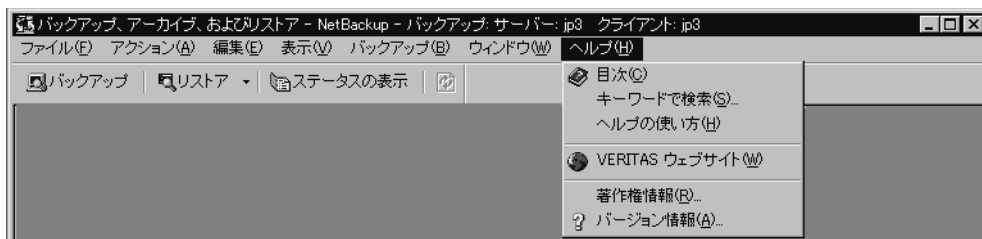
上下に並べて表示 NetBackup のウィンドウのサイズを変更し、デスクトップに上下に並べて表示します。

左右に並べて表示 NetBackup のウィンドウのサイズを変更し、デスクトップに左右に並べて表示します。

アイコンの整列 アイコンをデスクトップの左下隅に配置します。

すべて閉じる NetBackup バックアップ ウィンドウおよび NetBackup リストア ウィンドウを閉じます。

[ヘルプ] メニュー



このメニューを使用して、NetBackup のオンライン ヘルプを表示できます。

目次 オンライン ヘルプの目次を開きます。

キーワードで検索 オンライン ヘルプの検索機能を開きます。

ヘルプの使い方 オンライン ヘルプの使用方法を説明します。

- VERITAS ウェブ サイト インターネット ブラウザで VERITAS の Web サイトを開きます。
- 著作権情報 NetBackup の著作権情報を表示します。
- バージョン情報 バージョン番号など、NetBackup に関する情報を表示します。

ウィンドウ

ウィンドウ

ここでは、NetBackup ブラウザのウィンドウについて説明します。

NetBackup のウィンドウのアイコン

ここでは、ウィンドウに表示されるすべてのアイコンについて説明します。

アイコン 説明



NetBackup を表します。ブラウザのタイトル バー、[スタート] メニューの、Windows のエクスプローラで使用されます。



バックアップを表します。バックアップ ウィンドウのタイトル バーで使用されます。



リストアを表します。リストア ウィンドウのタイトル バーで使用されます。



フロッピー ディスク ドライブを表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。



論理ハード ディスク ドライブを表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。



CD-ROM ドライブを表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。



ネットワーク ドライブを表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されません。



クライアント PC を表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。



サブエントリを表示または非表示にするには、これらの構造を展開するか、または折りたたみます。プラス記号は、そのフォルダを展開できることを示します。マイナス記号は、そのフォルダを折りたたむことができることを示します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。



閉じたフォルダを表します。ほかの項目を含んでいる場合と含んでいない場合があります。ドライブの下にフォルダだけが表示されている [すべてのフォルダ] ペインで使用されます。[<フォルダ名>の内容] ペインでも使用されます。



開いているフォルダを表します。ほかの項目を含んでいる場合と含んでいない場合があります。ドライブの下にフォルダだけが表示されている [すべてのフォルダ] ペインで使用されます。














ファイルまたはフォルダとそのすべての内容が、バックアップまたはリストアの対象として指定されていることを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名>の内容] ペインで使用されます。



フォルダの内容の一部がバックアップまたはリストアの対象として指定されていることを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名>の内容] ペインで使用されます。

アイコン 説明






- | | |
|---|--|
|  | バックアップまたはリストアの対象として指定されていないが、指定可能であるファイルまたはフォルダを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |
|  | オブジェクトのすべての内容がバックアップまたはリストアの対象として指定されているが、そのオブジェクト自体を指定できないことを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよびその内容で使用されます。 |
|  | オブジェクトの一部の内容がバックアップまたはリストアの対象として指定されているが、そのオブジェクト自体を指定できないことを表します。[すべてのフォルダ] ペインとその内容、および [<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |
|  | バックアップまたはリストアの対象として指定できないが、バックアップまたはリストアの対象として指定できるほかのオブジェクトを含むオブジェクトを表します。[すべてのフォルダ] ペインとその内容、および [<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |
|  | バックアップするように指定しなかったが、少なくともその内容の一部がバックアップされているフォルダを表します。NetBackup リストア ウィンドウの [すべてのフォルダ] ペインで使用されます。 |
|  | アイコンが関連付けられていないファイルを表します。[<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |
|  | レジストリ全体を表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。
レジストリの 2 つのベース キー HKEY_LOCAL_MACHINE と HKEY_USERS が表示されます。 |
|  | レジストリ キーを表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。キーにサブキーが含まれている場合は、[<フォルダ名> の内容] ペインでも使用されます。 |
|  | ネットワーク全体を表します。[すべてのフォルダ] ペインで使用されます。 |
|  | 特定のネットワークを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |
|  | ネットワーク内のドメインを表します。[すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名> の内容] ペインで使用されます。 |

ウィンドウ

[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウ



このウィンドウは、NetBackup を起動すると表示されます。ツールバーには次のボタンが表示されます。

ボタン	説明
	NetBackup バックアップ ウィンドウを開きます。
	NetBackup リストア ウィンドウを開きます。
	[ステータスの表示] ダイアログ ボックスを開きます。
	バックアップ イメージの一覧を更新します。このボタンは、リストア ウィンドウが開いており、フォーカスがある場合にのみ使用できます。
	オンライン ヘルプを開きます。

NetBackup バックアップ ウィンドウ



このウィンドウには、バックアップの対象として指定できるファイル、フォルダ、またはレジストリ キーが表示されます。このウィンドウを表示するには、次のような方法があります。

- ◆ [アクション] メニューの [バックアップするファイルとフォルダの選択] をクリックします。
- ◆ ツールバーの [バックアップ] をクリックします。

このウィンドウは個別に配置できます。[ウィンドウ] メニューのコマンドを使用して、ウィンドウを重ねて表示、並べて表示、または最小化することができます。

ボタン

ボタン 説明



このダイアログ ボックスからバックアップ操作を開始できます。[バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックスを開きます。



このウィンドウのすべてのファイル、フォルダ、およびレジストリ キーの指定を解除します。[編集] メニューの [すべての選択の解除] を選択して、このコマンドを実行することもできます。

ウィンドウ

ボタン 説明



バックアップ操作中に [プレビュー リスト] ダイアログ ボックスを開きます。[編集] メニューの [プレビュー リスト] を選択して、このコマンドを実行することもできます。



ファイルとフォルダだけを表示します。[表示] メニューの [ファイルの一覧] を選択して、このコマンドを実行することもできます。



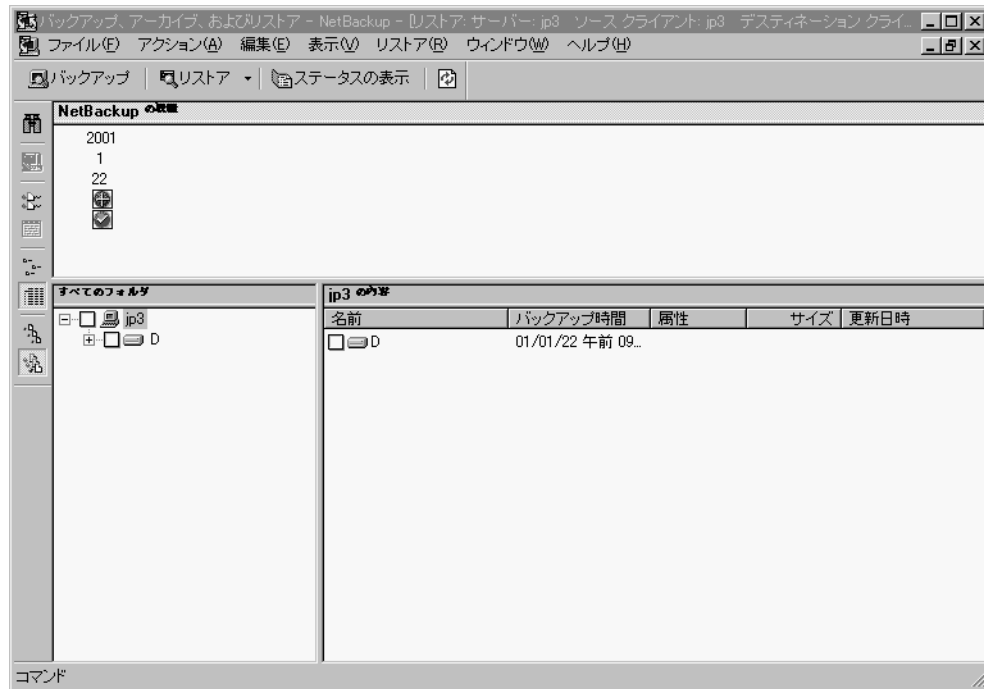
ファイル、フォルダ、およびレジストリ キーの詳細 (サイズやアクセス権の種類など) を表示します。[表示] メニューの [ファイルの詳細] を選択して、このコマンドを実行することもできます。

ペイン

NetBackup バックアップ ウィンドウには、[すべてのフォルダ] と [<フォルダ名>の内容] の2つのペインが表示されます。

- ◆ ペインの幅を調整するには、カーソルを分割線の上に置きます。カーソルが両側に矢印の付いた形に変わります。マウスの左ボタンを押してこのカーソルを左右に移動し、分割線の位置を変更します。
- ◆ ペインのカラムのサイズを変更するには、カーソルをカラムのヘッダに移動し、両側に矢印の付いた形に変わる場所にカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押しながらマウスを左右に移動してカラムの幅を調整します。
- ◆ ペインの情報を並べ替えるには、並べ替える情報のカラムのヘッダをクリックします。たとえば、サイズ順にペインを並べ替えるには、[サイズ] カラムをクリックします。これによって、一覧はサイズが小さいものから順に並べ替えられます。もう一度 [サイズ] カラムをクリックすると、大きいものから順に並べ替えられます。

NetBackup リストア ウィンドウ



このウィンドウには、リストアの対象として指定できるファイル、フォルダ、またはレジストリキーが表示されます。このウィンドウを表示するには、次のような方法があります。

- ◆ [アクション] メニューの [リストアするファイルとフォルダの選択] をクリックし、適切なリストアのタイプを選択します。
- ◆ 以前に開いたものと同じタイプのリストアを開くには、ツールバーの [リストア] をクリックします。
- ◆ 異なるタイプのリストアを開くには、[リストア] ボタンの横にある矢印をクリックし、適切なタイプのリストアを選択します。

このウィンドウのフォルダ ツリーには、バックアップされているファイルおよびフォルダだけが表示されます。このウィンドウは個別に配置できます。[ウィンドウ] メニューのコマンドを使用して、ウィンドウを重ねて表示、並べて表示、または最小化することができます。

ウィンドウ

注 クライアントが複数のクラスに属している場合、開始日には、最後に行われたフルバックアップのうち、最も古い日付がデフォルトで設定されます。たとえば、クライアントが **ClassA** と **ClassB** に属しており、両方のクラスでフルバックアップが行われたとします。**ClassA** の最後のフルバックアップが、**ClassB** の最後のフルバックアップより前に行われた場合、**ClassA** のフルバックアップ以降にバックアップされたファイルが表示されます。

注 ツールイメージのバックアップからリストアする場合、**NetBackup** リストアウィンドウにはツールイメージのバックアップに含まれていたフォルダだけが表示されます。ツールイメージのリストアでは個別のファイルを選択できないので、このウィンドウにファイルは表示されません。

注 **NetBackup** リストアウィンドウにファイル、フォルダ、またはレジストリキーが何も表示されない場合は、次の点を確認してください。

NetBackup リストアウィンドウにファイルやフォルダが表示されない場合は、次のような理由が考えられます。

- ◆ [デフォルト検索を実行] が有効になっていません。この場合は、[リストア]メニューの [バックアップの検索] をクリックして手動で検索を開始します。バックアップ内のファイルを表示する場合は、バックアップイメージをクリックします。
- ◆ **NetBackup** サーバーに、このクライアントのファイルのバックアップがありません。クライアントが適切なサーバーに接続されていることを確認します（「[サーバー] プロパティシート (70 ページ)」を参照してください）。また、正しいクライアント名を使用していることを確認します（「[一般] プロパティシート (63 ページ)」を参照してください）。タイトルバーも参考になります。これらの設定が正しく、バックアップが確実に存在する場合は、システム管理者に問い合わせてください。

ボタン

ボタン 説明



[バックアップの検索] ダイアログ ボックスを開きます。








このダイアログ ボックスからリストア操作を開始できます。[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスを開きます。



このウィンドウのすべてのファイル、フォルダ、またはレジストリキーの指定を解除します。[編集] メニューの [すべての選択の解除] を選択して、このコマンドを実行することもできます。

ボタン 説明

-  リストア操作中に [プレビュー リスト] ダイアログ ボックスを開きます。[編集] メニューの [選択したファイルのプレビュー リスト] を選択して、このコマンドを実行することもできます。
-  ファイルとフォルダだけを表示します。[表示] メニューの [ファイルの一覧] を選択して、このコマンドを実行することもできます。
-  ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの詳細 (サイズやアクセス権の種類など) を表示します。[表示] メニューの [ファイルの詳細] を選択して、このコマンドを実行することもできます。
-  現在選択しているイメージのファイル、フォルダ、またはレジストリ キーのすべてのインスタンスを表示します。[表示] メニューの [すべてのバックアップの表示] を選択して、このコマンドを実行することもできます。
-  選択したバックアップ イメージに含まれるファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの最新のバックアップを表示します。[表示] メニューの [最新のバックアップの表示] を選択して、このコマンドを実行することもできます。

ペイン

NetBackup リストア ウィンドウは3つのペインに分かれています。上部には [NetBackup 履歴] ペイン、左下には [すべてのフォルダ] ペイン、右下には [<フォルダ名> の内容] ペインが表示されます。

- ◆ [NetBackup 履歴] ペインの高さを調整するには、カーソルを横の分割線の上に置きます。カーソルが両側に矢印の付いた形に変わります。マウスの左ボタンを押してこのカーソルを上下に移動し、分割線の位置を変更します。
- ◆ [すべてのフォルダ] ペインおよび [<フォルダ名> の内容] ペインの幅を調整するには、カーソルを縦の分割線の上に置きます。カーソルが両側に矢印の付いた形に変わります。マウスの左ボタンを押してこのカーソルを左右に移動し、分割線の位置を変更します。
- ◆ ペインのカラムのサイズを変更するには、カーソルをカラムのヘッダに移動し、両側に矢印の付いた形に変わる場所にカーソルを置きます。マウスの左ボタンを押しながらマウスを左右に移動してカラムの幅を調整します。
- ◆ ペインの情報を並べ替えるには、並べ替える情報のカラムのヘッダをクリックします。たとえば、サイズ順にペインを並べ替えるには、[サイズ] カラムをクリックします。これによって、一覧はサイズが小さいものから順に並べ替えられます。もう一度 [サイズ] カラムをクリックすると、大きいものから順に並べ替えられます。

[NetBackup 履歴] ペイン

[NetBackup 履歴] ペインには、NetBackup のイメージが表示されます。最初に開いたときには、次のバックアップ イメージがデフォルトで選択されます。

- ◆ 最新のフルバックアップ。

ウィンドウ

- ◆ 最新のフルバックアップ以降のすべての累積インクリメンタルバックアップおよび差分インクリメンタルバックアップ。
 - ◆ 最新のフルバックアップ以降に行われたすべてのユーザー指定のバックアップ。
- フルバックアップが存在しない場合は、最新のイメージだけが選択されます。

▼ [NetBackup 履歴] ペインを開くには

- ◆ 横の分割線にカーソルを置きます。カーソルが両側に矢印の付いた形に変わります。マウスの左ボタンを押し、このカーソルを上下に移動して分割線の変更します。
- または
- ◆ [表示] メニューの [NetBackup 履歴の分割] をクリックします。カーソルが両側に矢印の付いた形に変わります。このカーソルを上下に移動して分割線の変更します。マウスの左ボタンをクリックして位置を固定します。

▼ タイムライン形式のバックアップ履歴









[NetBackup 履歴] ペインをタイムライン形式で表示するには、[表示] メニューの [NetBackup 履歴を時間帯で表示] をクリックします。

イメージを表すアイコンは、バックアップの日付のすぐ下に表示されます。四角形で囲まれたアイコンは、選択されたバックアップ イメージを表します。日付の下に複数のバックアップ イメージのアイコンが表示される場合があります。最新のバックアップ イメージは一覧の一番上に表示されます。アイコン上にカーソルを移動すると、ツール ヒントにバックアップのスケジュール タイプと日時が表示されます。

ヒント ツール ヒントが表示されない場合は、[表示] メニューから [ツールバー オプション] ダイアログ ボックスを開き、[ヒントを表示] を選択します。

アイコン 説明

-  この緑のアイコンはフルバックアップを表します。
-  この青のアイコンは差分インクリメンタルバックアップを表します。
-  この薄い青のアイコンは累積インクリメンタルバックアップを表します。
-  この赤のアイコンはユーザー指定のバックアップを表します。
-  この黄色のアイコンはユーザー指定のアーカイブを表します。
-  この灰色のアイコンは未知のタイプのバックアップを表します。

▼ バックアップ イメージを選択するには

- ◆ 1つのバックアップ イメージを選択するには、バックアップ イメージをクリックします。
- ◆ 特定の範囲のバックアップ イメージを選択するには、最初のイメージをクリックし、Shift キーを押しながら最後のイメージをクリックします。

▼ 詳細情報を一覧にしたバックアップ履歴



バックアップ時間	有効期限	ファイル	サイズ	圧縮	スケジュールタイプ	クラス名
01/01/22 午後 06:10:42	01/02/05	0	1	N	累積インクリメンタ	practice
01/01/22 午前 09:51:07	01/02/05	24	4736	N	フル バックアップ	practice

[NetBackup 履歴] ペインを詳細な一覧形式で表示するには、[表示] メニューの [NetBackup 履歴を時間帯で表示] チェックボックスをクリアします。一覧は最新のバックアップから順に、次の情報 (左から右) が表示されます。

- ◆ バックアップが行われた日時。
- ◆ バックアップの期限が切れて [NetBackup 履歴] ペインから削除される日付。

ウィンドウ

- ◆ バックアップ内のファイル数。
- ◆ バックアップのサイズ (KB)。
- ◆ バックアップが圧縮されているかどうか (圧縮されている場合は Y、圧縮されていない場合は N)。
- ◆ スケジュールのタイプ。
- ◆ バックアップに関連付けられたクラスの名前。クラス名はシステム管理者が設定します。詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』または『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』を参照してください。
- ◆ バックアップに関連付けられたキーワード。

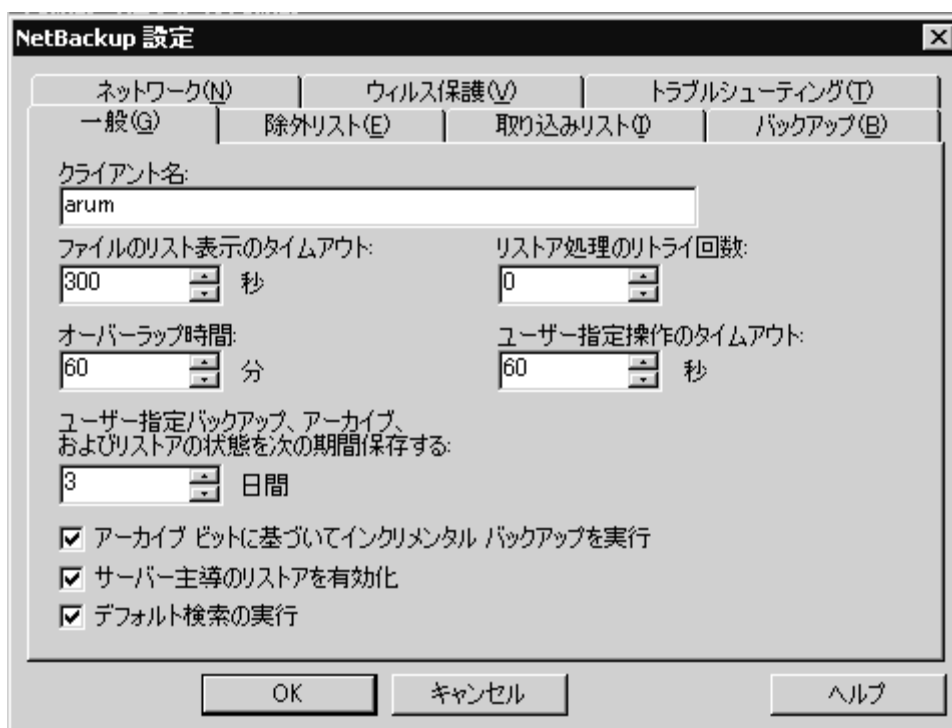
ダイアログ ボックス

ここでは、NetBackup ブラウザのダイアログ ボックスについて説明します。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

ここでは、[NetBackup 設定] ダイアログ ボックスのプロパティシートについて説明します。

[一般] プロパティ シート



このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [一般] タブをクリックします。

このプロパティ シートを使用して、クライアントの設定パラメータを設定します。以下のパラメータは、システム管理者が変更します。

- ◆ [クライアント名]
- ◆ [リスト ファイル タイムアウト]
- ◆ [リストアのリトライ]

ダイアログ ボックス

- ◆ [オーバーラップ時間]
- ◆ [ユーザー指定操作のタイムアウト]
- ◆ [アーカイブ ビットに基づいてインクリメンタル バックアップを実行]
- ◆ [サーバー主導のリストアを有効化]

これらのパラメータの詳細については、「[一般] プロパティシート (109 ページ)」を参照してください。

以下のパラメータは、NetBackup クライアント ユーザーおよびシステム管理者が変更できません。

**ユーザー指定
バックアップ、
アーカイブ、お
よびリストアの
状態を次の期間
保存する**

保存されたプロGRESS レポートが自動的に削除されるまでの日数を指定します。デフォルトは3日です。最小許容値は0です。最大値は9,999です。

**デフォルト検索
を実行**

選択した場合、リストア ウィンドウを開いたときに、自動的にデフォルトの範囲のバックアップ イメージが検索され、バックアップされたフォルダおよびファイルが表示されます。

このチェックボックスをクリアすると、初期検索は無効になります。NetBackup リストア ウィンドウを最初に開いたときに、ファイルやフォルダは表示されません。バックアップ イメージをクリックするか、またはバックアップ イメージの範囲を選択すると、検索が開始されます。

デフォルトでは、このチェックボックスは選択されています。

OK

パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。

キャンセル

このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ヘルプ

このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[除外リスト] プロパティ シート

このプロパティ シートのパラメータは、システム管理者が変更します。これらのパラメータの詳細については、「[除外リスト] プロパティシート (112 ページ)」を参照してください。

[取り込みリスト] プロパティ シート

このプロパティ シートのパラメータは、システム管理者が変更します。これらのパラメータの詳細については、「[取り込みリスト] プロパティ シート (114 ページ)」を参照してください。

[バックアップ] プロパティ シート



このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [バックアップ] タブをクリックします。

このプロパティ シートは、クライアントからバックアップを開始するときに、使用するクラスおよびスケジュールを指定するために使用します。

注 このプロパティ シートで行った変更は、現在開いているバックアップ ウィンドウには適用されません。変更内容は、このプロパティ シートの変更を保存した後に開いたすべてのバックアップ ウィンドウに適用されます。

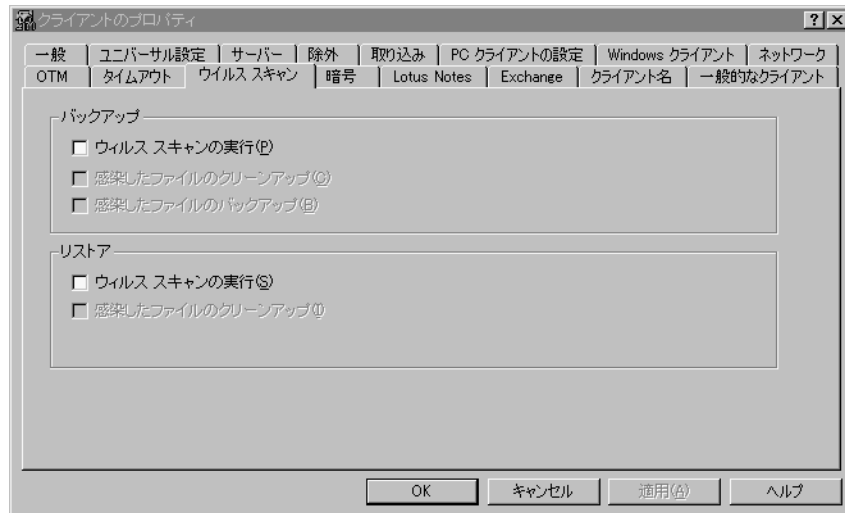
ダイアログ ボックス

- バックアップ クラス** このクライアントについて、ユーザー指定のバックアップで使用するクラスを指定します。この値を「任意（デフォルト）」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のバックアップ スケジュールの両方について見つかった最初のクラスが使用されます。
- バックアップ スケジュール** このクライアントについて、ユーザー指定のバックアップで使用するスケジュールを指定します。この値を「任意（デフォルト）」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のバックアップ スケジュールの両方について見つかった最初のクラス内にある最初のユーザー指定のバックアップ スケジュールが使用されます。
- アーカイブ クラス** このクライアントについて、ユーザー指定のアーカイブで使用するクラスを指定します。この値を「任意（デフォルト）」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のアーカイブ スケジュールの両方について見つかった最初のクラスが使用されます。
- アーカイブ スケジュール** このクライアントについて、ユーザー指定のアーカイブで使用するユーザー指定のアーカイブ スケジュールを指定します。この値を「任意（デフォルト）」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のアーカイブ スケジュールの両方について見つかった最初のクラス内にある最初のユーザー指定のアーカイブ スケジュールが使用されます。
- OK** パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
- キャンセル** このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
- ヘルプ** このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[ネットワーク] プロパティ シート

このプロパティ シートのパラメータは、システム管理者が変更します。これらのパラメータの詳細については、「[ネットワーク] プロパティ シート (116 ページ)」を参照してください。

[ウイルス保護] プロパティ シート



このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [ウイルス保護] タブをクリックしてこのプロパティ シートを開きます。

このプロパティ シートは、NetBackup クライアントをバックアップする前にデータのウイルス スキャンの実行を設定するために使用します。デフォルトでは、ウイルス検出は無効になっています。

注 このダイアログ ボックスでの変更内容およびオプションは、開いているウィンドウには適用されません。値はマシンごとに設定されます。オプションの値を変更した場合は、どこで操作を開始するかに関係なく、次にバックアップまたはリストア操作を実行するときに変更した値が使用されます。

バックアップ用にウイルス スキャンを実行 ウィルス スキャンを実行し、感染したファイルを検出するには、このオプションを選択します。感染したファイルの修正またはバックアップは行われません。アクティビティ ログが更新され、スキャンしたファイルおよび感染したファイルの数が記録されます。

感染ファイルのクリーンアップ 感染したファイルを修正するには、このオプションを選択します。ファイルからウィルスを除去できない場合は、処理は中止され、ファイルはバックアップされません。アクティビティ ログが更新され、感染したファイルの名前および関連するウィルス名が記録されます。

ダイアログ ボックス

感染ファイルのバックアップ	感染したファイルをバックアップに含めるには、このオプションを選択します。ただし、感染したファイルをバックアップすることはお勧めできません。データを別のシステムにリストアした場合、そのデータにもウイルスが含まれています。アクティビティ ログが更新され、感染したファイルの名前および関連するウイルス名が記録されます。
リストア用にウイルス スキャンを実行	ウイルス スキャンを実行し、感染したファイルを検出するには、このオプションを選択します。感染したファイルの修正またはリストアは行われません。アクティビティ ログが更新され、スキャンしたファイルおよび感染したファイルの数が記録されます。
感染ファイルのクリーンアップ	感染したファイルを修正するには、このオプションを選択します。ファイルからウイルスを除去できない場合は、処理は中止され、ファイルはリストアされません。アクティビティ ログが更新され、感染したファイルの名前および関連するウイルス名が記録されます。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

アクティビティ ログ

結果はクライアントのアクティビティ ログに記録されます。ウイルス スキャンについてアクティビティ ログの記録を有効にするには、クライアントに次のログ ディレクトリ、bpbkar または bpcd を作成します。

`install_path\NetBackup\logs\bpbkar` (Windows NT/2000 の場合)

`install_path\NetBackup\logs\bpcd` (Windows 95 および 98 の場合)

ログは、次のような形式でアクティビティ ログ ディレクトリに書き込まれます。

`yymmdd.log`

感染したファイルに関するメッセージはサーバーにも送信され、レポートに表示されません。

制限事項

- ◆ 次のような状態のファイルについては、ウイルス スキャンは実行されません。
 - ◆ 完全修飾ファイル名が 255 文字を超えるファイル
 - ◆ 開いてロックされているファイル
- ◆ 圧縮ファイル内のウイルスは、検出され、アクティビティ ログにレポートされますが、除去することはできません。

ウイルス スキャンに関する注意事項

NetBackup のウイルス スキャンを使用する前に、システムにインストールされているウイルス対策ソフトウェアを無効にします。ほかのアンチウイルス ソフトウェアによって、NetBackup のウイルス スキャン処理が遅くなる場合があります。また、不必要な警告や予期しない警告メッセージの原因となる場合があります。

新しいウイルスが次々と出現するので、常に保護署名 (.DAT) ファイルを更新しておく必要があります。このファイルは、VERITAS の ftp サイトから 30 日おきに手動でダウンロードすることをお勧めします。ダウンロードの手順は以下の通りです (インターネットにアクセスできる必要があります)。

推奨する ftp サイト

1. 次の VERITAS のサポート ftp サイト から、最新の .ZIP ファイルをダウンロードします。
`ftp://ftp.support.veritas.com/pub/support/Products/nai/NetBackup/`

注 現在、/nai は隠しディレクトリです。

2. .ZIP ファイルを解凍し、CLEAN.DAT、NAMES.DAT、および SCAN.DAT ファイルを取り出します。
3. これらの .DAT ファイルを `install_path\NetBackup\bin` フォルダにコピーします。
4. 必要に応じて、ダウンロードした .ZIP ファイルを削除します。

その他の ftp サイト

1. McAfeeftp サイトから、最新の .ZIP ファイルをダウンロードします。
`ftp://ftp.mcafee.com/pub/antivirus/datfiles/4.x/`
2. .ZIP ファイルを解凍し、CLEAN.DAT、NAMES.DAT、および SCAN.DAT ファイルを取り出します。NetBackup で使用されるファイルはこの 3 つだけなので、残りのファイルは無視してください。
3. CLEAN.DAT、NAMES.DAT、および SCAN.DAT ファイルを `install_path\NetBackup\bin` フォルダにコピーします。
4. 必要に応じて、ダウンロードした .ZIP ファイル、およびその他の解凍したファイルを削除します。

[トラブルシューティング] プロパティ シート

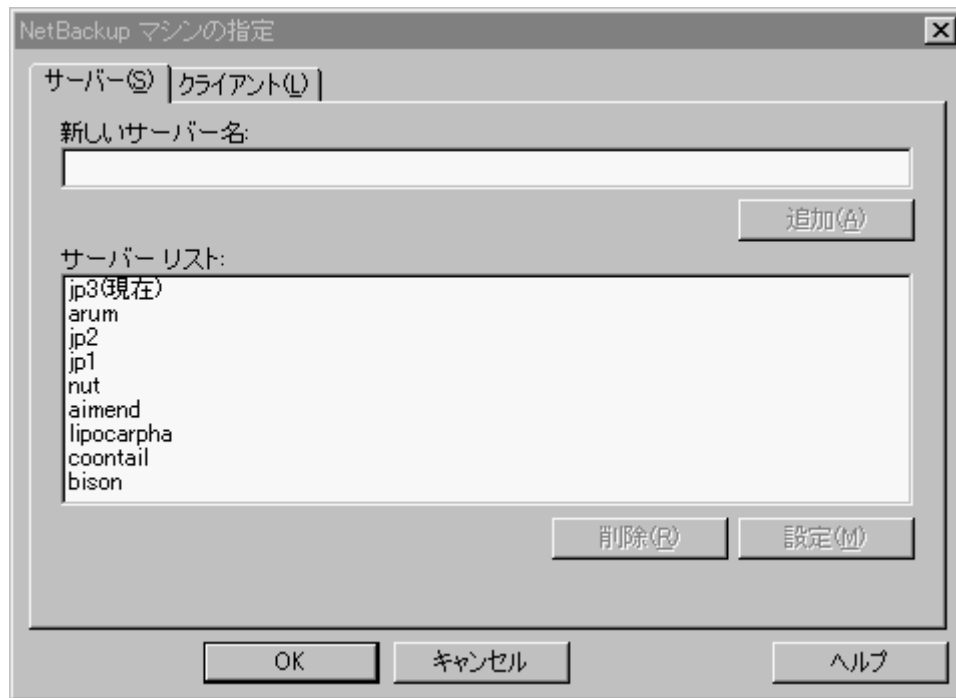
このプロパティ シートのパラメータは、システム管理者が変更します。これらのパラメータの詳細については、「[トラブルシューティング] プロパティ シート (117 ページ)」を参照してください。

ダイアログ ボックス

[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス

ここでは、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスのプロパティシートについて説明します。

[サーバー] プロパティ シート



このプロパティシートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] を選択します。
2. [サーバー] プロパティシートをクリックします。

ダイアログ ボックス

このプロパティシートは、**NetBackup** サーバーを追加または削除したり、ユーザー操作で使用する現在のサーバーを指定するために使用します。

新しいサーバー名 別の **NetBackup** サーバーを [サーバー リスト] に追加するには、[新しいサーバー名] テキスト ボックスに新しいサーバーの名前を入力し、[追加] をクリックします。この名前は、そのサーバー上でシステム管理者が定義した名前であればなりません。

このダイアログ ボックスで新しいサーバーを一覧に追加すると、現在開いているすべてのウィンドウおよび以降に開く新しいウィンドウのサーバーの一覧に表示されます。新しいサーバーは、現在のウィンドウを閉じた後、[サーバー リスト] ボックスに保存されます。

追加 [新しいサーバー名] ボックスに入力されたサーバーを [サーバー リスト] に追加します。

サーバー リスト スケジュールされたバックアップについてクライアントにアクセスする必要がある **NetBackup** サーバー、およびユーザー指定のバックアップを実行するときに使用されるその他のサーバーの名前を表示します。スケジュールされたクライアントのバックアップを実行するマスターサーバーおよびリモート メディア サーバーは、この一覧に表示されている必要があります。「現在」として指定されたマシンは、ユーザー指定の操作で使用されるサーバーです。

サーバーを「現在」として指定するには、[サーバー リスト] でサーバーを選択し、[設定] をクリックします。サーバー名の横に「現在」という単語がかっこに囲まれて表示されます。

削除 サーバーを削除します。まず、[サーバー リスト] でサーバーを強調表示し、[削除] をクリックします。

注： マスターサーバーは [サーバー リスト] から削除できません。ほかのサーバーはこの一覧から削除できますが、リモート メディアサーバーを削除しないように注意してください。リモート メディアサーバーを削除すると、スケジュールされたバックアップが実行されなくなります。[サーバー リスト] に対する変更の詳細については、『**NetBackup System Administrator's Guide - UNIX**』または『**NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000**』を参照してください。

設定 まず、[サーバー リスト] でサーバーを強調表示し、[設定] をクリックします。現在のサーバーの変更は、選択したウィンドウにのみ有効です。現在選択しているウィンドウを閉じると、この設定は破棄されます。

OK パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。

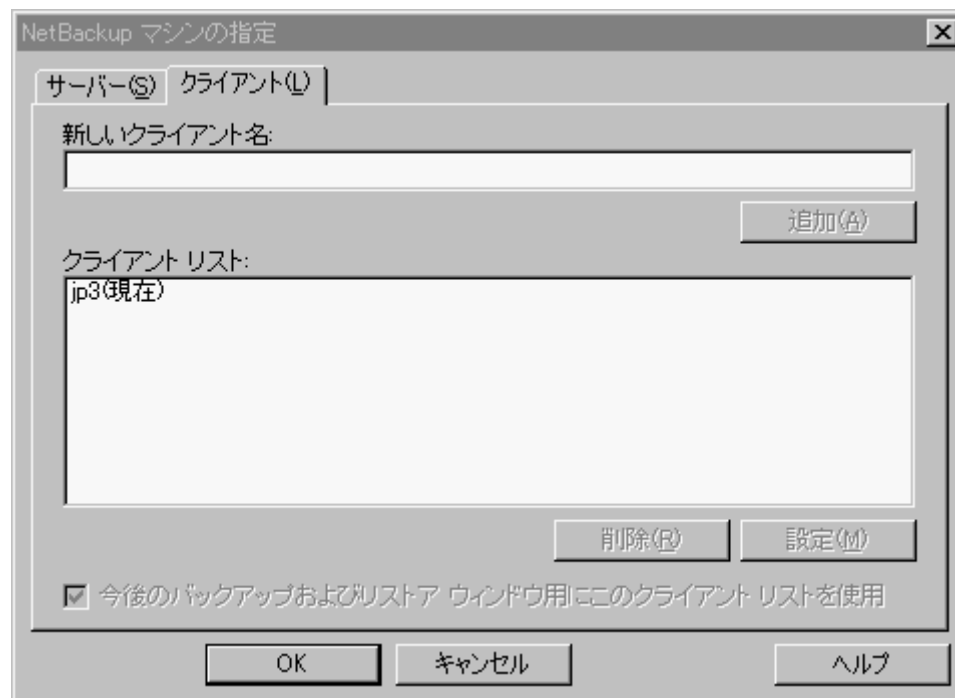
キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ダイアログ ボックス

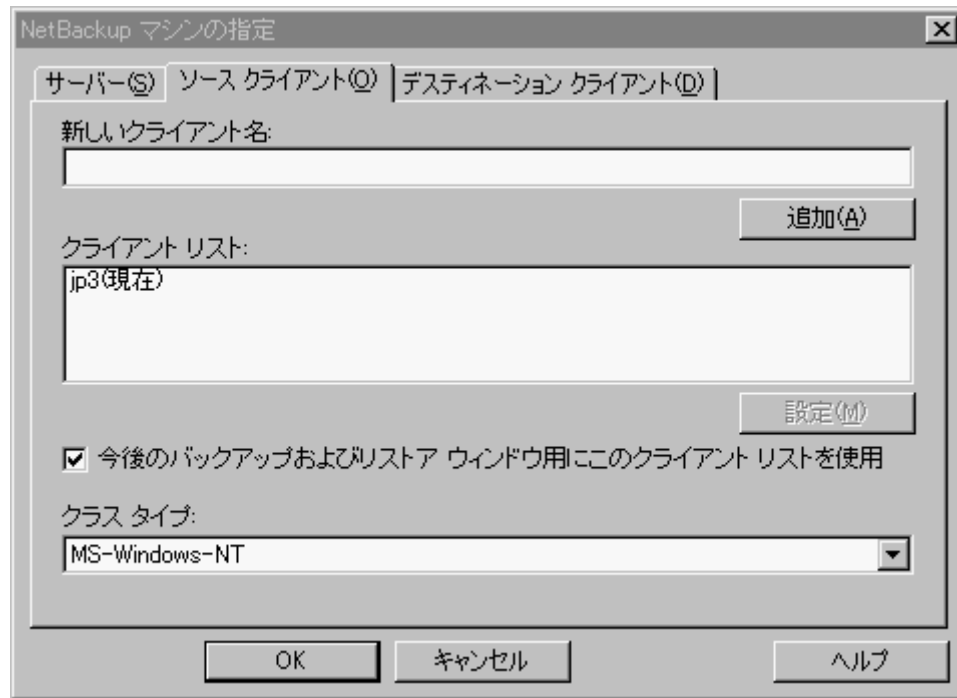
ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[クライアント] プロパティ シート

[クライアント] プロパティ シートを開いたときに、NetBackup バックアップ ウィンドウがアクティブである場合は、次のようなプロパティ シートが表示されます。



[クライアント] プロパティシートを開いたときに、NetBackup リストア ウィンドウがアクティブである場合は、次のようなプロパティシートが表示されます。



このプロパティシートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。
2. [クライアント] プロパティシートを選択します。

このプロパティシートは、バックアップをクライアントにリストアするリモートクライアント選択するために使用します。リモートクライアントの名前を追加することもできます。

注 このプロパティシートで行った変更の多くは、現在開いているバックアップ ウィンドウまたはリストア ウィンドウには適用されません。ただし、クライアントを追加した場合は、開いているウィンドウをそのクライアントに切り替えることができます。

ダイアログ ボックス

新しいクライアント名 別のクライアント名を [クライアント リスト] に追加するには、[新しいクライアント名] テキスト ボックスにクライアントの名前を入力し、[追加] をクリックします。入力するクライアント名は、NetBackup サーバー上のクラスでも定義されている必要があります。

新しいクライアントを一覧に追加すると、現在開いているすべてのウィンドウおよび以降に開く新しいウィンドウのクライアントの一覧に表示されます。新しいクライアントは、現在のウィンドウを閉じた後、[クライアント リスト] ボックスに保存されます。

追加 [新しいクライアント名] ボックスに入力されたクライアントを [クライアント リスト] に追加します。

クライアント リスト [クライアント リスト] には、コンピュータのクライアント名が表示されます。リモートの NetBackup クライアントの名前が表示される場合もあります。NetBackup 操作の対象となるローカルまたはリモートの NetBackup クライアントを選択できます。

リモート クライアントからブラウズおよびリストアを実行するには、NetBackup サーバー管理者が必要なアクセス権を設定している必要があります。

NetBackup クライアントに対して NetBackup 操作を実行するには、[クライアント リスト] でクライアント名を選択し、[設定] をクリックします。新しいデフォルトのクライアントの名前の横に「現在」という単語がかっこに囲まれて表示されます。

削除 クライアントを削除します。まず、[クライアント リスト] でクライアントを強調表示し、[削除] をクリックします。

設定 リストア操作のためにブラウズするクライアントのバックアップ イメージを指定します。まず、[クライアント リスト] でクライアントを強調表示し、[設定] をクリックします。現在のクライアントの変更は、選択したウィンドウにのみ有効です。現在選択しているウィンドウを閉じると、この設定は破棄されます。

クラス タイプ [クライアント リスト] で選択したクライアントのクラス タイプを表示し、選択します。このクラス タイプは、NetBackup サーバー上の NetBackup の設定でクライアントについて指定されているタイプと同じでなければなりません。

今後のバックアップおよびリストアウィンドウ用にこのクライアント リストを使用 選択した場合、クライアントの一覧に対する変更内容は、このプロパティシートの変更を保存した後に開いたすべてのバックアップ ウィンドウに適用されます。

ダイアログ ボックス

OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[ステータスの表示] ダイアログ ボックス



このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

- ◆ [アクション] メニューの [ステータスの表示] をクリックします。
- ◆ [バックアップ、アーカイブ、およびリストア (NetBackup)] ウィンドウのツールバーの [ステータスの表示] をクリックします。

このダイアログ ボックスは、プロGRESS レポート内の各ユーザー操作の結果を表示するために使用します。

ダイアログ ボックス

注 バックアップが複数のメディア ID に分割されている場合は、[ステータス] にすべてのメディアが表示されます。ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーをリストアするために必要なものだけが使用されます。

処理リスト	<p>NetBackup 処理のステータス レポートを表示します。最新の NetBackup 処理はリストの一番上に表示されます。</p> <p>デフォルトでは、NetBackup 操作のステータス レポートは NetBackup クライアント上に 3 日間保存されます。[ユーザー指定バックアップ、アーカイブ、およびリストアの状態を次の期間保存する] という設定の変更の詳細については、「[一般] プロパティシート (63 ページ)」を参照してください。</p>
処理タイプ	<p>選択したプロGRESS レポートについて、バックアップ、アーカイブまたはリストアのいずれかの NetBackup 処理のタイプを表示します。</p>
要求した時間	<p>選択した NetBackup 操作の開始日時を表示します。開始日時の表示形式は、コンピュータ上で日時の表示がどのように設定されているかによって異なります。</p>
処理ステータス	<p>NetBackup 処理のステータスを表示します。</p>
閉じる	<p>ダイアログ ボックスを閉じます。[閉じる] をクリックしても、NetBackup が終了したり、ほかのダイアログ ボックスやウィンドウに影響したりしません。</p>
削除	<p>操作の一覧で選択したプロGRESS レポートを削除します。まず、操作の一覧でプロGRESS レポートを選択し、[削除] をクリックします。</p> <p>操作のステータス レポートは、指定した日数が経過すると自動的に削除されます。[NetBackup 設定] ダイアログ ボックスの [一般] プロパティシートにある [ユーザー指定バックアップ、アーカイブ、およびリストアの状態を次の期間保存する] パラメータで、日数を指定します。</p>
ヘルプ	<p>このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。</p>
リフレッシュ レート (秒)	<p>選択した操作について、[ステータス] 表示を更新する間隔を変更します。推奨値は 10 です。このパラメータは NetBackup の操作中にいつでも設定できます。</p> <p>[リフレッシュ レート (秒)] に値を秒単位で入力します。</p> <p>または</p> <p>[リフレッシュ レート (秒)] の右側にあるスピン ボタンをクリックします。値を 0 にすると、自動更新は無効になります。</p>

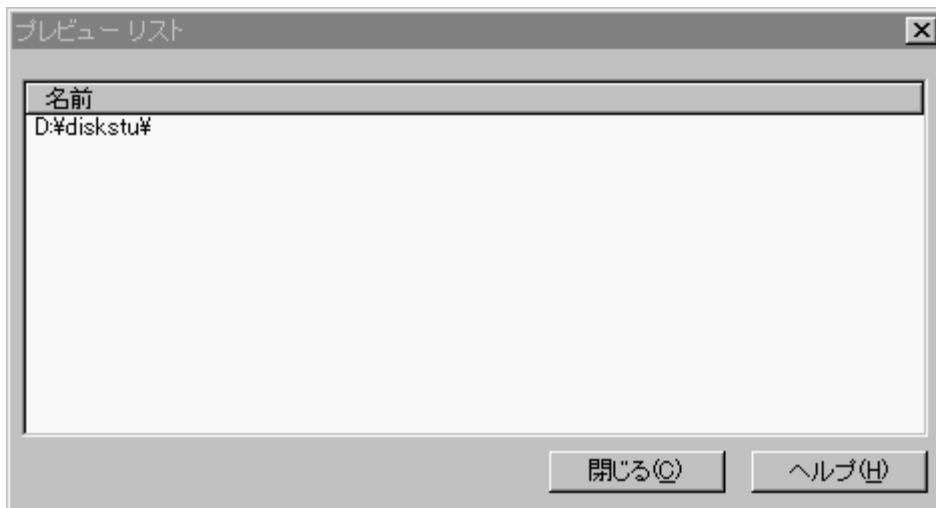
更新	選択した NetBackup 操作の [ステータス] 表示を更新します。[更新] は操作の一覧で NetBackup 操作を選択しているときに使用できます。
詳細	選択した NetBackup 操作について、さらに詳細なプロGRESS レポートを生成します。
印刷	Microsoft Windows の [印刷] ダイアログ ボックスを開き、選択した NetBackup 操作の PROGRESS レポートを印刷します。
進行状況	<p>バックアップ操作の進行状況を表示します。[リフレッシュ レート (秒)] パラメータが 0 の場合は、[更新] をクリックして、選択した NetBackup 操作の進行状況を表示できます。</p> <p>各メッセージの先頭には、関連するイベントの時刻とメッセージの性質を示す略語が表示されます。[ステータス] にはデータを格納するために使用されたすべてのメディア ID も表示されます。</p> <p>さらに詳細な PROGRESS レポートを表示するには、[詳細] を選択します。</p> <p>以下に略語の一覧を示します。</p> <p>注： NetBackup がインストールされているドライブに空き領域がない場合は、ジョブの開始と終了を示すメッセージを除いて、進行状況のメッセージは表示されません。</p> <p>DAT デバッグに役立つ情報のメッセージ</p> <p>ERR エラーのメッセージ</p> <p>FTL 致命的なエラーのメッセージ</p> <p>INF 参考情報のメッセージ (エラーは発生していません)</p> <p>TRV 軽微なエラーのメッセージ</p> <p>WRN 警告エラーのメッセージ</p>

ダイアログ ボックス

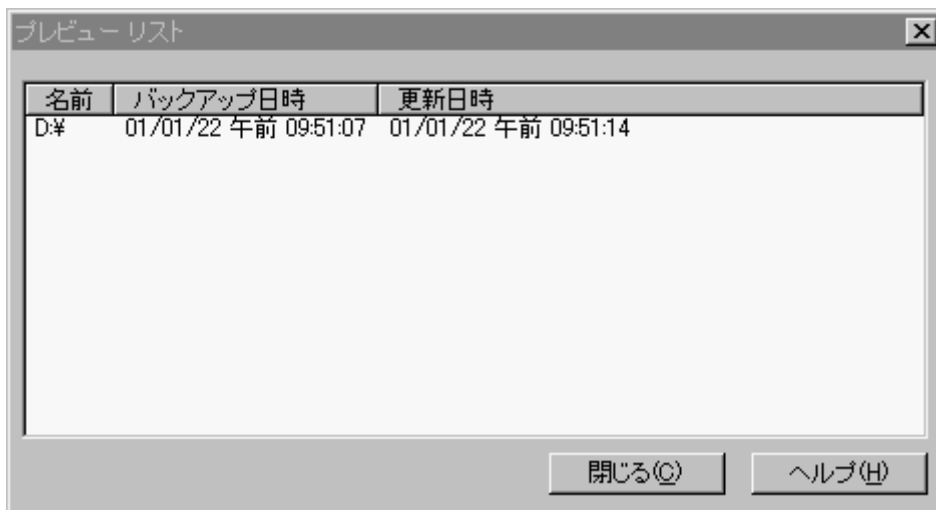
[プレビュー リスト] ダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

- ◆ NetBackup バックアップ ウィンドウで、[プレビュー リスト] ボタンをクリックします。次のダイアログ ボックスが表示されます。



- ◆ NetBackup リストア ウィンドウで、[プレビュー リスト] ボタンをクリックします。次のダイアログ ボックスが表示されます。



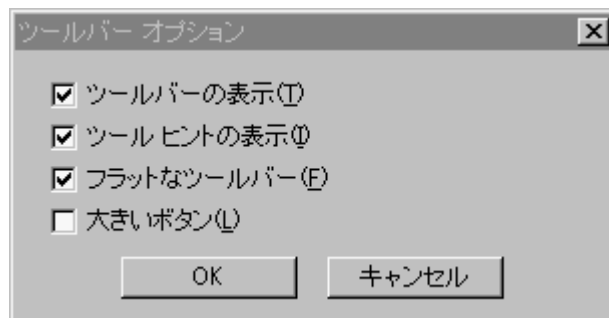
ダイアログ ボックス

- ◆ [編集] メニューの [選択したファイルのプレビュー リスト] をクリックします。表示される [プレビュー リスト] ダイアログ ボックスは、現在選択しているバックアップまたはリスト ウィンドウによって異なります。

このダイアログ ボックスは、指定したすべてのファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを表示するために使用します。このダイアログ ボックスは表示専用です。

- 名前 リストアされるファイルまたはフォルダを表示します。
- バックアップ時 バックアップが開始された時刻を表示します。
- 間
- 更新日時 バックアップされたファイルまたはディレクトリが変更された日時を表示します。
- 閉じる ダイアログ ボックスを閉じます。[閉じる]をクリックしても、NetBackup が終了したり、ほかのダイアログ ボックスやウィンドウに影響したりしません。
- ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[ツールバー オプション] ダイアログ ボックス



このダイアログ ボックスを表示するには、[表示] メニューの [ツールバー オプション] を選択します。このダイアログ ボックスは、NetBackup ブラウザの表示オプションを制御するために使用します。

ツールバーを表 NetBackup のツールバーを表示します。

示

ヒントを表示 ツール ヒントを表示します。マウスのポインタを NetBackup ブラウザの各要素の上に移動すると、ツール ヒントが表示されます。

フラットな ツールバー 選択した場合は、メイン (または水平な) ツールバーのボタンが、2次元のボタンとして表示されます。選択しない場合は、ボタンは3次元のボタンとして表示されます。

ダイアログ ボックス

大きいボタン	選択した場合は、ツールバーのボタンに、大きなボタンのアイコンとテキストが表示されます。選択しない場合は、小さいアイコンだけがボタンに表示されます。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

[バックアップ クラスとスケジュール] ダイアログ ボックス

ここでは、[バックアップ クラスとスケジュール] ダイアログ ボックスのプロパティシートについて説明します。

[バックアップ] プロパティ シート



このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [バックアップ] メニューの [クラスとスケジュールの指定] をクリックします。
2. [バックアップ] タブをクリックしてこのプロパティ シートを開きます。

ダイアログ ボックス

このプロパティシートは、クライアントからバックアップを開始するときに、使用するクラスおよびスケジュールを指定するために使用します。

バックアップ クラス このクライアントについて、ユーザー指定のバックアップで使用するクラスを指定します。この値を「任意 (デフォルト)」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のバックアップ スケジュールの両方について見つかった最初のクラスが使用されます。

バックアップ スケジュール このクライアントについて、ユーザー指定のバックアップで使用するスケジュールを指定します。この値を「任意 (デフォルト)」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のバックアップ スケジュールの両方について見つかった最初のクラス内にある最初のユーザー指定のバックアップ スケジュールが使用されます。

アーカイブ クラス このクライアントについて、ユーザー指定のアーカイブで使用するクラスを指定します。この値を「任意 (デフォルト)」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のアーカイブ スケジュールの両方について見つかった最初のクラスが使用されます。

アーカイブ スケジュール このクライアントについて、ユーザー指定のアーカイブで使用するユーザー指定のアーカイブ スケジュールを指定します。この値を「任意 (デフォルト)」に設定すると、クライアント名とユーザー指定のアーカイブ スケジュールの両方について見つかった最初のクラス内にある最初のユーザー指定のアーカイブ スケジュールが使用されます。

OK パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。

キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

ダイアログ ボックス

[バックアップの検索] ダイアログ ボックス

バックアップの検索

検索フォルダ:
C:\

大文字小文字を区別しない

キーワード フレーズ (オプション):

開始日:
01/01/22 午後 12:33:19

終了日:
01/01/22 午後 12:33:19

検索(S) キャンセル ヘルプ

このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

- ◆ [リストア] メニューの [バックアップの検索] をクリックします。
- ◆ NetBackup リストア ウィンドウのツールバーの [バックアップの検索] をクリックします。

ダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスは、リストアのためのバックアップ履歴の検索パラメータを絞り込むために使用します。

検索フォルダ 検索するフォルダまたはレジストリ キーを表示します。[検索フォルダ]の初期値は「:¥」です。NetBackup リストア ウィンドウでフォルダを選択すると、そのフォルダが新しいデフォルト値になります。

パスを変更するには、新しいパスを入力し、Enter キーを押します。

フルパス名を入力すると、選択したバックアップ イメージ内で指定したパスおよびファイルが検索されます。ファイル名だけ (csb.tmp や *.tmp など) を入力すると、[すべてのフォルダ] ペインに、指定したファイルが見つかったフォルダが表示されます。

次のワイルドカード文字を使用できます。

*

?

ヒント: 検索を開始する前に、[すべてのフォルダ] ペインのツリーをできるだけ折りたたんでおきます。検索基準に一致するフォルダのツリーが展開されます。

**大文字/小文字を
区別しない検索
の実行** 大文字と小文字を区別せずに検索するには、[大文字/小文字を区別しない検索の実行]を選択します。

検索パスは、大文字と小文字の区別を含めて、NetBackup サーバー上のデータベースにあるパスと一致している必要があります。[大文字/小文字を区別しない検索の実行] チェックボックスを選択した場合は、大文字と小文字を区別せずに検索が開始されます。デフォルトでは、このチェックボックスは選択されていません。

**キーワードフ
レーズ (省略可)** バックアップ イメージに関連付けるキーワードフレーズを入力します。

**開始日時および
終了日時** [開始日時] および [終了日時] を表示し、選択します。[開始日時] および [終了日時] には、検索の対象となるバックアップの範囲が表示されます。デフォルトでは、開始日は最後のフルバックアップの時刻で、終了日は最新のバックアップの時刻です。

日付を変更するには、ボックス内をクリックし、使用可能なバックアップ イメージの一覧から選択します。

[開始日時] または [終了日時] を変更した場合、リストアするために以前に選択した項目はすべてクリアされます。

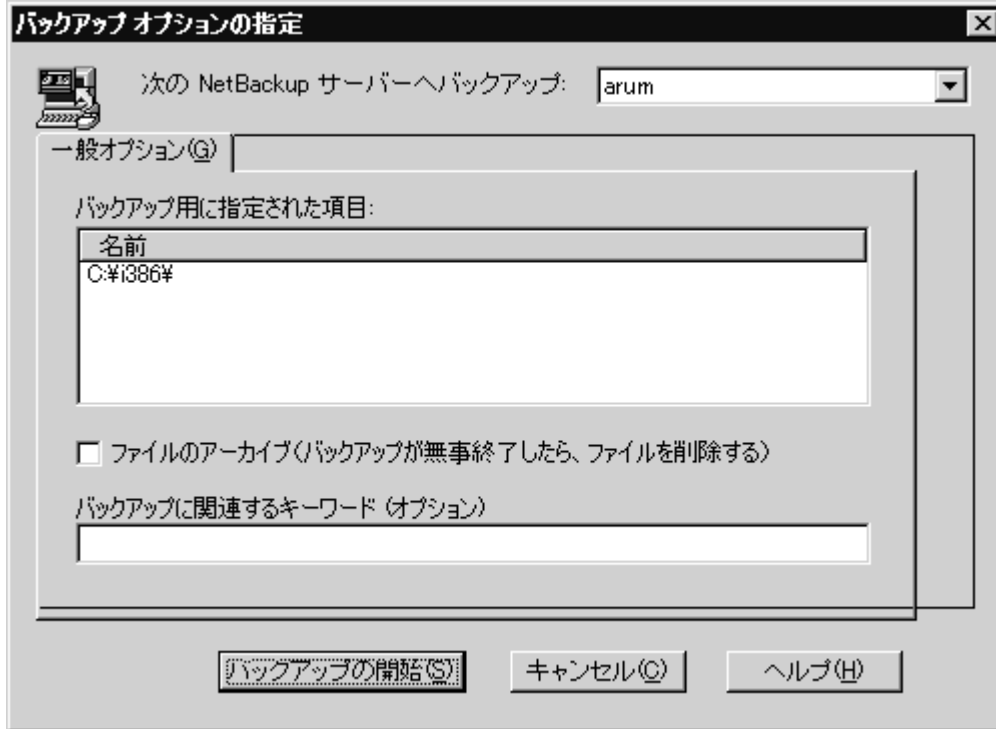
検索 指定されたファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの検索を開始します。NetBackup リストア ウィンドウに、検索基準に一致するフォルダが表示されます。

キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ダイアログ ボックス

ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックス



このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

- ◆ NetBackup バックアップ ウィンドウの [バックアップ] ボタンをクリックします。
- ◆ [バックアップ] メニューで、[バックアップの開始] を選択します。

次の NetBackup バックアップ操作を実行する NetBackup サーバーを変更するには、ドロップダウン リストから別のサーバーを選択します。

リスト ボックス バックアップされるオブジェクトの一覧が表示されます。

ファイルのアーカイブ(バックアップの代わりにアーカイブを実行するときを選択します。正
常にバックアップされた後、元のファイルまたはフォルダは削除され
ます。
ら、ファイルを削除する)

ダイアログ ボックス

バックアップに関する このバックアップ操作で作成されるイメージに関連付けるキーワード
連するキーワード フレーズを最大 128 文字で指定します。これによって、[バック
(オプション) アップの検索] ダイアログ ボックスでキーワード フレーズを指定して、
イメージをリストアできます。

キーワード フレーズには、すべての印刷可能な文字 (スペース (" ")
とピリオド (".") も含む) を使用できます。デフォルトのキーワード
フレーズは、NULL (空) 文字列です。

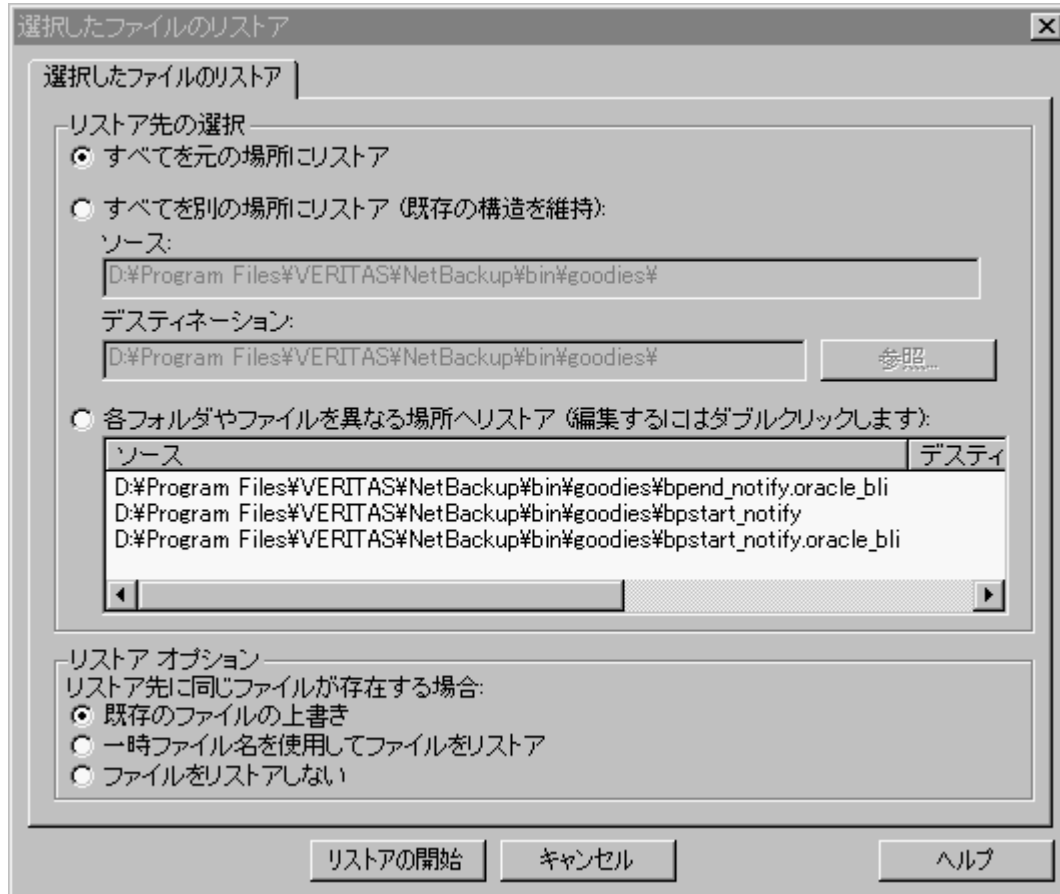
バックアップの開始 バックアップまたはアーカイブ操作を開始します。

キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに
取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、この
ボタンをクリックします。

ダイアログ ボックス

[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックス



このダイアログ ボックスは、リストア操作を開始した後表示されます。このダイアログ ボックスは、操作を続行する前に選択内容を確認するために使用します。一覧がリスト ボックスより長い場合は、右端に垂直スクロール バーが表示されます。

リストア先の選択 このペインには、ファイルのリストア先を指定するラジオ ボタンが表示されます。ユーザーは、このペインでいずれかのラジオ ボタンを選択する必要があります。

すべてのファイルやディレクトリを元と同じ場所にリストアします。 バックアップ元のフォルダにファイル、フォルダ、またはレジストリ キーをリストアします。これはデフォルトです。

すべてを別の場所にリストア	ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーをリストアするために使用する別のフォルダを入力します。
ソース	バックアップされたファイル、フォルダ、またはレジストリ キーの元のパスを入力します。
デスティネーション	ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーのリストア先のパスを入力します。
参照	<p>デフォルトでは、リストアするすべての項目に共通の最下位のフォルダが [ソース] ボックスに表示されます。この設定を一部の項目だけが含まれるフォルダに変更すると、その項目だけが、[デスティネーション] ボックスで指定したフォルダにリストアされます。その他のすべての項目は元の場所にリストアされます。</p> <p>このボタンは、[すべてを別の場所にリストア] チェックボックスが選択されている場合に使用できます。このボタンは、[フォルダの参照] ダイアログ ボックスを開くときにクリックします。このダイアログ ボックスでリストア先のフォルダを選択できます。</p> <p>注：別のクライアントへのリストアを実行している場合でも、NetBackup ブラウザを実行しているローカル マシンがブラウズされます。</p>
各フォルダやファイルを異なる場所へリストア	<p>ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを、ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーごとに別のパスにリストアします。デフォルトでは、元のパスにリストアされます。</p> <p>このオプションを選択し、一覧の項目をダブルクリックすると、[選択したファイルのリストア] ダイアログ ボックスの手前に [新しいデスティネーションの入力] ダイアログ ボックスがポップアップ表示されます。新しいダイアログ ボックスで、新しいリストア先のパスを入力するか、またはブラウズ ボタンをクリックして新しいリストア先のパスをブラウズします。[OK] を選択すると、選択したパスが、その項目の一覧の [デスティネーション] フィールドに表示されます。</p>
リストアオプション	<p>リストアするように指定した各項目が [各フォルダやファイルを異なる場所へリストア] リスト ボックスに表示されます。リストアするフォルダを指定した場合は、個別のファイルではなく、フォルダ名がリスト ボックスに表示されます。個別のファイルを別の場所にリストアするには、ファイルを個別に選択する必要があります。</p> <p>このペインには、ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを、同じ名前のファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを持つシステムにリストアする方法を指定するためのラジオ ボタンが表示されます。ユーザーは、このペインでいずれかのラジオ ボタンを選択する必要があります。</p>

ダイアログ ボックス

既存のファイルの上書き	既存のファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを上書きします。デフォルトでは上書きしません。デフォルトのモードでは、ファイル、フォルダ、またはレジストリ キーが存在する場合、リストアは行われません。
一時ファイル名を使用してファイルをリストア	既存のファイル、フォルダ、またはレジストリ キーを上書きするには、[既存のファイルの上書き] を選択します。 既存のファイルが上書きされないように、ファイル名を変更します。項目は <code>filenameXXXXXX.TMP</code> という名前でリストアされます。 <code>filename</code> はリストアされるファイルの名前で、 <code>XXXXXX</code> は現在の日付と時刻に基づいて生成されます。このオプションは、リストアが同一のマシンで要求および実行されている場合にのみ有効です。このオプションは、サーバー指定のリストアではサポートされません。
ファイルをリストアしない	これはデフォルトです。
リストアの開始	リストア操作を開始します。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[NetBackup クライアント Job Tracker] ダイアログ ボックス

NetBackup Client Job Tracker	
ジョブ ID	jp3_0980262114
ジョブ タイプ	バックアップ
ステータス	実行中
開始時刻	01/01/23 午前 09:01:59
終了時刻	
現在のファイル名	D:\Program Files\VERITAS\NetBackup\bin\goodies\supportn
現在のファイル サイズ	4568761 バイト
実際	
ファイル	16
キロバイト データ	217
フォルダ	6
キロバイト イメージ	266
キロバイト/秒	9
概算	
ファイル	18
キロバイト データ	4681
フォルダ	6

[NetBackup クライアント Job Tracker] ダイアログ ボックスを開くには、システムトレイにある NetBackup クライアントのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、[詳細] を選択します。[詳細] が無効になっている場合は、NetBackup クライアント Job Tracker を起動した後、バックアップまたはリストアが行われていません。NetBackup クライアントのアイコンがシステムトレイにない場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[VERITAS NetBackup]、[NetBackup Client Job Tracker] を選択します。

ダイアログ ボックス

NetBackup クライアント **Job Tracker** の役割は、クライアント マシン上でバックアップまたはリストアが実行されていることをユーザーに知らせることです。NetBackup クライアント **Job Tracker** には、ジョブの予想サイズが表示されます。これは、NetBackup ブラウザの[ステータスの表示]ダイアログ ボックスや、NetBackup サーバーのアクティビティモニタに代わるものではありません。

NetBackup クライアント **Job Tracker** を起動すると、サーバー指定の操作、スケジュールされた操作、およびユーザー操作がレポートされます。NetBackup クライアント **Job Tracker** をシャットダウンすると、トラッキングしていたジョブに関する情報は失われます (システムをログオフした場合も含まれます)。

Job Tracker は、クライアント上で実行されているバックアップのステータスについてのみレポートします。バックアップが NetBackup サーバーに送信されると、そのジョブのステータスは更新されません。たとえば、クライアントが、バックアップするすべてのデータをサーバーに正常に送信したとします。この場合、バックアップのステータスは「成功」とレポートされます。この後でサーバーでエラーが発生し、バックアップに失敗しても、**Job Tracker** に表示されるステータスは更新されません。

ジョブ ID	NetBackup のジョブ ID を表示します。
ジョブ タイプ	選択したジョブについて、バックアップ、アーカイブまたはリストアのいずれかの NetBackup 操作のタイプを表示します。
ステータス	選択した操作の進行状況を表示します。
開始時刻	NetBackup の操作が開始された時刻を表示します。
終了時刻	NetBackup の操作が終了した時刻を表示します。
現在のファイル名	現在、バックアップ、アーカイブ、またはリストア中のファイルの名前を表示します。
現在のファイルサイズ	現在、バックアップ、アーカイブ、またはリストア中のファイルのサイズをバイト単位で表示します。
実際	NetBackup の操作のステータスを表示します。
ファイル	現在、バックアップ、アーカイブ、またはリストア中のファイルの数を表示します。
フォルダ	バックアップされたフォルダの数を表示します。フォルダは、フォルダ内のファイルまたはサブフォルダがバックアップされるたびにカウントされます。
キロバイトデータ	現在、バックアップ、アーカイブ、またはリストア中のデータの量をキロバイト単位で表示します。この値は最も近い整数に丸められます。したがって、バックアップされたデータが 500 バイト未満の場合は、この値が 0 になる場合もあります。
キロバイト イメージ	バックアップまたはアーカイブ中のイメージの現在のサイズをキロバイト単位で表示します。
キロバイト / 秒	NetBackup 操作の処理速度をキロバイト / 秒単位で表示します。

ダイアログ ボックス

概算	NetBackup の操作が終了したときの予想値を表示します。
ファイル	NetBackup の操作によって処理されるファイルの総数を表示します。
フォルダ	バックアップされるフォルダの数を表示します。フォルダは、フォルダ内のファイルまたはサブフォルダがバックアップされるたびにカウントされます。
キロ バイト データ	NetBackup の操作によって処理されるデータの合計量をキロバイト単位で表示します。この値は最も近い整数に丸められます。したがって、バックアップされたデータが 500 バイト未満の場合は、この値が 0 になる場合もあります。
前	キュー内にある前の NetBackup の操作のステータスを表示します。
次	キュー内にある次の NetBackup の操作のステータスを表示します。
OK	[NetBackup クライアント Job Tracker] ダイアログ ボックスを閉じます。

ダイアログ ボックス



システム管理者

A

ここには、NetBackup 管理者向けの情報が記載されています。

フリーブラウズ

フリーブラウズ機能を使用すると、ユーザーがリストア特権を持っていない場合でも、スケジュールされたバックアップからリストアすることができます。NetBackup の以前のバージョンでは、システム管理者がルート ユーザー ID を使用して、スケジュールされたバックアップを実行した場合、クライアント ユーザーはそのバックアップからリストアできませんでした。フリーブラウズ機能を使用すると、ユーザーはスケジュールされたバックアップを使用してファイルをリストアできます。ユーザーがリストアできるのは、書き込みアクセス権を持っているファイルだけです。

フリーブラウズには、Use (使用)、Deny (拒否)、Allow (許可) の3つの設定があります。

- ◆ クライアントが Use に設定されている場合は、NetBackup サーバーが Allow または Use に設定されているときに、ユーザーはスケジュールされたバックアップをブラウズできます。
- ◆ クライアントが Deny に設定されている場合は、NetBackup サーバーの設定に関係なく、ユーザーはバックアップをブラウズできません。
- ◆ クライアントが Allow に設定されている場合は、NetBackup サーバーが Use に設定されているときに、ユーザーはスケジュールされたバックアップをブラウズできます。

NetBackup マスター サーバーの設定は、bpclient コマンドを使用して行います。

注 デフォルトでは、NetBackup マスター サーバーの設定は、Allow に設定されています。

Use に設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
# bpclient <clientname> -free_browse 2
```

Deny に設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
# bpclient <clientname> -free_browse 1
```

Allow に設定するには、以下のコマンドを実行します。

```
# bpclient <clientname> -free_browse 0
```

フリーブラウズ

設定を確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
# bpclient <clientname> -L
```

次の表に、さまざまな設定の組み合わせを示します。

NetBackup クライアント	NetBackup サーバー	フリーブラウズの使用
Deny	Deny	不可
Deny	Allow	不可
Deny	Use	不可
Allow	Deny	不可
Allow	Allow	不可
Allow	Use	可
Use	Deny	不可
Use	Allow	可
Use	Use	可

フリーブラウズ機能を使用できるのは、NetBackup クライアントまたは NetBackup サーバーのいずれかが Use に設定されており、いずれも Deny に設定されていない場合だけです。デフォルトでは、すべてのユーザーに Allow 特権が付与されます。

クライアントでこの機能を使用するには、NT の regedt32.exe ユーティリティを使用して、2つのレジストリ キーを作成する必要があります。

1. レジストリ エディタを使用して、次の2つのキーを作成します。

```
'HKEY_LOCAL_MACHINE\
SOFTWARE\
VERITAS\
NetBackup\
CurrentVersion\
Security\
FreeBrowse\
Use'
```

および

```
'HKEY_LOCAL_MACHINE\
SOFTWARE\
VERITAS\
NetBackup\
CurrentVersion\
Security\
FreeBrowse\
Deny'
```

2. 各キーについてユーザー共有アクセス権を設定します。
3. **Flag** という名前とともに各キーのデータ値 (**DWORD** 型) を入力します。キーの **Flag** の値が **0** 外の場合にのみ、その特権は有効になります。両方の **Flag** の値が **0** の場合は、すべてのユーザーに **Allow** 特権が付与されます。

以下に例を示します。

- ◆ **USERA** が **Deny** キーに対する読み取りアクセス権を持ち、**Flag** の値が **0** 以外である場合、**USERA** には **Deny** 特権が付与されます。
- ◆ **USERA** が **Use** キーに対する読み取りアクセス権を持ち、**Flag** の値が **0** 以外である場合、**USERA** には **Use** 特権が付与されます。
- ◆ **USERA** が **Use** キーと **Deny** キーの両方に対する読み取りアクセス権を持ち、両方の **Flag** の値が **0** 以外である場合、**USERA** には **Use** 特権が付与されます。
- ◆ **USERA** が **Use** キーと **Deny** キーの両方に対する読み取りアクセス権を持ち、**Use** キーの **Flag** の値が **0** で、**Deny** キーの **Flag** の値が **0** 以外である場合、**USERA** には **Deny** 特権が付与されます。
- ◆ **USERA** が **Use** キーと **Deny** キーのいずれに対してもアクセス権を持たない場合は、**Flag** の値に関係なく、**USERA** には **Allow** 特権が付与されます。

別のクライアントへのリストア

別のクライアントへのリストア

NetBackup マスターサーバー上の管理者は、そのサーバー上の[バックアップ、アーカイブ、およびリストア] インタフェースを使用して、ファイルをバックアップしたクライアントと同じタイプのクライアントにリストアすることができます。ただし、NetBackup for Oracleなどのデータベース エクステンション製品を使用してサーバー指定のリストアを実行することはできません。

サーバー指定のリストアを無効にするには、次の表に従ってクライアントの設定を追加または削除します。

クライアント タイプ	設定の場所	サーバー指定のリストアを無効にする方法
Microsoft Windows 95/98/2000/NT	クライアント上の [NetBackup 設定] ダイアログボックスの [一般] タブ (このダイアログボックスを表示するには、[アクション] メニューの [設定] をクリックします。)	[サーバー主導のリストアを有効化] ボックスをクリアします。
UNIX	/usr/opensv/netbackup/bin/bp.conf	DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を追加します。
Macintosh	/NetBackup Admin/Configuration Files Dist/bp.conf	DISALLOW_SERVER_FILE_WRITES を追加します。
NetWare (ターゲットおよびターゲット以外)	クライアント上の [NetBackup 設定] ダイアログボックスの [一般] タブ (このダイアログボックスを表示するには、[アクション] メニューの [設定] をクリックします。)	[サーバー主導のリストアを有効化] ボックスをクリアします。
IBM OS/2	c:\%veritas%\netbackup\%bp.ini	Allow_Server_Write を削除します。

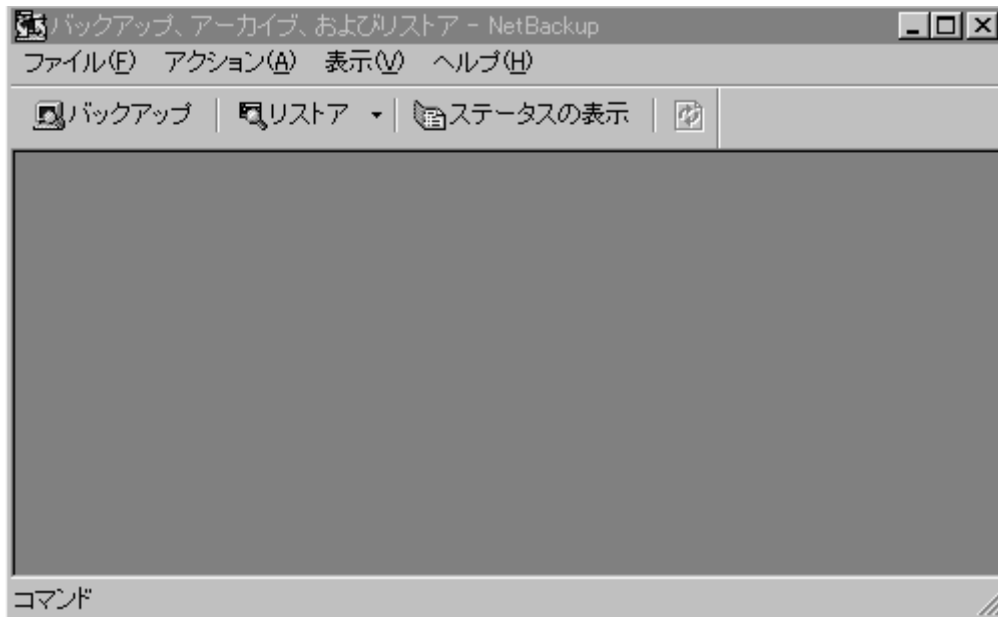
▼ 別のクライアントにファイルをリストアするには（サーバー指定のリストア）

1. 管理者としてマスターサーバーにログオンします。
2. NetBackup 管理プログラムを起動します。



別のクライアントへのリストア

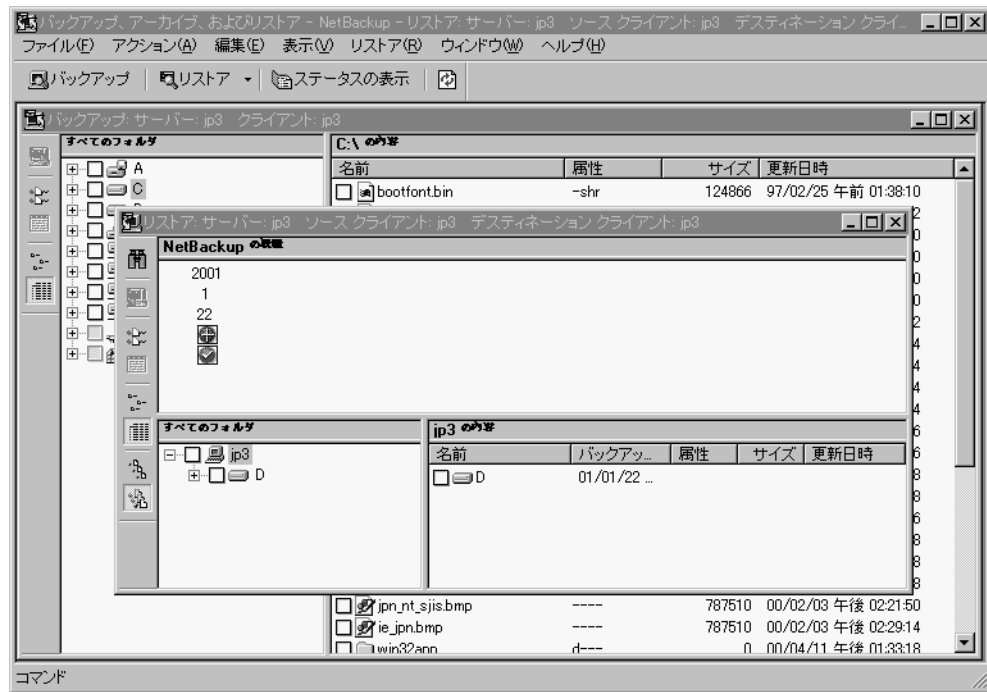
3. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] アイコンを選択します。NetBackup クライアント ウィンドウが表示されます。



4. [アクション] メニューの [リストアするファイルとフォルダの選択] をポイントし、サブメニューに表示されているリストアのタイプ ([バックアップから]、[アーカイブバックアップから] など) を選択します。

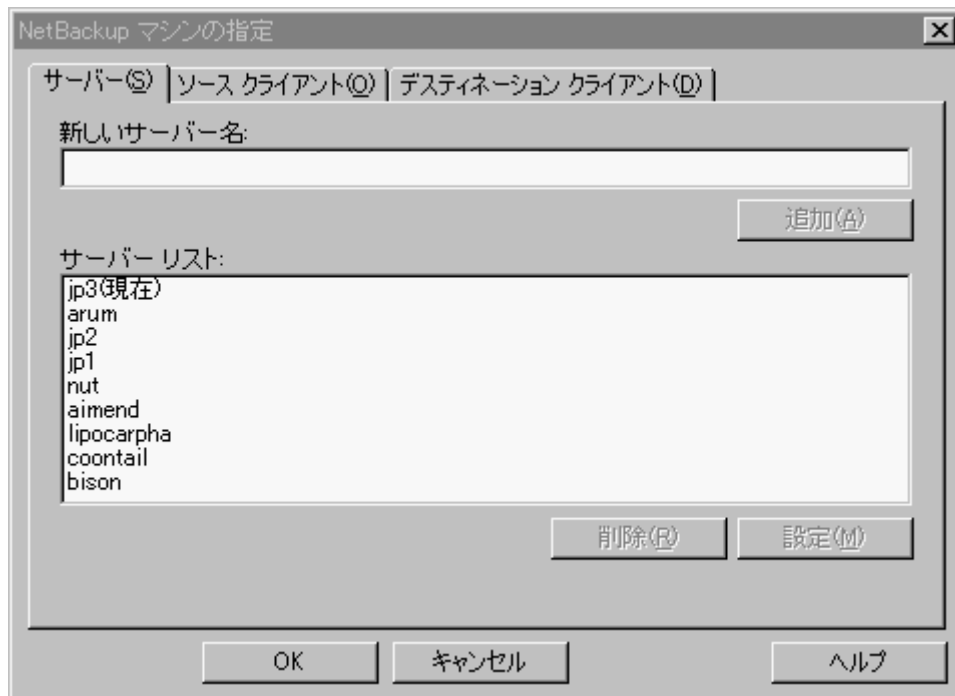
別のクライアントへのリストア

リストア ウィンドウが表示されます (この例ではバックアップからのリストアのウィンドウ)。



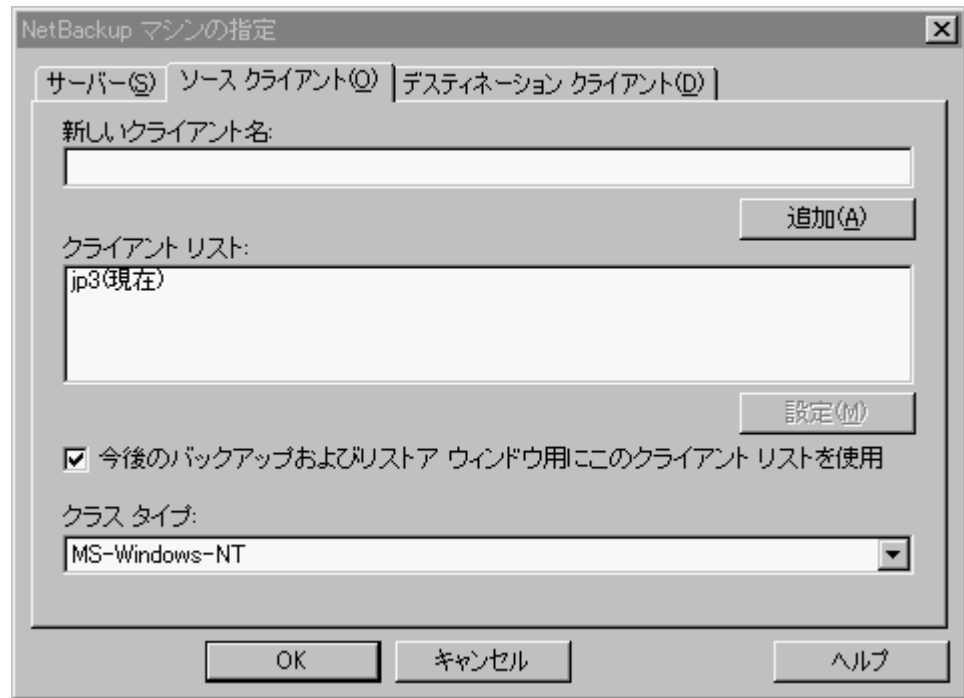
別のクライアントへのリストア

5. 別のクライアントへのリストアを設定するには、以下の手順に従ってください。
 - a. [アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。
NetBackup のリストアオプションを設定するダイアログボックスが表示されます。



- b. 使用するサーバーを選択し、[設定]をクリックします。この例では、conan を選択します。

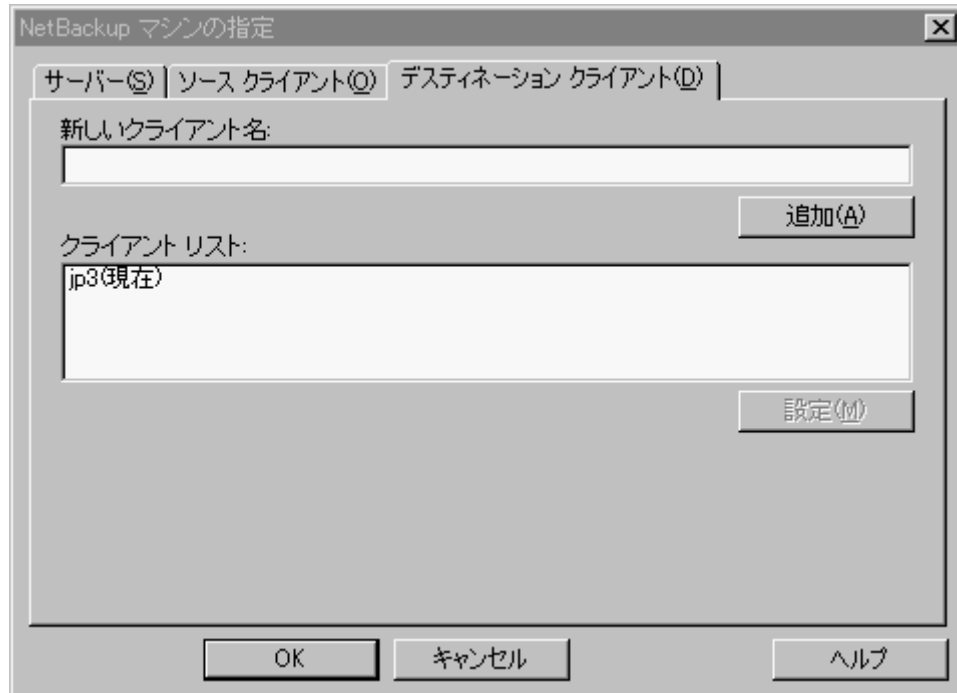
- c. [ソース クライアント] タブを選択します。



- d. ファイルをリストアするバックアップ イメージの元のクライアントを選択します。この例では、lobo を選択します。

別のクライアントへのリストア

- e. [デスティネーションクライアント] タブをクリックします。



- f. ファイルのリストア先のクライアントを選択します。この例では、hawk を選択します。
- g. [OK] をクリックします。
6. NetBackup リストア ウィンドウを開き、リストアするファイルを選択します。
7. [リストアの開始] をクリックします。[選択したファイルのリストア] ダイアログボックスが表示されます。
8. バックアップされた元のパスとは別のパスにファイルをリストアするには、以下の手順に従ってください。
- [選択したファイルのリストア] ダイアログボックスで、[すべてを別の場所にリストア] を選択します。
 - [デスティネーション] ボックスに別のリストア先のパスを入力します。
- [ソース] ボックスおよび [デスティネーション] ボックスに入力するパスは、表 4 に示されている各クライアントに対応した形式でなければなりません。

別のクライアントへのリストア

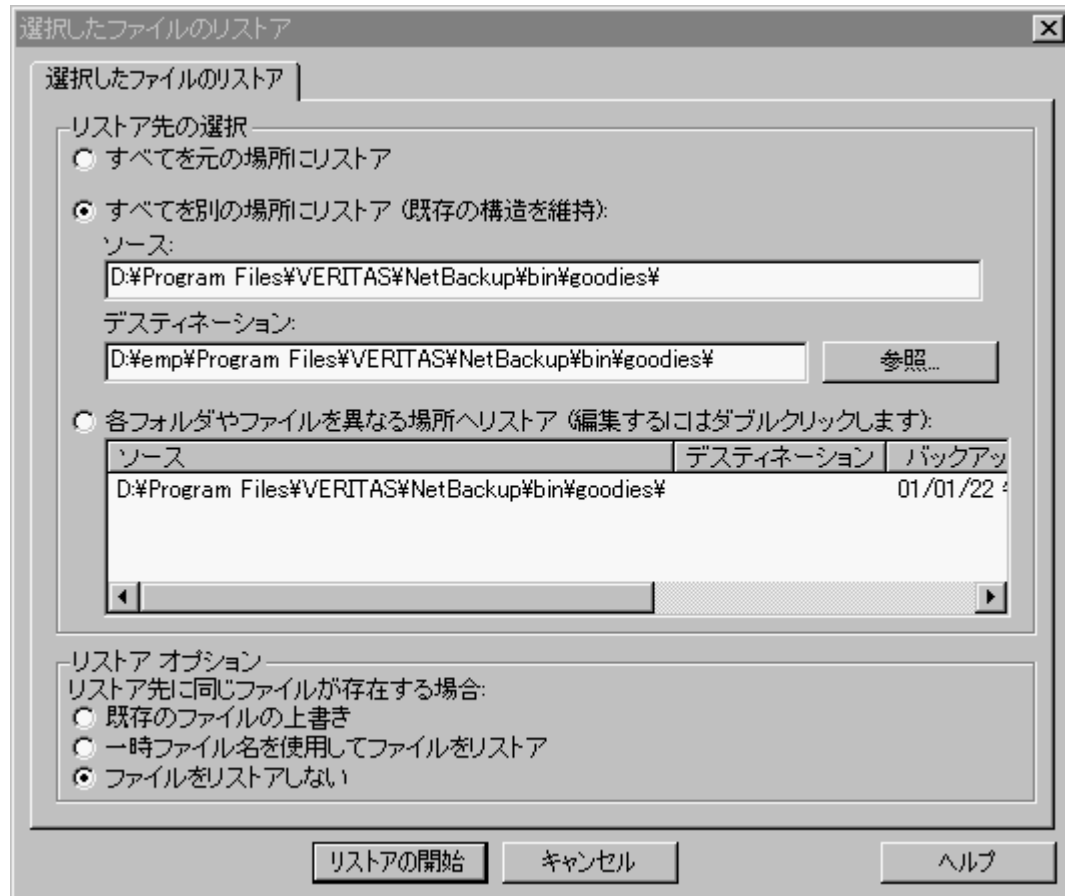
注 UNIX クライアントにリストアする場合は、Windows NT の形式を使用する必要があります。たとえば、`/etc` のファイルを `/tmp` にリストアするには、バックアップ元として `etc:¥` を、リストア先として `tmp:¥` を指定します。

表 4. リストア先のパスの形式

クライアント	パスの形式	例
UNIX	directory:¥	usr:¥openv¥netbackup¥
Macintosh	folder/folder/	NetBackup Admin/Configuration Files Dist/
Microsoft Windows、 NetWare のターゲット 以外	drive:¥directory¥	c:¥Veritas¥NetBackup¥
NetWare のターゲット	/target/volume/data_path	/SYS/MARGE/veritas/netbackup/
IBM OS/2	drive:¥directory	c:¥veritas¥netbackup

別のクライアントへのリストア

この例では、Windows NT クライアント (lobo) のファイルを別の Windows NT クライアント (hawk) にリストアするために、ファイルをリストアする hawk 上のパスを指定します。



9. 「リストアの開始」をクリックしてリストアを開始します。

システム管理者が使用する NetBackup の [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス

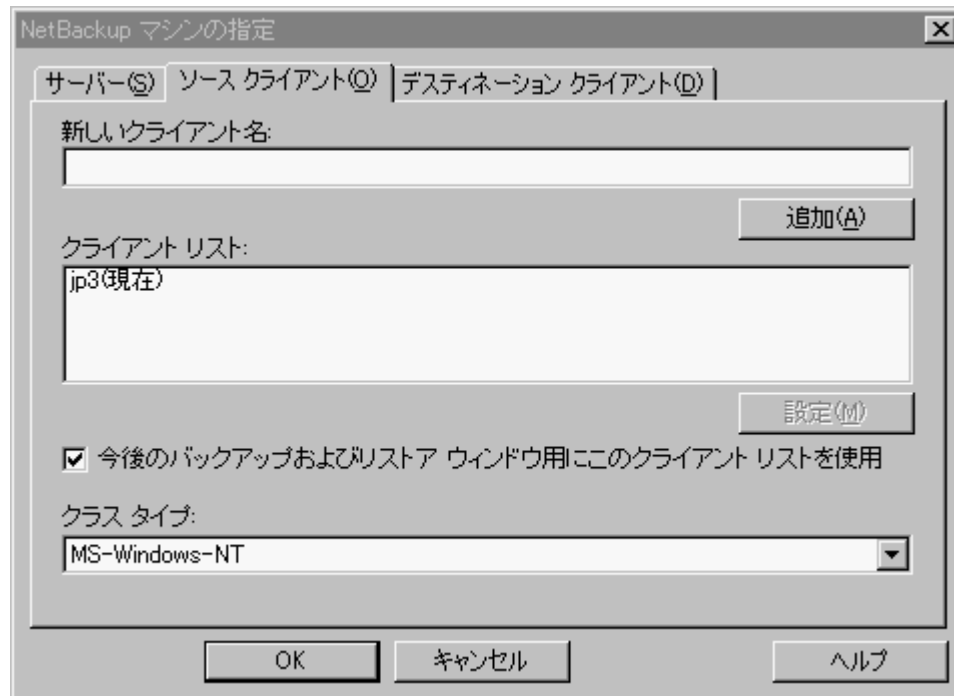
NetBackup サーバー上で現在のウィンドウがリストア ウィンドウである場合、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスを開くと、次の3つのプロパティシートが表示されます。

- ◆ [サーバー]
- ◆ [ソース クライアント]
- ◆ [デスティネーション クライアント]

[NetBackup マシンの指定] の [サーバー] プロパティシート

詳細については、「[サーバー] プロパティシート (70 ページ)」を参照してください。

[ソース クライアント] プロパティシート



このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. リストア ウィンドウをアクティブにします。
2. [アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。

システム管理者が使用する NetBackup の [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス

3. [ソース クライアント] プロパティ シートを選択します。

このダイアログ ボックスを使用して、リストアするバックアップの元のクライアントを選択します。ある NetBackup クライアントでバックアップまたはアーカイブしたファイルやフォルダは、別の NetBackup クライアントにリストアできます。これを別のクライアントへのリストアと呼びます。

注意点

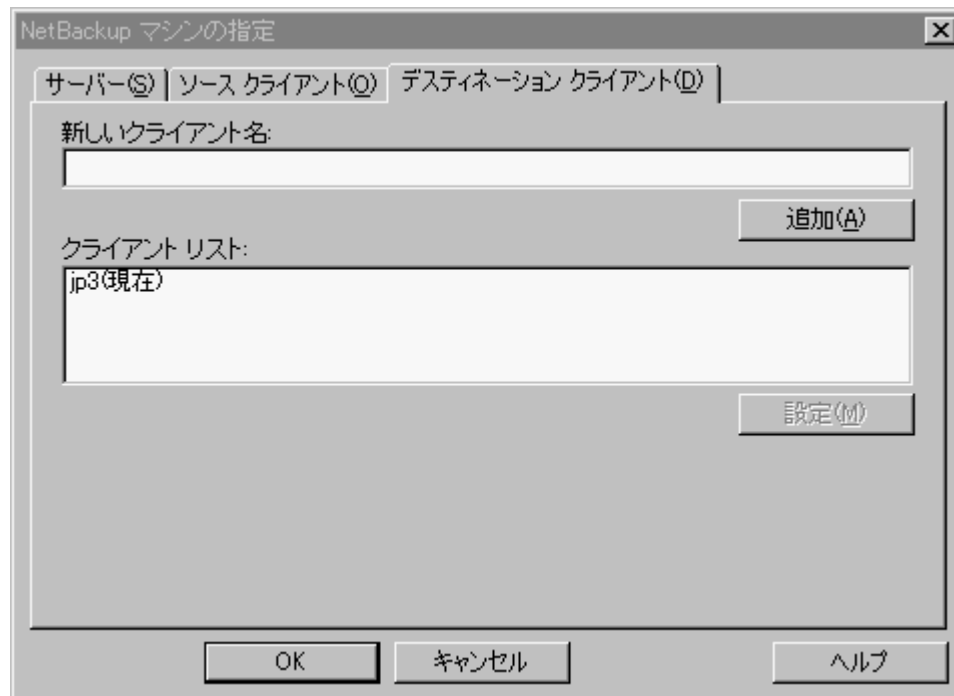
- ◆ NetBackup マスター サーバーで、別のクライアントへのリストアを許可するように設定されている必要があります。詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』または『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』のサーバ指定のリストアに関する節も参照してください。
- ◆ 必要なファイルのアクセス権については、6 ページを参照してください。

新しいクライアント名	別のクライアント名を [クライアント リスト] に追加するには、[新しいクライアント名] テキスト ボックスにクライアントの名前を入力し、[追加] をクリックします。入力するクライアント名は、NetBackup サーバー上のクラスでも定義されている必要があります。新しいクライアントを一覧に追加すると、現在開いているすべてのウィンドウおよび以降に開く新しいウィンドウの [クライアント リスト] に表示されます。新しいクライアントは、現在のウィンドウを閉じた後、[クライアント リスト] ボックスに保存されます。
追加	[新しいクライアント名] ボックスに入力したクライアントを [クライアント リスト] に追加します。
クライアント リスト	[クライアント リスト] には、使用しているクライアントからアクセスできる NetBackup クライアントの名前が表示されます。ファイルをリストアするために、バックアップをブラウズするクライアントの名前を変更するには、[クライアント リスト] で名前を選択し、[設定] をクリックします。新しいバックアップ元のクライアントの名前の横に「現在」という単語がかっこに囲まれて表示されます。
設定	リストア操作のためにブラウズするクライアントのバックアップ イメージを指定します。まず、[クライアント リスト] でクライアントを強調表示し、[設定] をクリックします。現在のクライアントの変更は、選択したウィンドウにのみ影響します。現在選択しているウィンドウを閉じた後、この設定は保存されません。
今後のバックアップおよびリストアウィンドウ用にこのクライアント リストを使用	選択した場合、[クライアント リスト] に対する変更内容は、このプロパティ シートの変更を保存した後に開いたすべてのバックアップウィンドウに適用されます。

システム管理者が使用する NetBackup の [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス

クラス タイプ	[クライアント リスト] で選択したクライアントのクラス タイプを表示および選択します。このクラス タイプは、NetBackup サーバー上の NetBackup の設定でクライアントについて指定されているタイプと同じでなければなりません。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[デスティネーション クライアント] プロパティ シート



このダイアログ ボックスを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. リストア ウィンドウをアクティブにします。
2. [アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。
3. [デスティネーション クライアント] プロパティ シートを選択します。

システム管理者が使用する NetBackup の [NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスを使用して、リストアされたバックアップを受け入れるクライアントを選択します。別のクライアントへのファイルのリストアは、サーバー指定のリストアの一種です。

注意点

- ◆ NetBackup マスター サーバーで、別のクライアントへのリストアを許可するように設定されている必要があります。詳細については、『NetBackup System Administrator's Guide - Windows NT/2000』または『NetBackup System Administrator's Guide - UNIX』のサーバ指定のリストアに関する節も参照してください。
- ◆ 必要なファイルのアクセス権については、6 ページを参照してください。
- ◆ [設定] ダイアログ ボックスで、[一般] プロパティ シートの [サーバー主導のリストアを有効化] オプションをクリアすることによって、クライアントでサーバー指定のリストアを無効にすることができます。詳細については、「[一般] プロパティシート (63 ページ)」を参照してください。

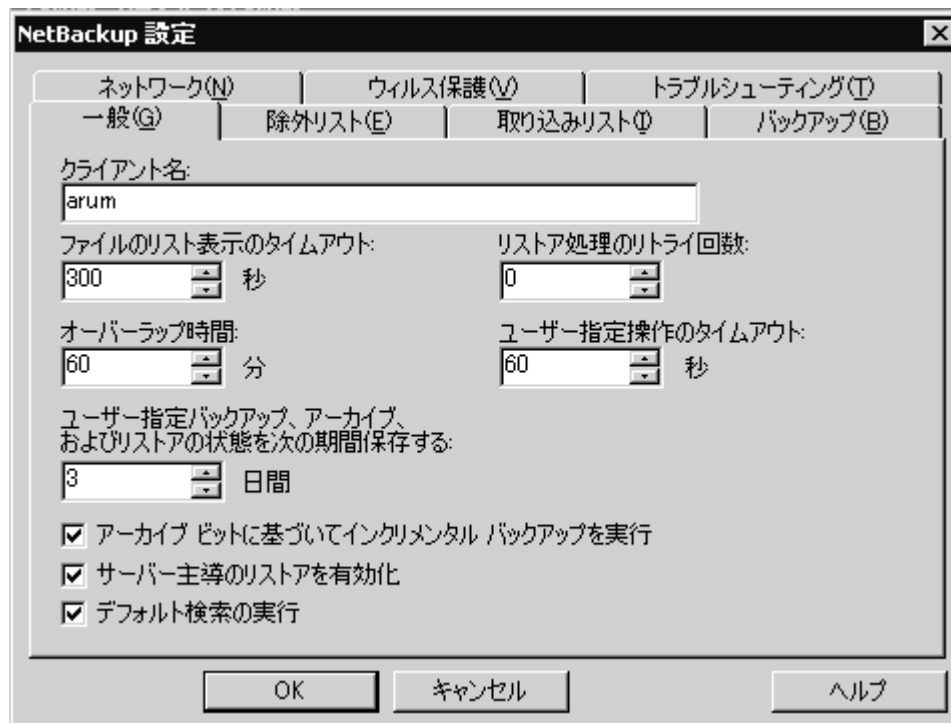
新しいクライアント名	別のクライアント名を [クライアント リスト] に追加するには、[新しいクライアント名] テキスト ボックスにクライアントの名前を入力し、[追加] をクリックします。入力するクライアント名は、NetBackup サーバー上のクラスでも定義されている必要があります。新しいクライアントを一覧に追加すると、現在開いているすべてのウィンドウおよび以降に開く新しいウィンドウの [クライアント リスト] に表示されます。新しいクライアントは、現在のウィンドウを閉じた後、[クライアント リスト] ボックスに保存されます。
追加	[新しいクライアント名] ボックスに入力されたクライアントを [クライアント リスト] に追加します。
クライアント リスト	[クライアント リスト] には、使用しているクライアントからアクセスできる NetBackup クライアントの名前が表示されます。ファイルをリストアするために、バックアップをブラウズするクライアントの名前を変更するには、[クライアント リスト] で名前を選択し、[設定] をクリックします。新しいバックアップ元のクライアントの名前の横に「現在」という単語がかっこに囲まれて表示されます。
設定	リストア操作の対象となるクライアントを指定します。まず、[クライアント リスト] でサーバーを強調表示し、[設定] をクリックします。現在のクライアントの変更は、選択したウィンドウにのみ影響します。現在選択しているウィンドウを閉じた後、この設定は保存されません。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

ここでは、システム管理者を対象に、[NetBackup 設定] ダイアログ ボックスについて説明します。

設定情報は、レジストリキー ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥VERITAS¥NetBackup¥CurrentVersion¥Config に保存されます。

[一般] プロパティ シート



このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [一般] プロパティ シートをクリックします。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

このプロパティシートを使用して、クライアントの設定パラメータを設定します。

- | | |
|--|---|
| クライアント名 | このパラメータは、システム管理者だけが変更します。クライアントの NetBackup クライアント名を指定します。この名前は、ファイル、フォルダ、またはレジストリキーをバックアップ、アーカイブ、またはリストアするときに使用されます。NetBackup サーバーのクラスの設定のクライアント名は、ここで指定するクライアント名と一致している必要があります。 |
| リスト ファイル
タイムアウト | このパラメータは、システム管理者が変更します。ファイルを表示するときに NetBackup マスター サーバーから応答を待つ秒数を指定します。この時間が経過すると、サーバー上でユーザーの要求を処理中であっても、ソケットの読み取りの失敗を示すエラーがユーザーに対して表示されます。デフォルトは 300 秒です。最小値は 0 です。最大値は 36,000 秒です。 |
| リストアのリト
ライ | このパラメータは、システム管理者が変更します。リストアに失敗した後の再試行の回数を指定します。デフォルトは 0 で、再試行は行われません。最大値は 999 です。 |
| オーバーラップ
時間 | このパラメータは、システム管理者が変更します。日付ベースのバックアップを使用する場合に、インクリメンタルバックアップの日付の範囲に追加する分数を指定します。この値を使用して、クライアントと NetBackup サーバーの時差を補正できます。デフォルトは 60 分です。最小値は 0 です。最大値は 1,440 分です。 |
| ユーザー指定タ
イムアウト | ユーザー指定の操作を実行するときに NetBackup マスター サーバーから応答を待つ秒数を指定します。この時間が経過すると、サーバー上でユーザーの要求を処理中であっても、ソケットの読み取りの失敗を示すエラーがユーザーに対して表示されます。デフォルトは 60 秒です。最小値は 0 です。最大値は 36,000 秒です。 |
| ユーザー指定
バックアップ、
アーカイブ、お
よびリストアの
状態を次の期間
保存する | 保存されたプログレス レポートが自動的に削除されるまでの日数を指定します。デフォルトは 3 日です。最小許容値は 0 です。最大値は 9,999 です。 |

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

アーカイブ ビットに基づいてインクリメンタルバックアップを実行

このパラメータは、システム管理者が変更します。ファイルのアーカイブビットが設定されている場合に限り、このチェックボックスを選択してインクリメンタルバックアップにファイルが含まれるようにすることができます。このビットは、ファイルが変更されるたびにシステムによって設定され、**NetBackup** によってクリアされるまで設定されたままになります。フルバックアップでは、常にアーカイブビットがクリアされます。差分インクリメンタルバックアップでは、**Clear_Archive_Bit_Incr_Wait** で指定された秒数以内でファイルが正常にバックアップされた場合にアーカイブビットがクリアされます。累積インクリメンタルバックアップまたはユーザー指定のバックアップは、アーカイブビットに影響しません。

最後のバックアップ以降にファイルの日付と時刻のスタンプが変更されている場合にのみ、ファイルをインクリメンタルバックアップに含めるには、このチェックボックスをクリアします。累積インクリメンタルバックアップの場合は、ファイルのタイムスタンプが最後のフルバックアップと比較されます。差分インクリメンタルバックアップの場合は、タイムスタンプが最後のフルバックアップまたはインクリメンタルバックアップと比較されます。

別のコンピュータからファイルをインストールまたはコピーした場合は、元のファイルの日付と時刻のスタンプが保持されます。元のファイルの日付がこのコンピュータ上の最後のバックアップの日付よりも前である場合は、新しいファイルは次のフルバックアップまでバックアップされません。**Windows 95/98** および **Windows NT/2000** クライアントでは、作成および変更の日付と時刻のスタンプが使用されます。

サーバー主導のリストアを有効化

このパラメータは、システム管理者が変更します。**NetBackup** サーバー上の管理者がこのクライアントへのリストアを開始できるようにするには、このチェックボックスを選択します。デフォルトでは、サーバー指定のリストアが許可されます。

デフォルト 検索を実行

選択した場合、リストア ウィンドウを開いたときに、自動的にデフォルトの範囲のバックアップ イメージが検索され、バックアップされたフォルダおよびファイルが表示されます。

このチェックボックスをクリアすると、初期検索は無効になります。**NetBackup** リストア ウィンドウを最初に開いたときに、ファイルやフォルダは表示されません。バックアップ イメージをクリックするか、またはバックアップ イメージの範囲を選択すると、検索が開始されます。

デフォルトでは、このチェックボックスは選択されています。

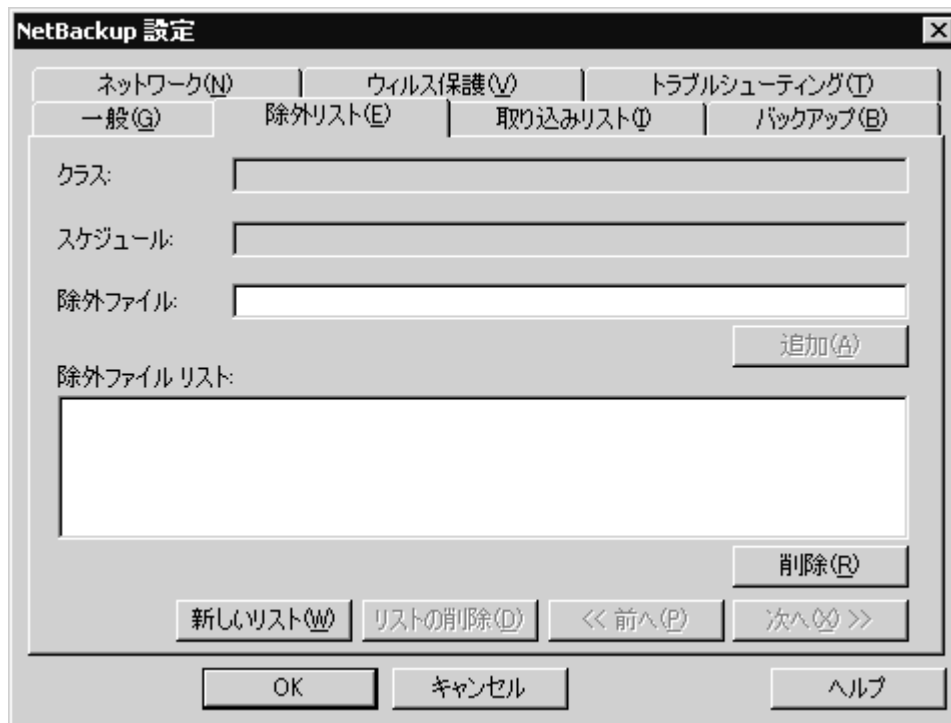
OK

パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

- キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
- ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[除外リスト] プロパティ シート



注 このダイアログ ボックスのパラメータは、システム管理者が変更します。

このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [除外] プロパティ シートをクリックします。

このプロパティ シートは、マスター サーバー指定のバックアップから除外するファイルの一覧を表示および変更するために使用します。たとえば、[除外ファイル リスト] に C:¥*.bat を追加すると、C: ドライブのルートにある .bat という拡張子を持つファイルはすべてバックアップされません。すべての .bat ファイルを除外するには、*.bat を追加します。除外リストは、NetBackup サーバーによって開始された、フルバックアップ

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

プ、累積インクリメンタルバックアップ、および差分インクリメンタルバックアップにのみ適用されます。詳細については、「除外リストおよび取り込みリストの構文規則 (120 ページ)」を参照してください。

特定のクラスおよびスケジュールについて、除外リストを作成できます。最初の除外リストでは、クラスおよびスケジュールは無効になっています。このリストは削除できませんが、空にすることはできます。

クラス	[除外ファイル リスト] は、指定したクラスのサーバー指定のバックアップにのみ適用されます。
スケジュール	[除外ファイル リスト] は、指定したスケジュールのサーバー指定のバックアップにのみ適用されます。スケジュールを指定するには、クラスを指定する必要があります。
除外ファイル	除外するファイルまたはフォルダをリスト ボックスに入力します。[追加] をクリックしてファイルまたはフォルダを [除外ファイル リスト] に移動します。 レジストリの <code>case_sensitive_exclude_list</code> のデータ値が <code>no</code> に設定されていない限り、除外リストでは大文字と小文字が区別されます。
追加	ファイルやフォルダを [除外ファイル リスト] に追加するには、このボタンをクリックします。
除外ファイル リスト	このファイルの一覧は、スケジュールされたバックアップにのみ適用されます。スケジュールされたバックアップで除外されるファイルの名前が表示されます。一覧からファイルを削除するには、名前を選択し、[削除] をクリックします。
編集	ファイルの一覧で選択したファイルやフォルダを編集するには、一覧のエントリを選択し、このボタンをクリックします。
削除	選択したファイルやフォルダをファイルの一覧から削除するには、このボタンをクリックします。
新しいリスト	クラスおよびスケジュールについて新しい一覧を作成するには、このボタンを使用します。クラスやスケジュールを重複させることはできません。
リストの削除	現在の一覧を削除するには、このボタンを使用します。
前へ	前の一覧を表示するには、このボタンを使用します。
次へ	次の一覧を表示するには、このボタンを使用します。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

[取り込みリスト] プロパティ シート



注 このダイアログ ボックスのパラメータは、システム管理者が変更します。

このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [取り込みファイル リスト] プロパティ シートをクリックします。

このプロパティ シートは、サーバー指定のバックアップから除外されるファイル ([除外リスト] に表示されたファイル) の一覧に例外を作成するために使用します。たとえば、autoexec.batファイル以外の拡張子が.batのファイルをすべてバックアップから除外する場合は、[除外ファイル リスト] に *.bat を追加し、[取り込みリスト] に autoexec.bat を追加します。取り込みリストは、NetBackup マスターサーバーによって開始されたバックアップにのみ適用されます。詳細については、「構文規則 (120 ページ)」を参照してください。

特定のクラスおよびスケジュールについて、取り込み リストを作成できます。最初の取り込み リストでは、クラスおよびスケジュールは無効になっています。このリストは削除できませんが、空にすることはできます。

クラス [取り込みファイル リスト]は、指定したクラスのサーバー指定のバックアップにのみ適用されます。

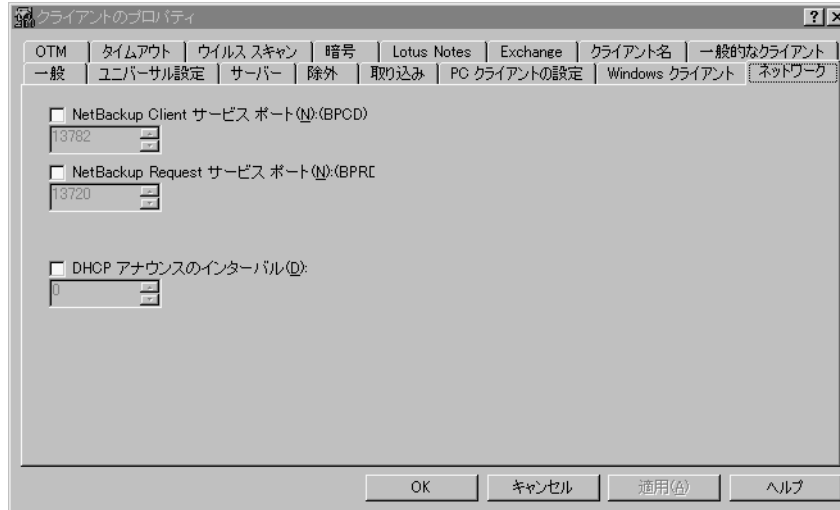
スケジュール [取り込みファイル リスト] は、指定したスケジュールのサーバー指定のバックアップにのみ適用されます。スケジュールを指定するには、クラスを指定する必要があります。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

取り込みファイル	含めるファイルまたはフォルダをリスト ボックスに入力します。[追加] をクリックしてファイルまたはフォルダを [取り込みファイル リスト] に移動します。
追加	レジストリの <code>case_sensitive_exclude_list</code> のデータ値が <code>no</code> に設定されていない限り、取り込みリスト では大文字と小文字が区別されます。ファイルやフォルダを [取り込みファイル リスト] に追加するには、このボタンをクリックします。
取り込みファイル リスト	このファイルの一覧は、スケジュールされたバックアップにのみ適用されます。スケジュールされたバックアップに含まれるファイルの名前が表示されます。一覧からファイルを削除するには、名前を選択し、[削除] をクリックします。
編集	ファイルの一覧で選択したファイルやフォルダを編集するには、一覧のエントリを選択し、このボタンをクリックします。
削除	選択したファイルやフォルダをファイルの一覧から削除するには、このボタンをクリックします。
新しいリスト	クラスおよびスケジュールについて新しい一覧を作成するには、このボタンを使用します。クラスやスケジュールを重複させることはできません。
リストの削除	現在の一覧を削除するには、このボタンを使用します。
前へ	前の一覧を表示するには、このボタンを使用します。
次へ	次の一覧を表示するには、このボタンを使用します。
OK	パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
キャンセル	このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
ヘルプ	このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

[ネットワーク] プロパティ シート



注 このダイアログ ボックスのパラメータは、システム管理者が変更します。

このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [ネットワーク] プロパティ シートをクリックします。

このプロパティ シートは、クライアントと NetBackup マスター サーバーとの間の通信で使用されるポート番号を表示および変更するために使用します。

NetBackup クライアント サービス NetBackup サーバーが NetBackup クライアントと通信するために使用するポートを指定します。デフォルトは 13782 です。

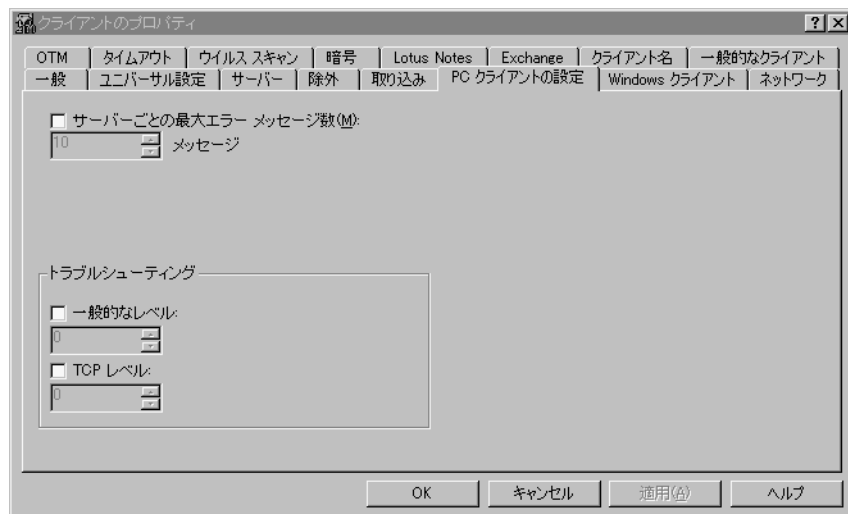
NetBackup 要求 サービスポート クライアントが NetBackup サーバー上の NetBackup 要求サービス bprd に要求を送信するときに使用するポートを指定します。デフォルトは 13720 です。

OK パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。

キャンセル このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。

ヘルプ このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

[トラブルシューティング] プロパティ シート



注 このダイアログ ボックスのパラメータは、システム管理者が変更します。

このプロパティ シートを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [アクション] メニューの [設定] をクリックします。
2. [トラブルシューティング] プロパティ シートをクリックします。

このプロパティ シートは、アクティビティ / トラブルシューティング ログに保存される情報の量を表示および変更するために使用します。ログ ファイルは、ログ フォルダが作成されている場合にのみ作成されます。詳細については、「トラブルシューティング ログ (119 ページ)」を参照してください。これらのログの使用方法については、『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』または『NetBackup Troubleshooting Guide - Windows NT/2000』も参照してください。

一般 トラブルシューティング ログに書き込まれる情報の量を制御します。指定できる値は 0、1、または 2 です。レベルが高くなるほど、より多くの情報が書き込まれます。デフォルトは 0 です。

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

TCP	<p>デバッグ用に使用され、TCP のデバッグを有効にします。指定できる値は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none">0 追加のログは記録されません。これはデフォルトです。1 基本的な TCP/IP 機能を記録します。2 すべての読み取りおよび書き込み要求など、あらゆる TCP/IP 機能を記録します。3 各読み取り / 書き込みバッファの内容を記録します。 <p>注：TCP のデバッグ レベルを 2 または 3 に設定すると、ステータス レポートが非常に大きくなる場合があります。また、バックアップまたはリストア操作のパフォーマンスが低下する場合があります。</p>
ヒープ	<p>メモリ ヒープのデバッグを有効にします。指定できる値は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none">0 メモリヒープのデバッグ情報を記録しません。これはデフォルトです。1 プログラムの開始および終了時のメモリ ヒープ情報です。2 プログラムの開始および終了時の near メモリ ヒープ情報です。3 プログラムの開始および終了時の near および far メモリ ヒープ情報です。
フラッシュ	<p>NetBackup 操作に関するプログレス レポートは定期的にフラッシュされます。この設定によって、フラッシュの頻度、すなわち内部バッファをプログレス レポートに書き込む頻度を指定します。フラッシュレベルが高いほど、バッファの内容は頻繁にファイルに書き込まれます。指定できる値は 0、1、または 2 です。デフォルトは 0 です。</p>
詳細	<p>NetBackup NT サーバーがそのログに書き込む情報の量を制御します。このパラメータは、NetBackup クライアントを実行しているローカルマシンも NetBackup NT サーバーである場合にのみ有効です。</p> <p>0 ~ 99 の値を指定できます。</p> <p>指定できる値は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none">0 追加のログは記録されません。これはデフォルトです。1-99 詳細なログが記録されます。 <p>VERITAS のテクニカル サポートから指示があった場合を除いて、デフォルト値の 0 を使用してください。</p>
データベース	<p>NetBackup データベース エクステンションによってログ ファイルに書き込まれる情報の量を制御します。</p> <p>指定できる値は 0 ~ 9 です。レベルが高くなるほど、より多くの情報が書き込まれます。デフォルトは 0 です。</p>

[NetBackup 設定] ダイアログ ボックス

- OK** パラメータに対する変更を受け入れるには、このボタンをクリックします。
- キャンセル** このダイアログ ボックスのパラメータに対する変更を受け入れずに取り消し、前の表示に戻るには、このボタンをクリックします。
- ヘルプ** このダイアログ ボックスのオンライン ヘルプを表示するには、このボタンをクリックします。

トラブルシューティング ログ

トラブルシューティング ログは、クライアント上に次のフォルダを作成している場合にのみ生成されます。

Windows NT/2000

```
C:\
  \VERITAS
    \Program Files
      \NetBackup
        \logs
          \BPKAR
          \BPCD
          \BPINETD
          \NBWIN
          \TAR
```

Windows 95/98

```
C:\
  \VERITAS
    \Program Files
      \NetBackup
        \logs
          \BPCD
          \NBWIN
```

除外リストおよび取り込み リストの構文規則

ログ ファイルの形式はすべて `yyymmdd.LOG` です。

BPBKAR	このフォルダ内のログ ファイルには、ユーザー指定とサーバー指定の両方のバックアップに関する情報が記録されます。
BPCD	このフォルダ内のログ ファイルには、NetBackup クライアントと NetBackup サーバーとの通信のトラブルシューティングに役立つ情報が記録されます。
BPINETD	このフォルダ内のログ ファイルには、NetBackup クライアント サービスの操作に関する情報が記録されます。
NBWIN	このフォルダ内のログ ファイルには、ユーザー操作に関する情報が記録されます。
TAR	このフォルダ内のログ ファイルには、ユーザー指定とサーバー指定の両方のリストアに関する情報が記録されます。

注 メモ帳を使用してログ ファイルを表示する場合、ファイルは 1 行に表示されます。ワードパッドでは改行が認識され、行が正しく表示されます。

除外リストおよび取り込み リストの構文規則

構文規則

除外リストおよび取り込み リストには、次の構文規則が適用されます。

- ◆ 1 行ごとにパターンを 1 つだけ使用できます。
- ◆ 次のメタ文字またはワイルドカード文字が認識されます。
[]
?
*
- ◆ ワイルドカード文字をリテラル (通常のワイルドカード以外の文字) として使用するには、前にバックスラッシュ (¥) を付けます。たとえば、次の例の角かっこ ([]) をワイルドカード文字として使用しないとします。

```
¥home¥abc¥fun [ny [name
```

除外リスト では、次のように角かっこの前にバックスラッシュを付けます。

```
¥home¥abc¥fun¥ [ny¥ [name
```

これによって、角かっこはリテラルとして解釈されます。

注 バックスラッシュ (¥) がエスケープ文字として機能するのは、上の例のようにワイルドカードの前に使用された場合だけです。通常、NetBackup はバックスラッシュ (¥) をリテラルとして解釈します。ほかの正式な文字と同じようにパス名にも使用できます。

- ◆ スペースは正式な文字とみなされます。ファイル名の一部でない限り、余分なスペースは削除してください。

たとえば、次のような名前前のファイルを除外するとします。

```
C:\¥home¥testfile (最後に余分なスペースがない)
```

除外リストのエントリが次のようになっているとします。

```
C:\¥home¥testfile (最後に余分なスペースがある)
```

ファイル名の最後にある余分なスペースを削除するまで、このファイルを検索することはできません。

- ◆ そのパス名のフォルダだけを除外するには、ファイルパスの最後に ¥ を付けます (たとえば、C:\¥home¥test¥)。このパターンの最後が ¥ ではない場合 (たとえば、C:\¥usr¥test) は、このパス名のファイルとフォルダの両方が除外されます。
- ◆ フォルダ パスに関係なく、特定の名前前のすべてのファイルを除外するには、前にスラッシュを付けずにファイル名だけを入力します。たとえば、次のように入力します。

```
test
```

次のようには入力しません。

```
C:\¥test
```

これは、ファイルパターンに次のようなプレフィックスを付けることと同じです。

```
C:\¥
```

```
C:\¥*¥
```

```
C:\¥*¥*¥
```

```
C:\¥*¥*¥*¥
```

など。

除外リストおよび取り込み リストの構文規則

除外リストの例

除外リストに次のようなエントリがあるとします。

C:\home\doe\john

C:\home\doe\abc

C:\home*\test

C:*\temp

temp

サーバー指定のバックアップでは、次の項目が除外されます。

- ◆ C:\home\doe\john という名前のファイルまたはフォルダ。
- ◆ C:\home\doe\abc フォルダ (除外エントリの最後が¥であるため)。
- ◆ home の2階層下にある test という名前のすべてのファイルまたはフォルダ。
- ◆ ルートの2階層下にある temp という名前のすべてのファイルまたはフォルダ。
- ◆ 任意の階層にある temp という名前のすべてのファイルまたはフォルダ。

NetBackup のコマンド

B

NetBackup のコマンドについて

この付録では、NetBackup 製品に固有なコマンドについて説明します。これらのコマンドは、結果を確認できるように MS-DOS ウィンドウで実行してください。

以下は、コマンドの説明で使用する特別な表記規則です。

- ◆ コマンドライン内にある角かっこ ([]) で囲まれたコンポーネントは、オプションのコンポーネントです。
- ◆ 垂直バーまたはパイプ (|) は、複数のオプションの引数を区切って、いずれかを選択できることを示します。次に例を示します。

```
command [arg1 | arg2]
```

この例では、arg1 または arg2 のいずれかを選択できます。両方を選択することはできません。

- ◆ イタリック体は、ユーザーが指定する情報を示します。たとえば、次のコマンドでは、*class*、*schedule*、および *filename* をユーザーが指定します。

```
bpbackup -c class -s schedule filename
```

- ◆ 省略記号 (...) は、前のパラメータを繰り返して使用できることを示します。次に例を示します。

```
bpbackup [-S master_server [,master_server,...]] filename
```

この例の -S オプションには、最初のマスターサーバーの名前を指定する必要があります。マスターサーバーを追加する場合は、カンマ (,) で区切って追加し、最後にファイル名を指定します。

```
bpbackup -S mars,coyote,shark,minnow memofile.doc
```

bparchive

bparchive

コマンド名

bparchive - NetBackup サーバーにファイルをアーカイブします。

書式

```
install_path¥NetBackup¥bin¥bparchive [-c class] [-s schedule] [-S  
master_server [,master_server, ...]] [-t class_type] [-L  
progress_log] [-w [hh:mm:ss]] [-help] [-k "keyword_phrase"]  
-f listfile | filenames
```

説明

bparchive を実行すると、コマンドラインに入力したファイル、または `-f listfile` オプションで指定したファイルが処理されます。ファイルパスには、ファイル名またはディレクトリ名を入力できます。ファイルの一覧にディレクトリが含まれている場合は、ディレクトリとそのディレクトリ内のすべてのファイルとサブディレクトリが bparchive でアーカイブされます。

デフォルトでは、bparchive の実行が正常に完了すると、システムプロンプトに戻ります。このコマンドはバックグラウンドで動作するため、完了したかどうかを示すステータスは直接ユーザーには通知されません。ただし、`-w` オプションを使用して、bparchive をフォアグラウンドで動作させ、指定した時間が経過したら完了のステータスを通知するように変更することもできます。

bparchive を実行すると、参考情報メッセージとエラーメッセージがプログレスログファイルに書き込まれます。ただし、bparchive コマンドを実行する前にプログレスログファイルを作成し、`-L progress_log` オプションを使用してそのファイルを指定しておく必要があります。bparchive によってアーカイブできなかったファイルまたはディレクトリがある場合は、プログレスログから原因を判断できます。

`install_path¥NetBackup¥logs¥bparchive¥` ディレクトリを作成して書き込みアクセス権を設定すると、bparchive の実行時に、アクティビティログファイルがこのディレクトリ内に作成されます。アクティビティログファイルは、トラブルシューティングに利用できます。

このコマンドでは、以下の制約が適用されます。

- ◆ bparchive コマンドによるファイルのアーカイブでは、アクセス権がある場合のみファイルを削除できます。削除するファイルは、読み取り専用を設定しないでください。読み取り専用を設定されたファイルは保存されますが、ディスクからは削除されません。
- ◆ bparchive では、「.」または「..」のディレクトリエントリはアーカイブされません。また、ディスクイメージのバックアップもアーカイブされません。

オプション

-c class ユーザー アーカイブ用のクラスを指定します。クラスを指定しない場合は、NetBackup サーバーによって最初に検索されたクラス (クライアントとユーザーのアーカイブ スケジュールを含む) が使用されます。

-s schedule

ユーザー アーカイブ用のスケジュールを指定します。スケジュールを指定しない場合は、NetBackup サーバーによって使用中のクラス内で最初に検索されたユーザー指定のアーカイブ スケジュールが使用されます。-c オプションを参照してください。

S master_server [,master_server,...]

NetBackup のマスター サーバー名を指定します。デフォルトは、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスの [サーバー] タブで現在のサーバーとして指定したサーバーです。このダイアログ ボックスを表示するには、クライアント上でユーザー インタフェースを起動し、[アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。

-t class_type

クラス タイプに対応する以下の数値のいずれかを指定します。デフォルトは、Apollo 以外のすべてのクライアントでは 0、Apollo クライアントの場合は 3 です。

0 = Standard

4 = Oracle

6 = Informix-On-BAR

7 = Sybase

10 = NetWare

13 = MS-Windows-NT

14 = OS/2

15 = MS-SQL-Server

16 = MS-Exchange-Server

注 以下のクラス タイプ (Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、NDMP、FlashBackup、Split-Mirror、および AFS) は、NetBackup BusinessServer には適用されません。

3 = Apollo-wbak

11 = DataTools-SQL-BackTrack

12 = Auspex-FastBackup

17 = SAP

18 = DB2

19 = NDMP

bparchive

20 = FlashBackup

21 = Split-Mirror

22 = AFS

-L *progress_log*

処理の進行状況を書き込む既存のファイル名を指定します。

入力例 :c:\proglog.

デフォルトでは、プログレス ログは使用されません。

-w [*hh:mm:ss*]

サーバーから完了のステータスの通知を待つ時間を指定します。この時間を経過すると、システムプロンプトに戻ります。

待機時間は、「時間:分:秒」の形式で指定できます。指定できる最大待機時間は 23:59:59 です。アーカイブが完了する前に待機時間が経過すると、コマンドは終了し、ステータスはタイムアウトになります。ただし、アーカイブ処理はサーバー側で完了します。

待機時間を指定せずに **-w** を使用するか、または **0** を指定すると、**NetBackup** は完了のステータスの受領を無制限に待機します。

-help

コマンド ラインにこのオプションだけを指定すると、コマンドの使い方を示す書式が表示されます。

-k *keyword_phrase*

このアーカイブ操作によって作成されるイメージと対応付けるキーワードフレーズを指定します。後で、**bprestore** コマンドの **-k** オプションでキーワードフレーズを指定するだけで、対応するイメージをリストアできます。

キーワード フレーズは、アーカイブ対象を表すテキスト文字列です。指定できる最大文字数は 128 文字です。キーワード フレーズには、すべての印刷可能な文字（スペース (" ") とピリオド (".") も含む）を使用できます。キーワード フレーズは二重引用符 ("...") または単一引用符 ('...') で囲みます。

デフォルトのキーワード フレーズは、NULL (空) 文字列です。

-f *listfile*

アーカイブするファイルの一覧を含むファイル (*listfile*) を指定します。このオプションは、*filenames* オプションの代わりに使用できます。*listfile* では、各ファイルパスを別の行に指定してください。

ファイル リストの形式は、ファイル名にスペースまたは改行文字が含まれているかどうかによって異なります。

ファイル名にスペースまたは改行文字を含まないファイルをアーカイブするには、次の形式を使用します。

filepath

filepath はアーカイブするファイルへのパスです。たとえば、次のように入力します。

```
c:¥Programs
```

```
c:¥winnt
```

```
c:¥documents¥old_memos
```

ファイル名にスペースまたは改行文字を含むファイルをアーカイブするには、次の形式を使用します。

filepath *filepath*

filepath はアーカイブするファイルへのパスであり、*filepath* はファイルパス内の文字数です。

たとえば、次のように入力します。

```
11 c:¥Programs
```

```
8 c:¥winnt
```

```
22 c:¥documents¥old memos
```

filenames

アーカイブするファイルを1つ以上指定します。-f オプションの代わりに使用できます。

ファイルは、ほかのすべてのオプションの後で最後に指定します。

例

例 1

単一のファイルをアーカイブするには、次のように入力します。

```
bparchive c:¥usr¥user1¥file1
```

例 2

archive_list ファイルに表示されているファイルをアーカイブするには、次のように入力します。

```
bparchive -f archive_list
```

例 3

キーワードフレーズ "Archive My Home Directory 01/01/97" を c:¥home¥kwc ディレクトリのアーカイブと対応付けて、c:¥home¥kwc¥arch.log というプログレスログを使用するには、次のように入力します。コマンドは1行内に入力します。

```
bparchive -k "Archive My Home Directory 01/01/97" -L  
c:¥home¥kwc¥arch.log c:¥home¥kwc
```

ファイル

```
install_path¥NetBackup¥logs¥bparchive¥*.log
```

bpbackup

bpbackup

コマンド名

bpbackup - NetBackup サーバーにファイルをバックアップします。

書式

```
install_path\NetBackup\bin\bpbackup [-c class] [-s schedule] [-S  
master_server [,master_server, ...]] [-t class_type] [-L  
progress_log] [-w [hh:mm:ss]] [-help] [-k "keyword_phrase"]  
-f listfile | filenames
```

```
install_path\NetBackup\bin\bpbackup -c class -i [-h hostname] [-s  
schedule] [-S master_server [,master_server, ...]] [-t  
class_type] [-w [hh:mm:ss]] [-k "keyword_phrase"]
```

説明

bpbackup を実行すると、以下のいずれかの処理が開始されます。

- ◆ ユーザーバックアップ（上記の最初の書式を参照してください）。クライアントのインタフェースを使用して行われるバックアップと同じです。この方法によるクライアントのファイルのバックアップは、すべての NetBackup クライアントから開始できます。

bpbackup コマンドを実行すると、コマンドラインに入力したファイル、または `-f listfile` オプションで指定したファイルが処理されます。ファイルパスには、ファイル名またはディレクトリ名を入力できます。指定したファイルにディレクトリが含まれている場合に bpbackup を実行すると、ディレクトリとそのディレクトリ内のすべてのファイルとサブディレクトリがバックアップされます。

- ◆ クライアントによる即時手動バックアップ（上記の 2 番目の書式を参照してください）。このバックアップでは、`-i` オプションを指定して bpbackup コマンドを実行する必要があります。このコマンドを使用できるのは、マスターサーバーの管理者だけです。NetBackup の管理者用インタフェースから手動バックアップを開始するのと同じです。ホストを指定するには、`-h` オプションを使用します。

このコマンドでは、以下の制約が適用されます。

- ◆ bpbackup を使用してファイルをバックアップするには、ファイルの所有者または管理者でなければなりません。
- ◆ ほかのユーザーによって所有されているファイルやディレクトリをバックアップするには、適切なアクセス権が必要です。
- ◆ bpbackup では、「.」または「..」のディレクトリ エントリはバックアップされません。

デフォルトでは、bpbbackup の実行が正常に完了すると、システムプロンプトに戻ります。このコマンドはバックグラウンドで動作するため、完了したかどうかを示すステータスは直接ユーザーには通知されません。ただし、`-w` オプションを使用して、コマンドをフォアグラウンドで動作させ、指定した時間が経過したら完了のステータスを通知するように変更することもできます。

bpbbackup を実行すると、参考情報メッセージとエラー メッセージがプログレス ログ ファイルに書き込まれます。ただし、bpbbackup コマンドを実行する前にプログレス ログ ファイルを作成し、`-L progress_log` オプションを使用してそのファイルを指定しておく必要があります。bpbbackup によってバックアップできなかったファイルまたはディレクトリがある場合は、プログレス ログから原因を判断できます。

`install_path\NetBackup\logs\bpbbackup` ディレクトリを作成して書き込みアクセス権を設定すると、bpbbackup の実行時に、アクティビティ ログ ファイルがこのディレクトリ内に作成されます。アクティビティ ログ ファイルは、トラブルシューティングに利用できます。

オプション

`-c class` バックアップに使用するクラスを指定します。

ユーザー バックアップにこのオプションが設定されていない場合は、NetBackup によって最初に検索されたクラス (クライアントとユーザーのバックアップ スケジュールを含む) が使用されます。

即時手動バックアップ (`-i` オプション) の場合は、`-c` オプションが必要です。

`-i` 即時手動バックアップを開始します。NetBackup の管理者用インタフェースから手動バックアップを開始するのと同じです。`-i` オプションを使用できるのは、NetBackup サーバーの管理者だけです。

`-h hostname`

このオプションを使用する場合は、必ず `-i` オプションを指定します。このオプションでは、バックアップを実行するクライアント ホストを指定します。このオプションを指定しない場合は、クラスに属するすべてのクライアントでバックアップが実行されます。

`-s schedule`

バックアップのスケジュールを指定します。このオプションを指定しない場合は、NetBackup サーバーで使用されているクラスのクライアントで最初に検索されたユーザー バックアップのスケジュールが使用されます。`-c` オプションを参照してください。

`-S master_server [,master_server,...]`

NetBackup のマスター サーバー名を指定します。デフォルトは、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスの [サーバー] タブで現在のサーバーとして指定したサーバーです。このダイアログ ボックスを表示するには、クライアント上でユーザー インタフェースを起動し、[アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。

bpbackup

-t class_type

クラス タイプに対応する以下の数値のいずれかを指定します。デフォルトは、Apollo 以外のすべてのクライアントでは 0、Apollo クライアントの場合は 3 です。

0 = Standard

4 = Oracle

6 = Informix-On-BAR

7 = Sybase

10 = NetWare

13 = MS-Windows-NT

14 = OS/2

15 = MS-SQL-Server

16 = MS-Exchange-Server

注 以下のクラス タイプ (Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、NDMP、FlashBackup、Split-Mirror、および AFS) は、NetBackup BusinessServer には適用されません。

3 = Apollo-wbak

11 = DataTools-SQL-BackTrack

12 = Auspex-FastBackup

17 = SAP

18 = DB2

19 = NDMP

20 = FlashBackup

21 = Split-Mirror

22 = AFS

-L progress_log

処理の進行状況を書き込む既存のファイル名を指定します。

入力例 :c:¥proglog

デフォルトでは、プログレス ログは使用されません。

-w [hh:mm:ss]

サーバーから完了のステータスの通知を待つ時間を指定します。この時間を経過すると、システムプロンプトに戻ります。

待機時間は、「時間:分:秒」の形式で指定できます。指定できる最大待機時間は 23:59:59 です。バックアップが完了する前に待機時間が経過すると、コマンドは終了し、ステータスはタイムアウトになります。ただし、バックアップ処理はサーバー側で完了します。

待機時間を指定せずに **-w** を使用するか、または **0** を指定すると、NetBackup は完了のステータスの受領を無制限に待機します。

-i とともに **-w** を指定した場合は、NetBackup は開始されたすべてのジョブが完了するまで待機した後、ステータスを返します。ただし、複数のジョブが開始された場合は、ステータスを予測できません。複数のクライアントが存在するために複数のジョブが実行され、クラスについて [多重データストリームを許可] が選択されていない場合は、**-h** オプションを指定して操作を 1 つのクライアントに制限し、予測可能なステータスを得ることができます。クラスについて [多重データストリームを許可] が選択されていて、選択したクライアントから複数のジョブが実行されている場合は、ステータスを予測できません。

-help コマンドラインにこのオプションだけを指定すると、コマンドの使い方を示す書式が表示されます。

-k keyword_phrase

このバックアップ操作によって作成されるイメージと対応付けるキーワード フレーズを指定します。後で、**bprestore** コマンドの **-k** オプションでキーワード フレーズを指定するだけで、対応するイメージをリストアできます。

-i オプションと **-k** オプションを併用すると、キーワード フレーズとバックアップのクラスおよびイメージが対応付けられます。

キーワード フレーズは、バックアップを表すテキスト文字列です。指定できる最大文字数は 128 文字です。キーワード フレーズには、すべての印刷可能な文字 (スペース (" ") とピリオド (".") も含む) を使用できます。キーワード フレーズは二重引用符 ("...") または単一引用符 (!...) で囲みます。

デフォルトのキーワード フレーズは、NULL (空) 文字列です。

-f listfile

バックアップするファイルの一覧を含むファイル (*listfile*) を指定します。このオプションは、*filenames* オプションの代わりに使用できます。ただし、**-i** オプションを併用することはできません。ファイルはそれぞれ別の行に指定してください。

ファイル リストの形式は、ファイル名にスペースまたは改行文字が含まれているかどうかによって異なります。

bpbackup

ファイル名にスペースまたは改行文字を含まないファイルをバックアップするには、次の形式を使用します。

filepath

filepath はバックアップするファイルへのパスです。たとえば、次のように入力します。

```
c:¥Programs
c:¥winnt
c:¥documents¥old_memos
```

ファイル名にスペースまたは改行文字を含むファイルをバックアップするには、次の形式を使用します。

filepathlen filepath

filepath はバックアップするファイルへのパスであり、*filepathlen* はファイルパス内の文字数です。

たとえば、次のように入力します。

```
11 c:¥Programs
8 c:¥winnt
22 c:¥documents¥old_memos
```

filenames

バックアップするファイルを1つ以上指定します。-f オプションの代わりに使用できます。ただし、-i オプションと併用することはできません。ファイルは、ほかのすべてのオプションの後で最後に指定します。

例

例 1

単一のファイルのユーザーバックアップを実行するには、次のように入力します。

```
bpbackup c:¥users¥user1¥file1
```

例 2

backup_list ファイルに表示されているファイル群のユーザーバックアップを開始するには、次のように入力します。

```
bpbackup -f backup_list
```

例 3

cis_co クラスのクライアントホストである diablo の即時手動バックアップを開始するには、次のように入力します (コマンドは1行内に入力します)。クラスタイプは Standard で、マスターサーバーはhossに設定されています。プログレスログはc:¥home¥hrp¥prog です。


```
bpbackup -C cis_co -i -h diablo -S hoss -t 0 -L c:\home\hrp\prog
```

例 4

キーワードフレーズ "Backup My Home Directory 01/01/97" を c:\home\kwc ディレクトリのユーザーバックアップと対応付けるには、次のように入力します。プログレス ログは c:\home\kwc\bkup.log です。

```
bpbackup -k "Backup My Home Directory 01/01/97" -L  
c:\home\kwc\bkup.log c:\home\kwc
```

例 5

キーワードフレーズ "Class Win NT 01/01/97" を win_nt_class クラスのクライアント ホスト slater の即時手動バックアップに対応付けるには、次のように入力します。プログレス ログは c:\tmp\bkup.log です。

```
bpbackup -k "Class Win NT 01/01/97" -i -h slater -c win_nt_class -t  
13 -L c:\tmp\bkup.log
```

ファイル

```
install_path\NetBackup\logs\bpbackup\*.log
```

bplist

bplist

コマンド名

bplist - NetBackup サーバーにバックアップまたはアーカイブされているファイルの一覧を表示します。

書式

```
install_path\NetBackup\bin\bplist [-A | -B] [-C client] [-S  
  master_server] [-t class_type] [-k class] [-F] [-R [n]] [-b |  
  -c | -u] [-l] [-r] [-T] [-unix_files] [-nt_files] [-s  
  mm/dd/yy [hh:mm:ss] [-e mm/dd/yy [hh:mm:ss]] [I] [PI]  
  [-help] [-keyword "keyword_phrase"] [filename]
```

説明

bplist を実行すると、以前にアーカイブまたはバックアップされたファイルの一覧が、指定したオプションに従って表示されます。一覧に表示するファイルやディレクトリの種類、および日付の範囲は指定することができます。指定したディレクトリの表示レベル数に応じて、同じディレクトリが繰り返し処理されて表示される場合があります。

一覧には、読み取りアクセス権が設定されたファイルだけが表示されます。ファイルパスに指定したすべてのディレクトリに対しても、所有権または読み取りアクセス権が必要です。ほかのクライアントによってバックアップまたはアーカイブされたファイルの一覧を表示できるのは、NetBackup の管理者から許可された場合だけです。

install_path\NetBackup\logs\bplist\ ディレクトリを作成して書き込みアクセス権を設定すると、**bplist** の実行時に、アクティビティ ログ ファイルがこのディレクトリ内に作成されます。アクティビティ ログ ファイルは、トラブルシューティングに利用できます。

bplist の出力は標準出力に送られます。

オプション

-A | -B アーカイブの一覧 (-A) を作成するか、バックアップの一覧 (-B) を作成するかを指定します。デフォルトは -B です。

-C *client*

表示するバックアップまたはアーカイブを検索するためのクライアント名を指定します。この名前は、NetBackup の設定に表示される名前と同じでなければなりません。デフォルトは、現在のクライアント名です。

-S *master_server*

NetBackup サーバー名を指定します。デフォルトは、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスの [サーバー] タブで現在のサーバーとして指定したサーバーです。このダイアログ ボックスを表示するには、クライアント上でユーザー インタフェースを起動し、[アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。

-t *class_type*

クラス タイプに対応する以下の数値のいずれかを指定します。デフォルトは、Apollo 以外のすべてのクライアントでは 0、Apollo クライアントの場合は 3 です。

- 0 = Standard
- 4 = Oracle
- 6 = Informix-On-BAR
- 7 = Sybase
- 10 = NetWare
- 13 = MS-Windows-NT
- 14 = OS/2
- 15 = MS-SQL-Server
- 16 = MS-Exchange-Server

注 以下のクラス タイプ (Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、NDMP、FlashBackup、Split-Mirror、および AFS) は、NetBackup BusinessServer には適用されません。

- 3 = Apollo-wbak
- 11 = DataTools-SQL-BackTrack
- 12 = Auspex-FastBackup
- 17 = SAP
- 18 = DB2
- 19 = NDMP
- 20 = FlashBackup
- 21 = Split-Mirror
- 20 = AFS

-k *class* 一覧作成の検索対象とするクラスを指定します。このオプションを指定しないと、すべてのクラスが検索されます。

-R [*n*] サブディレクトリを *n* レベルまで繰り返し処理して表示するように指定します。*n* のデフォルトは 999 です。

bplist

- b | -c | -u**
-l オプションを使用して印刷用の日時を指定します。
-b を指定すると、各ファイルのバックアップの日時が表示されます。
-c を指定すると、各ファイルの最終変更日時が表示されます。
-u を指定すると、各ファイルの最終アクセス日時が表示されます。
デフォルトでは、各ファイルの最終変更日時が表示されます。
- l** ファイルの詳細を表示します。
- r** バックアップされたディスク イメージの一覧を表示します。デフォルトでは、ファイルシステムの一覧が表示されます。
- T** トゥルー イメージのバックアップの一覧を表示します。デフォルトでは、トゥルー イメージ以外のバックアップの一覧が表示されます。
- unix_files**
ファイルとディレクトリの一覧を **UNIX** 形式で表示します。たとえば、`/C/users/test` のようになります。
- nt_files**
ファイルとディレクトリの一覧を **Windows NT** 形式で表示します。たとえば、`C:\users\ttest` のようになります。
- s mm/dd/yy [hh:mm:ss]**
- e mm/dd/yy [hh:mm:ss]**
表示する日付の範囲の開始日と終了日を指定します。
-s は表示する日付の範囲の開始日時を指定します。このオプションを指定すると、指定した日時以降に行われたバックアップまたはアーカイブのファイルだけが表示されます。開始日時には次の形式を使用します。
mm/dd/yy [hh[:mm[:ss]]]
日時の有効な範囲は `01/01/70 00:00:00 ~ 01/19/2038 03:14:07` です。デフォルトは、`01/01/70 00:00:00` です。
-e は表示する日付の範囲の終了日時を指定します。このオプションを指定すると、指定した日時以前に行われたバックアップまたはアーカイブのファイルだけが表示されます。終了日時には、開始日時と同じ形式を使用します。デフォルトは現在の日時です。
- I** 大文字と小文字を区別しない検索が実行されます。つまり、名前が比較されるときに、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。たとえば、`Cat` と `cat` は同じです。

- PI** パスに依存しない検索が実行されます。指定したファイルまたはディレクトリは、パスに関係なく検索されます。たとえば、以下のように、3つの異なるディレクトリに `test` というファイルがある場合、`test` を検索すると3つのファイルがすべて表示されます。
- ```
/tmp/junk/test
/abc/123/xxx/test
/abc/123/xxx/yyy/zzz/test
```
- help** コマンドラインにこのオプションだけを指定すると、コマンドの使い方を示す書式が表示されます。
- keyword "keyword\_phrase"**  
リストア対象のファイルがあるバックアップまたはアーカイブを検索するためのキーワードフレーズを指定します。キーワードフレーズは、`bpbackup` コマンドまたは `bparchive` コマンドの `-k` オプションを使用して以前にバックアップまたはアーカイブと対応付けたキーワードフレーズと同じでなければなりません。
- このオプションをほかのリストアオプションの代わりとして使用するか、または組み合わせて使用することによって、バックアップとアーカイブを簡単にリストアできます。以下のメタ文字をキーワードに含めて使用すると効率的に検索できます。
- \* は、任意の数の文字を表します。
  - ?? は、任意の1文字を表します。
  - [] は、角かっこ内に指定した文字のいずれかを表します。
  - [-] は、角かっこ内に指定した範囲内の任意の1文字を表します。
- キーワードフレーズに指定できる最大文字数は128文字です。キーワードフレーズには、すべての印刷可能な文字（スペース (" ") とピリオド (".") も含む）を使用できます。キーワードフレーズは二重引用符 ("...") または単一引用符 ('...') で囲みます。
- デフォルトのキーワードフレーズは、**NULL**（空）文字列です。
- filename** 表示するファイルまたはディレクトリを指定します。パスを指定しないと、デフォルトとして現在の作業ディレクトリが指定されます。
- ファイルは、ほかのすべてのオプションの後に最後に指定します。
- ドライブ文字には大文字を使用します。たとえば、`C:¥NetBackup¥log1` のように指定します。

## bplist

---

### 例

#### 例 1

D:\¥WS\_FTP.LOG にバックアップされているファイルを繰り返し処理し、ファイルの一覧をロング形式で表示するには、次のように入力します。

```
bplist -l D:\¥WS_FTP.LOG
-rwx----- bjm bjm 64 Oct 10 1997 D:\¥WS_FTP.LOG
-rwx----- bjm bjm 64 Oct 10 1997 D:\¥WS_FTP.LOG
-rwx----- bjm bjm 64 Oct 10 1997 D:\¥WS_FTP.LOG
```

#### 例 2

ファイルが次のキーワード フレーズのすべてまたは一部に対応付けてバックアップされているとします。

"My Home Directory"

このうち、C:\¥home¥kwc ディレクトリ内のファイルの一覧と詳細を表示するには、次のように入力します。

```
bplist -keyword "*My Home Directory*" -l C:\¥home¥kwc
```

#### 例 3

ファイルが次のキーワード フレーズのすべてまたは一部に対応付けてアーカイブされているとします。

"My Home Directory"

C:\¥home¥kwc ディレクトリ内のファイルの一覧と詳細を表示するには、次のように入力します。

```
bplist -A -keyword "*My Home Directory*" -l C:\¥home¥kwc
```

#### 例 4

ファイルが **Windows NT** クライアント **slater** のドライブ **D** でバックアップされ、以下のキーワード フレーズのすべてまたは一部に対応付けられているとします。

"Win NT"

このファイルを繰り返し処理し、詳細とともに表示するには、次のように入力します。

```
bplist -keyword "*Win NT*" -C slater -t 13 -R -l D:\¥
```

### ファイル

*install\_path*\¥NetBackup\¥logs\¥bplist¥\*.log

## bprestore

### コマンド名

bprestore - NetBackup サーバーからファイルをリストアします。

### 書式

```
install_path¥NetBackup¥bin¥bprestore [-A | -B] [-K] [-l | -H |
-y] [-r] [-T] [-L progress_log] [-R rename_file] [-C client]
[-D client] [-S master_server] [-t class_type] [-c class] [-s
mm/dd/yy [hh:mm:ss]] [-e mm/dd/yy [hh:mm:ss]] [-w
[hh:mm:ss]] [-k "keyword_phrase"] -f listfile | filenames
```

### 説明

bprestore を実行すると、バックアップまたはアーカイブされたファイルやファイルの一覧をリストアできます。また、ディレクトリをリストアすることもできます。ディレクトリ名を指定すると、そのディレクトリに含まれるすべてのファイルとサブディレクトリがリストアされます。

デフォルトでは、bprestore の実行が正常に完了すると、システムプロンプトに戻ります。このコマンドはバックグラウンドで動作するため、完了したかどうかを示すステータスは直接ユーザーには通知されません。ただし、-w オプションを使用して、bprestore をフォアグラウンドで動作させ、指定した時間が経過したら完了のステータスを通知するように変更することもできます。

bprestore コマンドを実行すると、指定した期間内で最も最近バックアップされたファイルがリストアされます。-K オプションを指定しないと、ローカルクライアントディスクにすでに存在する同じ名前のファイルは上書きされます。-C オプションを指定して、別のクライアントでバックアップまたはアーカイブされたファイルをリストアすることもできます。別のクライアントからリストアするには、NetBackup の管理者から許可を得る必要があります。

bplist コマンドを使用すると、バックアップまたはアーカイブされたファイルやディレクトリに関する情報を表示できます。

bprestore を実行すると、参考情報メッセージとエラーメッセージがプログレスログファイルに書き込まれます。ただし、bprestore コマンドを実行する前にプログレスログファイルを作成し、-L *progress\_log* オプションを使用してそのファイルを指定しておく必要があります。bprestore によってリストアできなかったファイルまたはディレクトリがある場合は、プログレスログから原因を判断できます。

トラブルシューティングに必要な情報を記録するには、書き込みアクセス権を設定した `install_path¥NetBackup¥logs¥bprestore` ディレクトリを作成します。以降、bprestore が実行されると、このディレクトリにアクティビティログファイルが作成されます。

## bprestore

bprestore コマンドでは、以下の制約が適用されます。

- ◆ ファイルやディレクトリに対して読み取りアクセス権がある場合は、それらのファイルやディレクトリの所有者に関係なくリストアを行うことができます。ただし、ほかのユーザーのファイルを元の場所にリストアするには、そのユーザーのファイルとディレクトリに対する書き込みアクセス権が必要です。
- ◆ 単一の bprestore コマンド ラインに指定できるファイルとディレクトリの数は、オペレーティング システムごとに制限されています。この制限を超えるファイルをリストアする場合は、`-f` オプションを使用します。

### オプション

- A | -B アーカイブからリストア (-A) するか、バックアップからリストア (-B) するかを指定します。デフォルトは -B です。
- K このオプションを指定すると、既存のファイルと同じ名前のファイルをリストアする場合に、既存のファイルは上書きされずに保持されます。デフォルトでは、既存のファイルが上書きされます。

---

**注** `-l` | `-H` | `-y` オプションを使用するのは、UNIX ファイルを UNIX システムにリストアする場合だけです。

---

- l | -H | -y
    - l オプションを指定すると、`-R rename_file` オプションによってファイル名が変更されるのと同じように UNIX のリンク先の名前が変更されます。
    - H オプションを指定すると、`-R rename_file` オプションによってファイル名が変更されるのと同じように UNIX のハード リンクの名前が変更されます。ソフト リンクは変更されません。
    - y オプションを指定すると、`-R rename_file` オプションによってファイル名が変更されるのと同じように UNIX のソフト リンクの名前が変更されます。ハード リンクは変更されません。
- 「例」の「例5」を参照してください。
- r このオプションを指定すると、ファイルシステムの代わりにディスク イメージがリストアされます。
  - L `progress_log`  
処理の進行状況を書き込む既存のファイル名を指定します。  
入力例 `:c:\%proglog`  
デフォルトでは、プログレス ログは使用されません。



**-R *rename\_file***

ファイルの元の名前とそれを別のパスにリストアするときの名前を指定します。

入力例: `bprestore -R /C/renamefile /C/origfile`

ここで、`/C/rename_file` は名前を変更するためのファイルで、`/C/origfile` は名前が変更されるファイルです。

名前を変更するためのファイル内のエントリには次の形式を使用します。

`change backup_filepath to restore_filepath`

ここで、

ファイルパスの先頭にはスラッシュ (/) を指定します。

最初に一致した `backup_filepath` が `restore_filepath` の文字列に変更されます。デフォルトでは、元のパスを使用してリストアされます。

たとえば、次のエントリによって `C:\users\fred` は `C:\users\fred2` に変更されます。

`change /C/users/fred to /C/users/fred2`

(エントリの最後には改行を入力します。)

Windows NT クライアントにリストアする場合は、名前を変更するためのファイルで次のようにエントリを指定することもできます (ほかのクライアントでは、この方法は使用しないでください)。

`rename bulength backup_filepath reslength restore_filepath`

ここで、

`bulength` はバックアップパス内の ASCII 文字の数です。

`reslength` はリストアパス内の ASCII 文字の数です。

最初に一致した `backup_filepath` が `restore_filepath` の文字列に変更されます。

たとえば、次のエントリによって `C:\fred.txt` は `C:\fred2.txt` に変更されます。

`rename 11 /C/fred.txt to 12 /C/fred2.txt`

(エントリの最後には改行を入力します。)

**-C *client***

リストアするファイルがあるバックアップまたはアーカイブを検索するためのクライアント名を指定します。この名前は、NetBackup のカタログに表示される名前と一致していなければなりません。デフォルトは、現在のクライアント名です。

**-D *client***

リストア先のクライアントを指定します。マスターサーバーの管理者は、このオプションを使用して、-C オプションで指定したクライアントとは別のクライアントにファイルをリストアできます。

---

**bprestore**

---

**-S *master\_server***

**NetBackup** サーバー名を指定します。デフォルトは、[NetBackup マシンの指定] ダイアログ ボックスの [サーバー] タブで現在のサーバーとして指定したサーバーです。このダイアログ ボックスを表示するには、クライアント上でユーザー インターフェイスを起動し、[アクション] メニューの [NetBackup マシンの指定] をクリックします。

**-t *class\_type***

クラス タイプに対応する以下の数値のいずれかを指定します。デフォルトは、Apollo 以外のすべてのクライアントでは 0、Apollo クライアントの場合は 3 です。

0 = Standard  
4 = Oracle  
6 = Informix-On-BAR  
7 = Sybase  
10 = NetWare  
13 = MS-Windows-NT  
14 = OS/2  
15 = MS-SQL-Server  
16 = MS-Exchange-Server

---

**注** 以下のクラス タイプ (Apollo-wbak、DataTools-SQL-BackTrack、Auspex-FastBackup、SAP、DB2、NDMP、FlashBackup、Split-Mirror、および AFS) は、NetBackup BusinessServer には適用されません。

---

3 = Apollo-wbak  
11 = DataTools-SQL-BackTrack  
12 = Auspex-FastBackup  
17 = SAP  
18 = DB2  
19 = NDMP  
20 = FlashBackup  
21 = Split-Mirror  
20 = AFS

**-C *class*** バックアップまたはアーカイブが行われたクラスを指定します。

`-s mm/dd/yy [hh:mm:ss]`

`-e mm/dd/yy [hh:mm:ss]`

表示する日付の範囲の開始日と終了日を指定します。bprestore コマンドを実行すると、指定した開始日から終了日までの範囲に行われたバックアップまたはアーカイブのファイルだけがリストアされます。

`-s` は、リストア ウィンドウの開始日時を指定します。指定した日時以降に行われたバックアップまたはアーカイブのファイルだけがリストアされます。次の形式を使用します。

`mm/dd/yy [hh[:mm[:ss]]]`

日付の有効な範囲は、01/01/70 00:00:00 ~ 01/19/2038 03:14:07 です。デフォルトの開始日は 01/01/70 00:00:00 です。

`-e` は、リストア ウィンドウの終了日時を指定します。指定した日時以前に行われたバックアップまたはアーカイブのファイルだけがリストアされます。開始日時と同じ形式を使用します。

バックアップの終了日時は正確に指定する必要はありません。bprestore コマンドを実行すると、指定した日時のファイルまたは終了日時以前で最新のバックアップのファイルがリストアされます。デフォルトの終了日は、現在の日時です。

`-s` も `-e` も指定しない場合は、ファイルの最新のバックアップバージョンがリストアされます。

`-T`

ツール イメージのリストアを指定します。リストアされるのは、前回のツール イメージのバックアップ時に存在したファイルとディレクトリだけです。このオプションは、ツール イメージのバックアップが行われた場合にだけ利用できます。このオプションを指定しない場合は、指定した条件に該当するすべてのファイルとディレクトリがリストアされます。削除されたファイルとディレクトリもリストアされます。

`-w [hh:mm:ss]`

サーバーから完了のステータスの通知を待つ時間を指定します。この時間を経過すると、システムプロンプトに戻ります。

待機時間は、「時間:分:秒」の形式で指定できます。指定できる最大待機時間は 23:59:59 です。リストアが完了する前に待機時間が経過すると、コマンドは終了し、ステータスはタイムアウトになります。ただし、リストア処理はサーバー側で完了します。

待機時間を指定しないか、または 0 を指定すると、NetBackup は完了のステータスを無制限に待機します。

## bprestore

**-k "keyword\_phrase"**

リストア対象のファイルがあるバックアップまたはアーカイブを検索するためのキーワードフレーズを指定します。bpbbackup コマンドまたはbparchive コマンドの -k オプションを使用して以前にバックアップまたはアーカイブと対応付けたキーワードフレーズと同じでなければなりません。

このオプションをほかのリストア オプションの代わりとして使用するか、または組み合わせて使用することによって、バックアップとアーカイブを簡単にリストアできます。以下のメタ文字をキーワードフレーズの全体または一部に含めて使用すると効率的に検索できます。

\* は、任意の数の文字を表します。

?? は、任意の 1 文字を表します。

[] は、角かっこ内に指定した文字のいずれかを表します。

[-] は、角かっこ内に指定した範囲内の任意の 1 文字を表します。

キーワードフレーズに指定できる最大文字数は 128 文字です。キーワードフレーズには、すべての印刷可能な文字 (スペース (" ") とピリオド (".") も含む) を使用できます。キーワードフレーズは二重引用符 ("...") または単一引用符 ('...') で囲みます。

デフォルトのキーワードフレーズは、NULL (空) 文字列です。

**-f listfile**

リストアするファイルの一覧を含むファイル (*listfile*) を指定します。このオプションは、*filenames* オプションの代わりに使用できます。*listfile* では、各ファイルパスを別の行に指定してください。

ファイルリストの形式は、ファイル名にスペースまたは改行文字が含まれているかどうかによって異なります。

ファイル名にスペースまたは改行文字を含まないファイルをリストアするには、次の形式を使用します。

**filepath**

*filepath* はリストアするファイルへのパスです。たとえば、次のように入力します。

---

**注** ドライブ文字には大文字を使用します。たとえば、C:¥NetBackup¥log1 のように指定します。

---

```
c:¥Programs
c:¥winnt
c:¥documents¥old_memos
```

ファイル名にスペースまたは改行文字を含むファイルをアーカイブするには、次の形式のいずれかを使用します。

```
filepathlen filepath
filepathlen filepath start_date_time end_date_time
filepathlen filepath -s datetime -e datetime
```

ここで、

*filepath* はリストアするファイルへのパスです。

*filepathlen* はファイルパス内の文字数です。

*start\_date\_time* と *end\_date\_time* は、01/01/70 00:00:00 以降の秒数を表す整数値です。

*datetime* は、コマンドライン (*mm/dd/yy [hh[:mm[:ss]]]*) と同じです。 *listfile* の行によって上書きされない限り、コマンドラインで指定した開始日時と終了日時が使用されます。日付は行ごとに異なる場合があります。

次は、 *filepathlen filepath* の例です。

```
11 C:¥programs
8 C:¥winnt
22 C:¥documents¥old memos
```

#### *filenames*

リストアするファイルを指定します。このオプションは、*-f* オプションの代わりに使用できます。

ファイルは、ほかのすべてのオプションの後で最後に指定します。ファイルの絶対パスも指定する必要があります。

ドライブ文字には大文字を使用します。たとえば、C:¥NetBackup¥log1 のように指定します。

#### 例

##### 例 1

04/01/93 06:00:00～04/10/93 18:00:00の期間内に行われた C:¥user1¥file1のバックアップからファイルをリストアするには、次のように入力します。コマンドは1行内に入力します。

```
bprestore -s 04/01/93 06:00:00 -e 04/10/93 18:00:00 C:¥user1¥file1
```

##### 例 2

最新のバックアップを使用して、*restore\_list* ファイルに表示されているファイルをリストアするには、次のように入力します。

```
bprestore -f c:¥restore_list
```

## bprestore

---

### 例 3

キーワード フレーズ "My Home Directory" に対応するバックアップから、C:\kwc ディレクトリをリストアし、d:\kwc\bkup.log というプログレス ログを使用するには、次のように入力します。コマンドは1行内に入力します。

```
bprestore -k "*My Home Directory*" -L d:\kwc\bkup.log C:\kwc
```

### 例 4

キーワード フレーズ "My Home Dir" に対応するバックアップから Windows NT クライアント slater のドライブ D をリストアし、c:\kwc\bkup.log というプログレス ログを使用するには、次のように入力します。コマンドは1行内に入力します。

```
bprestore -k "*My Home Dir*" -C slater -D slater -t 13 -L
c:\kwc\bkup.log D:
```

### 例 5

UNIXクライアントに/home/kwc/renameという名前を変更するためのファイルがあり、その内容が次の通りであるとします。

```
change /home/kwc/linkback to /home/kwc/linkback_alt
```

/home/kwc/linkback というハード リンクを同じクライアントの別のパス /home/kwc/linkback\_alt にリストアするには、次のコマンドを実行します。

```
bprestore -H -R /home/kwc/rename /home/kwc/linkback
```

### ファイル

```
install_path\NetBackup\logs\%bprestore%.log
```

## xbp (1)

### コマンド名

xbp - NetBackup ユーザー用の X Windows ベースのインタフェースを起動します。

### 書式

```
/usr/opensv/netbackup/bin/xbp [-r] [-ra] [-rr]
[-nl] [-browselimit files] [X options]
```

### 説明

xbp コマンドを実行すると、グラフィカル ユーザー インタフェースが起動します。このインタフェースを使用して、クライアントワークステーションのファイル、ディレクトリ、または raw パーティションをアーカイブ、バックアップ、およびリストアできます。xbp コマンドを実行できるのは、X Windows システムの MIT リリース X11.R4 以降に対応する X 端末または X サーバーだけです。

xbp インタフェースは、OSF/Motif の規約に準拠しています。OSF/Motif の規約の詳細については、『OSF/Motif User's Guide』（Open Software Foundation 著、Prentice-Hall, Inc. (ISBN 0-130640509-6)）を参照してください。

xbp インタフェースの使い方については、『NetBackup User's Guide - UNIX』および xbp のオンラインヘルプを参照してください。

### オプション

xbp には、バックアップ、アーカイブ、およびリストア用のモードがあります。バックアップとアーカイブのモードでは、ファイルシステムが表示されます。デフォルトでは、xbp は、ファイルシステムのモードで起動します。以下のオプションを使用すると、起動モードを直接制御できます。

- r 起動時にリストア可能なバックアップを表示します。
- ra 起動時にリストア可能なアーカイブを表示します。
- rr 起動時にリストア可能な raw パーティションのバックアップを表示します。
- nl 検索中に xbp によってリンクを解決しないようにします。デフォルトでは、リンクが解決されます。

---

**xbp (1)**

---

**-browselimit files**

暗黙で検索するファイル数を指定します。

指定した日付の範囲内にバックアップされたファイルやディレクトリの数が多い場合は (デフォルトでは 10000)、リストアモードへの切り替え時に xbp から警告メッセージが返されます。このメッセージでは、[編集] メニューの [画面の更新] を明示的に選択しない限り、検索に時間がかかることが通知されます。

xbp の起動時に -browselimit パラメータを使用すると、暗黙で検索するファイル数を 10000 以上に増やすことができます。

xbp では、X プログラムの標準のコマンドラインオプションもサポートされています。たとえば、-d オプションを使用すると、X 端末またはサーバーの名前が強制的に使用されます。通常は DISPLAY 環境変数が定義されているため、-d オプションは無視されます。

以下は、その他の便利な X オプションです。

**-bg color**

ウィンドウの背景色を指定します。デフォルトは white です。

**-fg color**

テキストの色を指定します。デフォルトは black です。

**-font**

テキストを拡大して見やすくすることができます。xbp では、テキストがカラム形式で表示される場合があるため、固定ピッチフォントを使用することをお勧めします。プロポーショナルフォントを使用すると、カラムの位置がずれる場合があります。

**-geometry**

xbp ウィンドウの初期のサイズと位置を制御できます。

**-title**

ウィンドウマネージャのタイトルバーを制御します。このオプションは、xbp の複数のインスタンスを同時に実行する場合に便利です。

**ファイル**

/usr/opensv/netbackup/help/xbp/\*

/usr/opensv/netbackup/bp.conf

**参照**

bp(1), bparchive(1), bpbackup(1), bplist(1), bprestore(1)



## 用語集

---

### ACS

Automated Cartridge System (自動カートリッジシステム) の略。このロボットタイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### AIT

Sony Advanced Intelligent Tape の略。テープドライブまたはメディアのタイプ。

### bp

NetBackup UNIX クライアント上でユーザが使用するバックアップ、アーカイブ、およびリストアユーティリティ。このユーティリティは、キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

### bp.conf ファイル

UNIX サーバ、および UNIX、Macintosh、OS/2 のクライアントにある NetBackup 設定ファイル。

### bp.ini ファイル

Novell NetWar ターゲット クライアント用の NetBackup 初期設定ファイル。

### bpadm

NetBackup UNIX サーバ上で実行するシステム管理者用ユーティリティ。このユーティリティは、キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

### bpcd

Windows NT 上の NetBackup Client Service、および UNIX 上の NetBackup Client デーモン。

用語集

---

**bprd**

Windows NT 上の NetBackup Request Manager Service、および UNIX 上の NetBackup Request デーモン。

**CDF**

Context-dependent file の略。Hewlett-Packard システムにおけるディレクトリ構造のタイプ。

**cpio**

ディスクやテープ上の **cpio** アーカイブに、またはそこから、ファイルをコピーするための UNIX コマンド。

**ctime**

UNIX i ノードが変更された時間。

**DHCP**

Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト構成プロトコル) の略。この TCP/IP プロトコルは、ネットワークへの接続時に、ホストに一時的な IP アドレスを自動的に割り当てます。

**DLT**

デジタル リニア テープ (Digital Linear Tape) のこと。テープドライブの種類の 1 つ。

**DNS (Domain Name Service)**

ネットワーク通信のために、名前の変換を扱うプログラム。

**EVSN**

External Volume Serial Number (外部ボリュームのシリアル番号) の略。メディアカートリッジ、またはキャニスタに書き込まれた識別子で、ボリュームをドライブやロボットに挿入する前に、演算子はそのボリュームを識別できるようにします。ラベルの付いたメディアの場合は、EVSN は RVSN (Recorded Volume Serial Number の略で、メディア上に記録された識別子) と同じでなければなりません。すべてのメディアで、EVSN の値はメディア ID と同じになります。

**FastBackup**

Auspex クライアント上でのみ実行可能な、raw パーティションのバックアップの特殊なタイプ (このオプションは NetBackup DataCenter でのみ使用できます)。

## FlashBackup

別ライセンスのオプションである NetBackup FlashBackup でのみ実行可能な、raw パーティションのバックアップ（このオプションは NetBackup DataCenter でのみ使用できます）。

## FROZEN（メディアの状態）

ボリュームの状態が FROZEN（凍結状態）の場合、NetBackup ではそのメディアを永久保存するものとして扱います。このメディアからリストアすることはできませんが、バックアップやアーカイブには使用できなくなります。

## FULL（メディアの状態）

レポートやリストにこの状態が表示された場合、ボリュームはいっぱいで、これ以上データを保存したりバックアップすることができないことを示します。

## Global Data Manager

別ライセンスの製品（UNIX サーバ用）で、管理者が複数のマスタ サーバを監視したり管理することができる、ツリービューを持つインタフェースを提供します。このオプションがインストールされているサーバを「マスタ オブ マスタ」と呼びます。

## GNU tar

UNIX tar プログラムのパブリック ドメインバージョン。

## goodies ディレクトリ

サポート 対象外のプログラム、スクリプト、およびその他のファイルが格納されているディレクトリ。

## GUI

Graphical User Interface（グラフィカル ユーザー インタフェース）の略。

## HSM

「Storage Migrator」を参照。

## install\_path

NetBackup と Media Manager ソフトウェアがインストールされているディレクトリ。Windows NT の場合、デフォルトは C:\Program Files\VERITAS で、UNIX の場合は、デフォルトは /usr/opensv です。

## 用語集

---

### i ノード

単一ファイルの存在を定義する UNIX のデータ構造。

### jbpSA

ユーザーがバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するために使用する Java ベースの NetBackup インタフェース。

### jnbSA

システム管理者が使用する Java ベースの NetBackup インタフェース。

### LMF (Library Management Facility : ライブラリ管理機能)

**Media Manager** で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダー タイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で **NetBackup BusinessServer** または **NetBackup DataCenter** のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、**NetBackup DataCenter** でのみ使用することができます。

### Media Manager

NetBackup のソフトウェアの 1 つで、ストレージ デバイスとリムーバブルメディアを管理します。

### Media Manager ホスト

Media Manager ソフトウェアがインストールされているホスト。

### MHD

「マルチホスト ドライブ」を参照。

### MPX

「マルチプレキシング」を参照。

### mtime

UNIX ファイルまたは NTFS ファイルが修正された時間のポイント。

## NDMP

Network Data Management Protocol の略。NetBackup で NDMP を使用するには、NDMP 用 NetBackup の別ライセンスのオプションが必要です。

## NetBackup Client Service

クライアントとサーバー上で実行される NetBackup Windows NT のサービスで、ネットワーク内の NetBackup サーバーとクライアントの接続を待機します。接続が確立すると、このサービスによって必要なプログラムが開始されます。

## NetBackup Database Manager Service

マスターサーバー上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、カタログと呼ばれる NetBackup 内部データベースを管理します。NetBackup の管理操作中は、このサービスはマスターサーバー上で実行されていなければなりません。

## NetBackup Device Manager Service

NetBackup サーバー上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、ロボティックコントロールの処理を開始し、ボリュームの予約と割り当てを制御します。このサービスは、サーバーに Media Manager によって制御されているデバイスが存在する場合にのみ実行されます。このプロセスは、ltid です。

## NetBackup Request Manager Service

マスターサーバー上で実行される NetBackup Windows NT/2000 のサービスで、スケジューラを開始し、クライアントからリクエストを受信します。

## NetBackup Volume Manager Service

マスターサーバー上で実行される NetBackup Windows NT/2000 サービスで、Media Manager のリモート管理とボリューム情報の管理を行います。このプロセスは、vmd です。

## NetBackup 設定オプション

UNIX サーバや UNIX と Macintosh クライアントの場合は、NetBackup 設定オプションは bp.conf ファイル内で指定します。NetWare ターゲットや OS/2 クライアントの場合は、bp.ini ファイル内で指定します。Windows NT サーバーと Microsoft Windows クライアントの場合、この設定はプロパティと呼ばれ、バックアップ、アーカイブおよびリストア インタフェースか、管理インタフェースの [設定 - NetBackup] ウィンドウで指定します。

## 用語集

---

### NetBackup データベース

「カタログ」を参照。

### NetBackup のプロパティ

NetBackup 設定オプションと同じですが、Microsoft Windows プラットフォーム上では NetBackup のプロパティと呼ばれます。

### NFS

Network File System の略。

### NIS

Network Information Service の略。

### NLM

NetWare Loadable Module の略。

### ODL

Optical Disk Library の略。このロボット タイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### OSF と Motif

ユーザー インタフェースの設計のための仕様を集めたもの。

### pathname

目的のディレクトリやファイルへのパスを示すディレクトリのリスト。

### PC クライアント

Microsoft Windows (2000、NT、98、95)、Macintosh、または IBM OS/2 オペレーティングシステムが実行されている NetBackup クライアント。

### peername

別のシステムへの接続を確立する際に、コンピュータがそれ自体を識別する名前。

### QIC

Quarter-Inch-Cartridge (1/4 インチ カートリッジ) テープの略。

### raw パーティションのバックアップ

UNIX 上のディスク ドライブの任意のパーティションをビット単位でバックアップすること。Windows NT/2000 の場合は、ディスク イメージバックアップと呼ばれます。

### rbak

Apollo クライアントが、リストアの実行中にテープからデータを読み込むために使用するプログラム。

### RS-232

シリアル通信や、場合によってはストレージユニット周辺機器との通信に使われる、業界標準のインタフェース。

### RSM - Removable Storage Manager

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

また、ストレージ デバイスを管理している Windows2000 オペレーティング システムのコンポーネントでもあります。

### RSM インタフェース

Windows 2000 で RSM (Removable Storage Manager) の管理に使用されるアプリケーション。

### RVSN

Recorded Volume Serial Number の略。ボリューム上のラベルの一部として記録される識別子で、Media Manager は正しいボリュームがマウントされたかどうかを確認するために使用します。RVSN の値は、メディア ID と同じになります。

### SCSI

Small Computer System Interface の略。形式としてはパラレル インタフェースの一種で、ストレージ周辺機器との通信に頻繁に使用されます。

### Shared Storage Option (SSO)

「マルチホスト ドライブ」を参照。

## 用語集

---

### SMDR

Storage Management Data Requestor の略。ユーザーに意識させずにすべての SMS モジュールに対してサービスを提供し、リモートやローカル モジュールの相互通信を可能にする Novell NetWare のプログラム。

### SMS

Novell NetWare のストレージ マネージメント サービス (Storage Management Service)。

### Storage Migrator

VERITAS Storage Migrator など、UNIX および Windows NT 用の階層型ストレージ管理製品。これらの製品は、ユーザーに意識させずにデータを別のストレージユニットに移動し、ユーザーやアプリケーションで必要になったときにだけ、そのデータをユーザーに意識させずに戻すことで、ディスクの容量を節約します。

Storage Migrator は、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### SUSPENDED (メディアの状態)

ボリュームが SUSPENDED (サスペンド状態) の場合、NetBackup はそのボリュームからリストアすることはできませんが、バックアップに使用することはできません。NetBackup では、ボリューム内の最後のバックアップ イメージの期限が切れるまで、メディア ID のレコードを保存します。

### tar

リストア中に NetBackup がバックアップ イメージを抽出するために使用する Tape Archive プログラム。

### Target Service Agent (ターゲット サービス エージェント)

ターゲット サービス エージェントは、Novell NetWare のエージェントで、バックアップ中は SMS 用に、リストア中はターゲット用に、ターゲットのデータを用意します。

### TIR

「トゥルー イメージ リストア (True Image Restore)」を参照。



### TL4 - Tape Library 4MM

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

### TL8 - Tape Library 8MM

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

### TLD - Tape Library DLT

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

### TLH - Tape Library Half-inch

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボットタイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

### TLM - Tape Library Multimedia

Media Manager で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で NetBackup BusinessServer または NetBackup DataCenter のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボットタイプは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## tpconfig

デバイスの設定に使用される **Media Manager** の管理ユーティリティで、コマンドラインから開始されます。このユーティリティには、キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、UNIX 上では、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

## TS8 - Tape Stacker 8MM

**Media Manager** で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で **NetBackup BusinessServer** または **NetBackup DataCenter** のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

## TSA

「Target Service Agent (ターゲット サービス エージェント)」

## TSH - Tape Stacker Half-inch

**Media Manager** で指定するロボットのカテゴリ。このカテゴリの特定のベンダータイプとモデルについては、VERITAS の Web サイト ([www.support.veritas.com](http://www.support.veritas.com)) のサポート ページを参照。VERITAS Support Product List (VERITAS サポート製品リスト) で **NetBackup BusinessServer** または **NetBackup DataCenter** のいずれかを選択し、サポートされているオプションを確認してください。

このロボット タイプは、**NetBackup DataCenter** でのみ使用することができます。

## vm.conf

**Media Manager** の設定ファイルで、ローカル デバイスと、バーコードの付いていないデフォルトのメディア ID のプレフィックスを管理するサーバーのエントリを持ちます。

## vmadm

ボリューム管理のための **Media Manager** の管理ユーティリティ。このユーティリティは、UNIX 上で実行されます。キャラクタベースのメニューインタフェースが備わっており、X Windows 端末ではない端末から実行することができます。

## wbak

Apollo クライアントがテープにデータを書き込むために使用するプログラム。

## Windows Display Console

Windows 2000、NT、98、および 95 のコンピュータで実行される NetBackup-Java インタフェース プログラム。ユーザーまたは管理者は、ローカルシステムでこのインタフェースを起動して、NetBackup-Java ソフトウェアがインストールされている UNIX システムにアクセスできます。その後は、各自の権限の範囲内でユーザーや管理者の操作を実行できます。

## WORM メディア

1 度書き込むと、その後は読取り専用になるオプティカル ディスクのメディア。NetBackup BusinessServer では、WORM メディアは使用できません。

## xbp

NetBackup UNIX クライアント上のユーザが、バックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するための、X Windows ベースのプログラム。

## xbpadm

UNIX 用の X Windows ベースの NetBackup 管理インタフェース。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## xbpmon

UNIX でジョブの監視を行うための、X Windows ベースの NetBackup ユーティリティ。  
このユーティリティは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## xdevadm

UNIX でデバイスの管理を行うための、X Windows ベースの Media Manager ユーティリティ。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## xvmadm

UNIX でメディアの管理を行うための、X Windows ベースの Media Manager ユーティリティ。このインタフェースは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## アウト - ポート

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## 用語集

---

### アーカイブ

特別な形式のバックアップの仕方。NetBackup の場合、選択したファイルをバックアップし、バックアップが完了すると、ファイルをローカルディスクから削除することをいいます。このマニュアルでは特に記載がない限り、「バックアップ」はアーカイブ操作の一部であるバックアップ処理を指すこともあります。

### アーカイブ ビット

ファイルの書き込み時に Microsoft ベースのオペレーティング システムによって設定されるファイルのステータスビットで、ファイルが変更されたことを示します。

### アクセス制御リスト (ACL)

ある種のファイルシステムにおいて、ファイルに関連付けられているセキュリティ情報のこと。

### アクティビティ モニタ

NetBackup のジョブ情報を表示し、最小限の管理機能を提供する、NetBackup の管理ユーティリティ。

### アクティビティ ログ

必要に応じて、特定の NetBackup のプログラムやプロセスに対して有効とすることができ、その結果障害解析に利用できるログの総称。

### アクティブ ジョブ

NetBackup でデータのバックアップまたはリストアを実行中のジョブ。

### 圧縮

データ圧縮処理のことで、この処理によりデータの転送と格納をより効率的に実行できます。

### 暗号化

クライアント上のバックアップ データを暗号化することにより、セキュリティ効果を高めます。この機能を使用するには、別ライセンス製品の NetBackup Encryption オプションが必要です。

## イメージ

NetBackup が、バックアップまたはアーカイブの実行中に、クライアントごとに保存するデータの集まり。イメージには、バックアップやアーカイブと関連付けられたすべてのファイル、ディレクトリ、およびカタログ情報が含まれます。

## イメージ複製

バックアップ イメージの複製コピー。

## 入力ポートと出力ポート

ロボット 内部にアクセスしなくてもテープの挿入や取り出しが行えるロボットのスロット、または領域です。テープを挿入した後は、**inject** コマンドを使用してスロットに移動します。テープを取り出す前には、**eject** コマンドを使用してそのポートに移動します。**inject** コマンドと **eject** コマンドは、**Media Manager** 管理インタフェースの追加 / 移動画面で実行できます。入力ポートと出力ポートは、メールスロット、あるいはインポート、アウトポートと呼ばれることもあります。

## インクリメンタルバックアップ

「累積インクリメンタルバックアップ」および「差分インクリメンタルバックアップ」を参照。

## インポート

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## インポート

NetBackup でイメージをリストアできるように、そのイメージの NetBackup レコードを再生する処理。

## 階層ストレージ管理

選択したファイルを管理しているファイルシステムからセカンダリストレージの指定したマイグレーションレベルに自動的にマイグレートする処理で、その間これらのファイルへの透過アクセスは保持されます。

## カタログ

NetBackup および **Media Manager** の内部データベース。これらのカタログには、設定、メディア、デバイス、ステータス、エラー、および格納したバックアップ イメージのファイルやディレクトリについての情報が格納されています。

## 用語集

---

### カーネル

オペレーティング システムの核。

### 管理クライアント

NetBackup サーバーを管理するために管理インタフェース ソフトウェアがインストールされている、Windows NT/2000 の NetBackup クライアント。

### キーワード句

各バックアップのテキストによる説明文。

### キューに追加されたジョブ

実行するジョブ リストに追加されたジョブ。

### クライアント

バックアップ、アーカイブ、またはリストアを行うファイルが置かれているシステム。

### クライアント ユーザー インタフェース

ユーザーがバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行するために使用するプログラム。

### クラス

類似するバックアップ条件を持つ、1 つ以上のクライアントから成るグループのバックアップ ポリシーを定義するもの。

### クラスタ

「マスター サーバーとメディア サーバーのクラスタ」を参照。

### クラスの属性

特定のクラスが関わる操作を実行中の NetBackup の動作を制御するための設定パラメータ。

### グラビティ スタッカ

次に必要なテープに切り替えるためにグラビティに依存するロボット。

### グローバル属性

すべてのクラスに影響する NetBackup の設定属性。

## 権限

ユーザー、システム、またはアプリケーションが実行する権限を持っているタスクや機能。

## 検証

実際にボリュームに存在するファイルのリストと、NetBackup がボリュームにあると記録したリストとを比較する処理。メディア上のデータは検証されません。

## コマンドライン

ユーザーがコマンドラインやスクリプトから実行できるコマンド。

## サーバー側からの指示によるリストア

マスターサーバー上でクライアント インタフェースを使用して、ファイルを任意のクライアントにリストアすること。この操作は、管理者だけが実行できます。

## サーバーに依存しないリストア

バックアップの書き込みに使用したサーバー以外の NetBackup サーバーを使用して、ファイルをリストアすること。このオプションは、NetBackup DataCenter でのみ使用することができます。

## サーバー リスト

NetBackup サーバーへの接続を確立したり検証する場合に、NetBackup クライアントやサーバーが参照するサーバーのリスト。Windows NT/2000 サーバーと Microsoft Windows クライアントの場合は、このリストはインタフェース内のダイアログ ボックスで更新できます。UNIX サーバ、および UNIX クライアントと Macintosh クライアントの場合は、このリストは bp.conf ファイルで指定されています。NetWare ターゲットや OS/2 クライアントの場合は、このリストは bp.ini ファイルで指定されています。

## サービス

Windows NT/2000 システム上のプログラムで、バックグラウンドでいくつかのタスクを実行します (たとえば、別のプログラムを必要に応じて開始するタスクなどがあります)。通常、UNIX システム上ではデーモンと呼ばれます。

## 差分インクリメンタルバックアップ

マスター サーバー上の管理者がスケジュールするバックアップで、最後にインクリメンタルバックアップまたはフルバックアップが完了した後に変更されたファイルをバックアップします。一度もバックアップが実行されていない場合には、すべてのファイルをバックアップします（「累積インクリメンタルバックアップ」も参照してください）。

## システム管理者

インストールや設定を行うための特別な権限を付与されているユーザーで、システムの操作、ネットワークやアプリケーションの管理を行います。

## 自動バックアップ

マスター サーバーでスケジュールされたバックアップ。

## 障害回復

ディスクの破損やその他の障害が発生した後に実行する、バックアップからのデータの回復のこと。

## 冗長フラグ

ログに上位レベルの詳細を書きこむファイル エントリの設定。

## 除外リスト

自動バックアップから除外するファイルやディレクトリを指定するためのリスト。

## ジョブ

コンピュータに送られた処理の一部。NetBackup のジョブには、バックアップ、アーカイブ、およびリストアがあります。

## ジョブの強制終了

ジョブを強制終了 (kill) し、ジョブのキューから削除すること。

## シンボリック リンク

UNIX システムの場合、ソース データのあるファイルの名前へのポインタのこと。

## スケジュール

バックアップを実行する時期を、バックアップのタイプ（フルかインクリメンタル）や NetBackup でバックアップ イメージを保持する期間などの情報と共に制御します。



## スタンドアロン

ドライブおよびメディアに使用される修飾語句で、それらがロボットと関連付けられていないことを表す。たとえば、スタンドアロン テープドライブとは、テープの選択後に、そのテープを手動でロードする必要があるテープドライブのことを指します。スタンドアロン ボリュームは、スタンドアロン ドライブ内のボリュームか、ドライブ以外の場所に格納されているボリュームで、ボリュームの設定で「スタンドアロン」と指定されたものです。

## ステータス コード

数値コードで、通常は、操作の結果を表すメッセージが続きます。

## ストレージ ユニット

NetBackup や Storage Migrator のファイルが格納されるストレージユニット デバイス。  
ストレージユニットは、1 台のロボット内のドライブ一式や、同一ホストに接続されている1つまたは複数のテープドライブを指す場合もあります。

## スレーブ サーバー

「リモート メディア サーバー」を参照。

## セッション

実行時期になったバックアップがないかどうかをスケジュールで調べ、ある場合はそのバックアップをワーク リストに追加し、ワーク リストのすべてのジョブの完了を試みる NetBackup のインスタンス。ユーザーが実行するバックアップとアーカイブの場合は、通常セッションには単一のバックアップかアーカイブが含まれます。

## 設定、構成

アプリケーションの動作を管理するパラメータ。この用語は、「ネットワークの構成」のように、ネットワークやシステムのレイアウトや接続方法に対しても使用されます。

## タイムアウト期間

イベントが発生するようにアプリケーションによって割り当てられた期間。

## ターゲット

「ターゲット サービス」を参照。

## 用語集

---

### ターゲット サービス

ストレージ管理を必要とする Novell NetWare のサービス。SMS では、すべてのサービス（出力サービス、通信サービス、ワークステーションなど）をターゲットとして表示します。

### ディスク

磁気メディアまたは光学メディア ディスク ストレージ メディアのこと。

### ディスク イメージ バックアップ

Windows NT 上のディスク ドライブをファイル システムごとバックアップするのではなく、ビットごとにバックアップすること。

### ディレクトリ ツリー

ディスク上で編成されているファイルの階層構造。それぞれのディレクトリにはファイルやそのツリーの直下にあるディレクトリが列挙されています。UNIX では、最上位のディレクトリをルート ディレクトリと呼びます。

### ディレクトリの深さ

現在のディレクトリより下位の階層の数。NetBackup インタフェースの各ディレクトリと、ファイルリストに表示されます。

### データベース エクステンション クライアント

「データベースエージェント クライアント」を参照。

### データベースエージェント クライアント

リレーショナル データベースをバックアップするように設計された、オプションの NetBackup ソフトウェアがインストールされているクライアント。

### デバイスの遅延

ストレージ アプリケーションから制御できないデバイスにより生じた遅延のこと。たとえば、読み込みヘッドや書き込みヘッドの下にテープを配置するために必要な時間などがあります。

### デバイス ホスト

ドライブやロボティック コントロールが接続あるいは定義されている Media Manager ホスト。

## デバイス モニタ

**Media Manager** ストレージ デバイスの監視や手動による制御を行うことができる **Media Manager** 管理ユーティリティ。たとえば、システム管理者やコンピュータ室のオペレータは、このユーティリティを使用して手動でデバイスをリセットしたり、アップまたはダウン状態に設定することができます。

## デバッグ ログ

「アクティビティ ログ」を参照。

## テープ オーバーヘッド

データ中には必要であるけれども、バックアップ イメージの一部ではない領域のこと。たとえば、テープ内のテープ マークとカタログはオーバーヘッドとみなされます。

## テープ形式

テープにデータを書き込むためにアプリケーションが使用する形式。

## テープのスパン

1 つのバックアップ イメージを格納するために複数のテープを使用すること。

## テープ マーク

テープ内のバックアップ イメージの間で記録されるマーク。

## デーモン

UNIX システム上のプログラムで、バックグラウンドでタスクを実行します（たとえば、別のプログラムを必要に応じて開始するタスクなどがあります）。**Windows NT/2000** システムの場合、通常、サービスやプロセスと呼ばれます。

## 転送速度

ソースと転送先の間で、コンピュータの情報が転送される速度のこと。

## トゥルー イメージ リストア (True Image Restore)

あるディレクトリの内容を、スケジュールされた任意のフル バックアップまたはインクリメンタルバックアップが実行されたときの状態にリストアします。削除されたファイルは無視されます。

## ドライブ クリーニング

特別なクリーニング テープを使用してドライブのヘッドをクリーニングすること。

## 用語集

---

### 取り込みリスト

バックアップから除外するために除外リストに追加したファイルやディレクトリを、バックアップするように指定するためのリスト。

### パスの長さ

パス名の文字数。

### バックアップ

ファイルとディレクトリをコピーし、ストレージメディアに保管する処理（例：バックアップが完了しました）。この用語は、バックアップやアーカイブ中に **NetBackup** がクライアントに保管するデータの集まりを示すこともあります（例：バックアップを複製する）。

また、「バックアップ」は、「バックアップする」というように動詞としても使用します（例：ファイルをバックアップする）。

### バックアップ、アーカイブ、およびリストア インタフェース

**NetBackup** の **Microsoft Windows** と **Java** ベースのクライアント ユーザー インタフェースの名前。サーバー上では、これらのインタフェースは **NetBackup** 管理インタフェースから起動することができます。

### バックアップ ウィンドウ

バックアップの開始が可能な時間帯。

### バックアップ処理

ファイルとフォルダをコピーし、ストレージメディアに保管する処理。

### パッチ

既に提供しているソフトウェアの問題を修正したり、機能を追加するためのプログラム。

### パーティション

磁気ディスクが分割される論理パーティション。

### ハード リンク

**UNIX** の場合は、ハード リンクはデータの **i** ノードへのポインタを示します。  
**Windows NT/2000** の場合は、ハード リンクはファイルのディレクトリに対するエンタリになります。

すべてのファイルに、少なくとも1つのハードリンクがあります。NTFS ボリュームの場合は、各ファイルが複数のハードリンクを持ち、1つのファイルを複数のディレクトリ（または別の名前を持つ同じディレクトリ）に表示することができます。

### ヒープ レベル

Novell NetWare または Windows NetBackup クライアント上でメモリ ヒープをデバッグするためのパラメータ。

### 非ロボティック

「Storage Migrator」を参照。

### 頻度（バックアップ）

NetBackup がスケジュールされたバックアップを実行する頻度。たとえば、頻度が7日の場合、バックアップは毎週1回実行されます。

### 負荷

システムが実行する処理の量、またはネットワーク上のトラフィックのレベル。たとえば、「ネットワーク負荷はパフォーマンスに影響を与える」のように使用します。

### プライマリ コピー

リストアの要件を満たすために NetBackup が使用するイメージのコピー。NetBackup がイメージを複製すると、オリジナルのイメージがプライマリコピーとして指定されます。

### フラグメント

バックアップまたはアーカイブ イメージの一部。NetBackup では、イメージが一定のサイズ以上になった場合や、複数のテープをまたがる場合に、イメージをフラグメントに分割するよう設定できます。

### フラッシュ レベル

Novell NetWare または Microsoft Windows のクライアント プラットフォーム上で、Netbackup がログ ファイルをクリアする頻度を制御します。

### フルバックアップ

指定したディレクトリより下にあるファイルとディレクトリをすべてストレージユニットにコピーするバックアップ。

## 用語集

---

### プロキシ リストア

プロキシ リストアを使用すると、ユーザーは、あるファイルへの書き込み権限を持っている場合に、別のマシンからそのファイルをリストアすることができます。リストアするファイルは、リストアを実行するマシンでバックアップされている必要があります。

### プログレス レポート

ユーザーの操作中に発生したイベントを NetBackup が記録したログ。

### ブロック サイズ

バックアップ中にメディアに書き込まれる各データ ブロックのバイト数。

### 別クライアントへのリストア

別のクライアントからバックアップしたファイルを、作業を行っているクライアントにリストアします。管理者はマスターサーバー上のインタフェースを使用して、どのクライアントに対してもリストアを実行することができます（この処理を「サーバー側からの指示によるリストア」といいます）。

### 別ターゲットへのリストア

NetBackup ターゲット バージョンのクライアント ソフトウェアを実行中の Novell NetWare サーバー プラットフォームでこの処理を実行すると、バックアップを実行したターゲット以外のターゲットにファイルがリストアされます。

### 別パスへのリストア

バックアップを実行したディレクトリ以外のディレクトリにファイルをリストアします。

### ホスト

アプリケーション プログラムを実行するコンピュータ。

### ホスト名

ネットワーク内のプログラムや他のコンピュータがホスト コンピュータを識別するために使用する名前。

### ポート

コンピュータから出たり入ったりするデータを転送する際に使用する位置のこと。

## ボリューム

**Media Manager** ボリュームは、データストレージの論理ユニットで、**Media Manager** のボリューム データベースに記録されているメディア ID と、その他の属性が割り当てられているメディアをクリーニングする機能を持ちます。

## ボリューム グループ

**Media Manager** で、同一の物理ロケーション（たとえば、特定のロボットなど）に常駐するよう設定されたボリュームの集まり。

## ボリューム設定

**Media Manager** のボリューム データベースに格納される設定情報。

## ボリューム データベース

**Media Manager** がボリュームについての情報を保存する内部データベース。すべての **Media Manager** ホストが、1 つのボリューム データベースを持っています。ただし、そのホストがボリューム データベース ホストとして指定されない限り、データベースは空白になります。

## ボリューム データベース ホスト

**Media Manager** がデバイス内で使用するボリュームについての情報保存に指定された、**Media Manager** ホスト。**NetBackup BusinessServer** では、1 台のサーバーしか使用できないため、常にボリューム データベース ホストが **Media Manager** ホストになります。

## ボリューム プール

単一のアプリケーションで使用され、他のアプリケーションやユーザーからのアクセスを防ぐように **Media Manager** で設定されたボリュームの集まり。

## マウント

ボリュームを読み込みや書き込みが可能な状態にすること。

## マウント ポイント

ディスク上のファイル システムが論理的にシステムのディレクトリ構造に接続するポイントのことで、マウント ポイントを介してユーザーとアプリケーションからそのファイル システムを利用することができます。

## 用語集

---

### マスター オブ マスター

Global DataManager ソフトウェアがインストールされている NetBackup ホスト。このホストにログインすると、インタフェースにツリービューが表示され、ここで管理者は複数のマスターサーバーを表示したり、管理することができます。

### マスター サーバー

NetBackup のサーバーは、マスターサーバーとメディアサーバーのクラスタ内のすべてのクライアントとサーバーにおけるバックアップやリストアの管理や制御を行います。NetBackup BusinessServer は、1 台のサーバー（マスターサーバー）のみをサポートします。

### マスター サーバーとメディア サーバーのクラスタ

1 台の NetBackup のマスターサーバーと、追加ストレージとして使用する複数のリモートメディアサーバーのことを指します。クラスタを設定するには、NetBackup DataCenter サーバーが構成に含まれている必要があります。NetBackup BusinessServer は、1 台のサーバー（マスターサーバー）のみをサポートします。

### マニュアル ページ

UNIX のコンピュータシステムとアプリケーションが提供するオンライン マニュアル。

### マルチプレキシング

1 つ以上のクライアントから並行多重バックアップを単一のストレージデバイスに送り、それらのイメージをメディア上にインターリーブする処理。

### マルチプレックス グループ

単一のマルチプレキシングセッションで、一度にマルチプレキシングされた一連のバックアップのこと。

### マルチホスト ドライブ

複数の NetBackup サーバーと Storage Migrator サーバーで、（スタンドアロンおよびロボティックライブラリ内の）テープドライブを動的に共有させる VERITAS の別ライセンスのオプション（Shared Storage Option または SSO）です。

このオプションは、NetBackup DataCenter サーバーでのみ使用することができます。

### メディア

データが格納される、物理的な磁気テープ、オプティカルディスク、または磁気ディスク。



## メディア ID

記録されたラベルの一部としてボリュームに書き込まれる識別子。

## メディア サーバー

マスター サーバーとメディア サーバーのクラスタ内で、ストレージを提供する **NetBackup** サーバー。マスター サーバーをメディア サーバーとして使用することもできます。マスター サーバー以外のメディア サーバーは、リモート メディア サーバー（またはスレーブ サーバー）とも呼びます。**NetBackup BusinessServer** では、リモート メディア サーバーを使用することはできません。

## メディア ホスト

（クライアントの）ジョブがデータを送信する **NetBackup** サーバー。

## メニュー インタフェース

キャラクタ ベースのインタフェースで、グラフィカル機能のない端末から使用することができます。

## メール スロット

「入力ポートと出力ポート」を参照。

## 有効期限（イメージ）

**NetBackup** がバックアップ イメージのトラッキングを停止する日時。

## 有効期限（ボリューム）

物理メディア（テープ）の使用期限が切れる日時。

## ユーザー操作

クライアント システムからユーザーが開始したバックアップ、アーカイブ、またはリストア処理を示します。

## 呼び起こし間隔

実行時期になったバックアップがないかどうかを **NetBackup** が調べる間隔。

## ライブラリ

ロボットとその付属ソフトウェア。ライブラリには、データのストレージと検索に使用する、テープとオプティカル プラタの集まりが含まれます。たとえば、**Tape Library DLT (TLD)** は、TLD ロボティック コントロールのあるロボットを指します。

## 用語集

---

### ラベル

磁気ディスクまたは光学ディスクのボリュームの識別子。記録されたラベルには、メディア ID が含まれます。

バーコード ラベルによって、バーコード スキャナはメディアをトラッキングすることができます。

### リストア

過去に実行したバックアップから、選択したファイルとディレクトリをリストアし、元のディレクトリ（または別のディレクトリ）に戻す処理を指します。

### リストアする

過去に実行したバックアップやアーカイブから、選択したファイルとディレクトリをリストアし、元のディレクトリ（または別のディレクトリ）に戻す操作のことを指します。

### リソース

ターゲット上のデータセットを示す **Novell NetWare** 用語。たとえば、DOS の場合、リソースはドライブ、ディレクトリ、およびファイルになります。「ターゲット サービス」も参照。

### リテンション ピリオド

**NetBackup** がバックアップ イメージとアーカイブ イメージを保持する期間。リテンション ピリオドはスケジュールで指定します。

### リテンション レベル

ユーザーが定義したリテンション ピリオドを表すインデックス番号で、0 から 9 までの 10 レベルから選択できます。それぞれのレベルと関連付けられたリテンション ピリオドの設定は変更可能です。「ワイルドカード文字」も参照。

### リモート メディア サーバー

マスター サーバー以外のメディア サーバー。リモート メディア サーバーは、**NetBackup DataCenter** でのみ使用することができます。**NetBackup BusinessServer** では、1 台のサーバー（マスターサーバー）のみをサポートします。

### リンク

「ハード リンク」または「シンボリック リンク」を参照。

## 累積インクリメンタルバックアップ

マスターサーバー上でシステム管理者がスケジュールするバックアップで、最後にフルバックアップが完了した後に変更されたファイルをすべてバックアップします。一度もバックアップが実行されていない場合には、すべてのファイルをバックアップします（「差分インクリメンタルバックアップ」も参照してください）。

## ルート (root)

階層型ディレクトリ構造における最上位段階のディレクトリのこと。MS-DOSでは、ドライブ上のルートディレクトリは円記号 (¥) で示されます（たとえば、ドライブ C のルートは C:¥ になります）。UNIXでは、ルートディレクトリはスラッシュ (/) で示されます。

また、UNIXにおける管理機能を持つユーザのユーザ名としても使用されます（この場合は root と記述します）。

## レジストリ

ハードウェアとユーザーアカウントに関する設定情報が格納されている Microsoft Windows 2000、NT、98、および 95 のデータベース。

## レジデンス

Media Manager では、各ボリュームの位置情報はボリュームデータベースに保存されます。

レジデンスエントリには、ロボット番号、ロボットホスト、ロボットタイプおよびメディアタイプなどの情報が含まれます。

## ログ

コンピュータやアプリケーションがそのアクティビティについての情報を記録するファイル。

## ロードする

内部メモリにデータをコピーすること。たとえば、「インストレーションプログラムをロードする」のように使用します。

## ワイルドカード文字

検索時に任意の文字を表すために使用する文字。

用語集

---



## 索引

- B**
- bp.conf ファイル
    - 定義 149
  - bparchive コマンド 124
  - bpbackup コマンド 128
  - BPCD 120
  - bplist コマンド 134
  - bprestore コマンド 139
- D**
- DAT ファイル 65
  - DLT の定義 150
- H**
- HSM 151
- I**
- install\_path 151
- M**
- Media Manager ホスト
    - 定義 152
- N**
- NetBackup Client Service
    - 定義 153
  - NetBackup Database Manager Service
    - 定義 153
  - NetBackup Device Manager Service
    - 定義 153
  - NetBackup Request Manager Service
    - 定義 153
  - NetBackup Volume Manager Service
    - 定義 153
  - NetBackup セッション 165
  - NetBackup 設定オプション
    - 定義 153
  - NetWare Loadable Module 154
  - NLM (「NetWare Loadable Module」を参照)
- R**
- raw パーティションのバックアップ
    - 定義 155
- S**
- SMS (「Storage Management Service」を参照)
  - Storage Management Service 156
  - Storage Migrator 156
- T**
- TCP レベルのデバッグ 118
  - tpconfig の定義 158
- V**
- vm.conf ファイル
    - 定義 158
  - vmadm の定義 158
- W**
- WORM メディア
    - 定義 159
- X**
- xbp コマンド 147
- あ**
- アーカイブ
    - クラス 74、81
    - スケジュール 74、81
    - 定義 160
    - 必要な書き込みアクセス権 6
  - アーカイブ ビット
    - 差分インクリメンタル バックアップ 3
    - 定義 160
    - パラメータ 111
    - フル バックアップ 2
    - 累積インクリメンタル バックアップ 3

- アーカイブ ビットに基づいてインクリメンタルバックアップを実行 111
- アクセス権
  - ファイル 6
  - ユーザ指定のリストア 96
- い
  - インクリメンタルバックアップ
    - アーカイブ ビット 111
    - 差分 3
    - 累積 3
- う
  - ウィンドウ
    - 設定の保存 47
    - 説明
      - バックアップ 47
      - バックアップ、アーカイブおよびリストア 45
      - リストア 48
    - ツールバー 10
    - ファイルおよびフォルダの指定解除 10
    - メニュー 44
    - リストア
      - [アクション] メニューから開く 43
      - バックアップしたファイルやフォルダが表示されない 19、54
      - リストア (ツール イメージ)
        - [アクション] メニューから開く 43
      - リストア (アーカイブ)
        - [アクション] メニューから開く 43
- え
  - エスケープ文字、UNIX 121
- か
  - 管理者
    - 指定 1
      - バックアップ 2、5
      - リストア 4
    - 指定のリストア 5
    - 設定 109
      - 除外リスト タブ 112
      - トラブルシューティング タブ 117
      - 取り込み リスト タブ 114
    - ツール イメージのリストア手順 32
    - リストア オプション 105
    - リファレンス 93
- き
  - キーワード フレーズ
    - バックアップ手順 16
    - リストア手順 20
- く
  - クライアント
    - NetBackup マシンの指定 66、105、107
    - デーモン ポート 116
    - 別のクライアント 5
  - クライアント、NetBackup
    - 定義 162
  - クライアント ユーザー インタフェース 162
  - クラス
    - アーカイブ 74、81
    - サーバーの設定 48、106、108、110
    - タイプ 48、107
    - ツール イメージのリストア 32
    - バックアップ 28、49、81、113、114
    - バックアップ履歴ペイン 59
    - 複数 50
- け
  - 検索
    - 手順 28
    - デフォルトの検索 111
    - 特定のバックアップの日付 28
    - バックアップ、ダイアログ ボックス 83
- こ
  - 構文規則 120
  - コマンド、NetBackup 123
- さ
  - サーバー
    - 設定 48、93、106、108、110
  - サーバー側からの指示によるリストア
    - 定義 163
  - サーバー指定のリストア 5
    - 手順 96
  - サブメニュー
    - リストアのタイプの選択 48
- し
  - 詳細レベルのデバッグ 118
  - 除外リスト
    - UNIX クライアントでの例 122
    - 構文規則 120

- 設定タブ 61、112
- バックアップ メニューから追加 48
- す
  - スケジュール
    - アーカイブ 81、87
    - バックアップ 71、81、113、114
    - バックアップ履歴ペイン 58
  - スケジュールされた
    - 管理者指定の操作 2
    - バックアップ
      - インクルード ファイル リスト 115
      - 除外ファイル リスト 113
  - スタンドアロン
    - 定義 156
  - ストレージ ユニット
    - 定義 165
- せ
  - 全般的なレベルのデバッグ 117
- そ
  - 操作のステータスを保存する日数 110
- た
  - ターゲット サービス 166
  - タイムアウト
    - 時間 110
  - タイム オーバーラップ 110
  - タイムライン、バックアップ履歴ペイン 57
  - タブ
    - NetBackup マシンの指定
      - クライアント タブ 65、105、107
      - サーバー タブ 65
    - 設定
      - 除外リスト タブ 60、112
      - 全般タブ 60、110
      - トラブルシューティング タブ 64、65、117
      - 取り込み リスト タブ 61、114
      - ネットワーク タブ 116
      - バックアップ タブ 62、70
    - ダイアログ ボックス
      - 設定
        - トラブルシューティング 117
      - NetBackup マシンの指定
        - クライアント タブ 66
        - サーバー タブ 65
        - ソース クライアント タブ 105
        - デスティネーション クライアント タブ 107
      - 一覧のプレビュー 69
      - 指定したファイルのリストア 75
      - ステータスの表示 67
        - [アクション] メニューから開く 44
        - ステータスを表示する方法 26
        - バックアップの例 16
        - リストアの例 24
    - 設定
      - [アクション] メニューから開く 43
      - インクルード リスト 61、114
      - ウィルス スキャン 64
      - 除外リスト 60、112
      - 全般 59、110
      - トラブルシューティング 64、65
      - ネットワーク 116
      - バックアップ 63、73
      - ツールバーのオプション 70
      - バックアップ オプションの指定 73
      - バックアップの検索 83
- つ
  - ツールバー
    - ウィンドウ 10
    - ダイアログ ボックス 69
- て
  - ディスク イメージ バックアップ
    - 定義 166
  - ディレクトリ
    - アクセス権 6
  - データベース エクステンション レベル 118
  - デバッグ 117
  - デフォルト
    - 別のパスの使用 48
- と
  - トゥルー イメージのリストア
    - ウィンドウ
      - 開く 43
    - 説明 5
    - 手順 32
    - 表示されるフォルダ 50
  - トゥルー イメージ リストア

- 定義 167
- 特定のバックアップの日付 28
- 取り込みリスト
  - 構文規則 120
  - 設定タブ 62、114
- は
  - バックアップ
    - ウィンドウ 47
    - クラス 49、87、113、114
    - 差分インクリメンタル 3
    - スケジュール 81、113、114
    - 定義 168
    - 手順 12
    - トゥルー イメージ 3
    - フル 2
    - メニュー 66
    - 累積インクリメンタル 3
  - バックアップ、アーカイブおよびリストア
    - ウィンドウ 45
  - バックアップ イメージ、選択 57
  - バックアップ イメージの定義 161
  - バックアップ ウィンドウ
    - 定義 168
  - バックアップとアーカイブの一覧表示
    - アクセス権 6
- ひ
  - ヒープ レベルのデバッグ 118
  - 日付と時刻のスタンプ 58、111
    - 累積インクリメンタル 3
  - 非ロボティックの定義 169
  - 頻度 (バックアップ)
    - 定義 169
- ふ
  - ファイル
    - 指定したファイルのバックアップ 47
    - 指定したファイルのリストア 48
    - 指定と指定解除 66
    - 除外 113
    - 取り込み 115
  - ファイル アクセス権 6
  - フラッシュ レベルのデバッグ 118
  - フリーブラウザ 93
  - プログレス レポート
    - BPCD ログ 120
- [NetBackup Client Job Checker] 75
- [View Status] 81
- へ
  - 別クライアントへリストア
    - サーバー指定 5、96
  - 別ターゲットへのリストア
    - 定義 170
  - 別の
    - パスへのリストア 48
  - 別のクライアントへのリストア 5
  - 別パスへのリストア
    - 定義 170
  - 別パスへリストア
    - サーバー指定 96
  - 別クライアントへのリストア
    - 定義 170
  - ペイン
    - バックアップ ウィンドウ 48
    - リストア ウィンドウ 55
- ほ
  - ボリューム グループ
    - 定義 171
  - ボリューム データベースの定義 171
  - ボリューム データベース ホスト
    - 定義 171
  - ボリューム プール
    - 定義 171
  - ポート
    - クライアント デモン 116
    - リクエスト デモン 116
- ま
  - マスター サーバー
    - 指定のリストア 5
- め
  - メディア サーバー
    - 定義 173
  - メディア ホストの定義 173
  - メニュー
    - アクション 66
    - ウィンドウ 42
    - バックアップ 66
    - 表示 66
    - ヘルプ 44



- 編集 66
- リストア 66
- ゆ
- ユーザー指定の操作
  - ステータス 26、44、69
  - ツール イメージのバックアップ 5
  - バックアップ 12
  - バックアップの設定 63、73
  - リストア 18
- ら
- ライブラリの定義 173
- り
- リクエスト デモン ポート 116
- リストア
  - ウィンドウ 50
  - サーバー指定 105
  - 再試行 110
  - 定義 174
  - ツール イメージフォルダ 32
  - ファイル
    - 高度な手順 28
    - 手順 18
  - フォルダ 29
  - 別のクライアントへのサーバー指定 5
  - 別のパス 33、34、36、37
  - メニュー 77
  - リソース (「ターゲット サービス」も参照) 174
  - リテンションピリオド
    - 定義 174
  - リモート メディア サーバー
    - 定義 174
  - 履歴ペイン
    - 詳細な一覧 58
    - 説明 54
    - タイムライン 56
  - ツール イメージのリストア手順 32
  - バックアップの選択 28
  - 開く 55
  - リストア手順 30
  - リフレッシュ 45
- る
- 累積インクリメンタルバックアップ 3
- ルート (root) 175
- わ
- ワイルドカード文字
  - UNIX 除外リスト 120
  - UNIX でのエスケープ 121

